

令和5年度
生活文化調査研究事業（礼法）
報告書

文化庁 参事官（生活文化創造担当）

目 次

序 本調査研究事業について.....	1
1章 礼法の歴史と現状について.....	2
1節 日本における礼法の歴史について.....	2
1-1 礼法の概要.....	2
(1) 礼法について.....	2
礼法とは.....	2
(2) 担い手について.....	2
礼法に係る流派.....	2
その他の団体.....	3
(3) 礼法を構成する要素について.....	3
1-2 礼法の歴史.....	5
(1) 有職故実と武家故実.....	5
有職故実の形成について.....	5
武家故実の形成と展開.....	5
(2) 江戸時代の礼法の庶民への広まり.....	6
武家への小笠原家礼法の広まり.....	6
一般庶民への礼法の広まりと諸礼家の活動.....	6
(3) 西洋化の中での明治時代から昭和時代前半までの礼法教育.....	7
西洋文化の導入と礼儀作法の変化.....	7
学校教育における礼儀作法教育の展開.....	7
女子高等教育機関と礼法.....	8
国民礼法の構想.....	8
2節 現代における礼法の現状と社会的な位置付けについて.....	10
2-1 現代社会における礼法.....	10
(1) 現代社会における礼法.....	10
礼法の啓蒙書等に見る礼法の価値や評価について.....	10
学校教育における礼法、その教授の目的.....	10
啓蒙書や企業研修に見える礼法の捉え方について.....	11
(2) 礼法関係者の活動について.....	11
流派の活動.....	11
その他の団体.....	11
2-2 国民意識調査について.....	12
(1) 調査の概要.....	12
■調査設計.....	12
■調査結果を見る上での注意事項.....	13

(2) 調査結果概要	14
1. 属性	14
2. 共通設問	17
3. 単純集計の結果について	21
(3) 調査結果に基づく分析と考察	45
(4) 分析結果のまとめ	70
2-3 海外からの評価と国際発信	71
外国人から見た礼法に関する評価	71
礼法の国際発信について	71
2章 礼法団体・礼法教室の活動について	73
1節 礼法団体の活動について	74
1-1 礼法団体へのアンケート調査の実施概要	74
1-2 礼法団体・流派へのアンケート調査の結果概要	75
(1) 礼法団体・流派の普段の活動について	75
(2) 礼法の継承について	79
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について	82
1-3 まとめ	83
団体の活動内容	83
礼法の継承	84
新型コロナウイルス感染症の影響	84
2節 礼法教室の活動について	85
2-1 礼法教室へのアンケート調査の実施概要	85
2-2 礼法教室へのアンケート調査の結果概要	86
(1) 教室の活動状況について	86
(2) 教室での指導について	90
(3) 教室の運営について	93
(4) 教室外との関わりについて	94
2-3 まとめ	96
教室の活動内容	96
教室の指導内容	97
教室の運営	97
結 本調査研究事業のまとめ	99
参考資料 有識者(礼法)及び有識者会議検討経過	104
参考資料 礼法に関わる用具の原材料について	107
1. 手漉き和紙	107
(1) 折形における和紙の利用	107
(2) 市場動向	108

(3) 製造.....	109
(4) 課題.....	111
2. 水引.....	112
(1) 礼法における水引.....	112
(2) 市場動向.....	112
(3) 製造.....	113
(4) 課題.....	114
参考資料 国民意識調査調査票.....	115
(1) 属性.....	115
(2) フィルタリング・パート.....	116
(3) 分野設問.....	118
(4) 共通設問.....	162
参考資料 礼法団体・流派調査アンケート配布先.....	166

序 本調査研究事業について

1. 本事業の目的

文化庁では、平成 27 年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、礼法を含む生活分野に係る 8 分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施し、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和 2 年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産に関する実態把握を目的とした調査を実施し、報告書を公表している。

本事業においては、礼法をはじめとする 6 分野を対象として、令和 2 年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和 3 年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和 4 年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。令和 5 年度の調査研究事業は、上述した令和 3 年度、4 年度の礼法についての調査結果等を踏まえ、さらに礼法に関わる団体や教室のアンケート調査、礼法の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の礼法分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成 13 年法律第 148 号）

第十二条 国は、生活文化（茶道，華道，書道，食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに、国民娯楽（囲碁，将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2. 本事業の概要

本事業は、礼法がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

- ・ 礼法の成立、変遷を把握するための文献調査
- ・ 礼法への興味関心等に関する国民意識調査
- ・ 礼法の流派団体（以下この報告書では「礼法団体」という。）へのアンケート調査
- ・ 礼法教室へのアンケート調査
- ・ 礼法用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計 8 回の有識者会議を経て、受託事業者から提出された調査結果を元に、必要に応じて加筆・修正を加え報告書として取りまとめた。

なお、今回の調査では、礼法用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析を含め参考資料への掲載にとどめた。

1章 礼法の歴史と現状について

1節 日本における礼法の歴史について

1-1 礼法の概要

(1) 礼法について

礼法とは

今日言われている「礼法」とは、「礼儀作法」を意味した言葉として扱われている。「礼儀」は「相手を敬い、思いやる心」であり、その礼儀を身体の動作によって表現するために必要となる一定の規範としての「型」と「作法」が伴ったものが「礼法」と考えられている。

心と形が伴った礼儀作法は、社会生活の秩序を維持し、人間関係を豊かにする上でも大事な行動様式や習慣として、小学校や中学校の道徳の授業において、挨拶の仕方や言葉遣い、礼儀がどのような意義を持つのか等の教育が行われている。

今日における礼儀作法に密接に関わりがあると考えられているのが、伝統的な儀式礼法としての「礼法」である。一般的には、武家が継承してきた礼法、いわゆる「武家礼法」のこととされ、武家の礼法は、儀礼や芸道、武道にも用いられる場合が多い。また、食事の作法、子供の成長にあわせた通過儀礼、しつけやたしなみ、接遇をはじめとしたビジネスマナー等、現在の日本人の営みの広範囲に影響を与えてきたと考えられている。

(2) 担い手について

現在、礼法を担う団体として、武家故実に基づいた礼法を継承している小笠原流がある。これら流派において、門人としてあるいは受講生として、礼法を学ぶ人たちもおり、これらの人々も現代において礼法を継承し担っているといえる。

また、上記の流派において伝統的な礼法を身に付けた者が、伝統的な礼法の普及・啓蒙を目的として団体を立ち上げ、個人や企業に対して礼法だけではなく現代のマナー等の教授や研修を実施している例も見受けられる。

礼法に係る流派

現在、武家故実に基づく礼法を継承する小笠原流の各流において、礼法の伝承や普及啓蒙等の活動が行われている。

小笠原流の流派の1つは、弓術・弓馬術・礼法を伝承しており、教場を設けて門人の育成を図り、神社への技芸の奉納を行うほか、礼法に関する啓蒙書の刊行や講座を開き、伝統的な技術の継承や啓蒙活動を行っている¹。

また、武家故実の礼法のみを継承している流派では、礼法に係る作法等を段階的に学び、教授者

1 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年

としての資格が得られる免許・資格制度を設けて礼法指導者の育成を図っている²。

その他の団体

武家故実における礼法では、起居進退^{ききょしんたい}や辞儀^{のし}の仕方、所作だけではなく、熨斗^{のし}や水引、折形^{おりがた}の扱い方も礼法の一要素として位置付けられてきた³。そのうち、折形を伝えるために活動を行っている団体や、伝統的な水引の扱い方等を伝承している流派がある。また、武道における礼儀に特化した団体等も見受けられる。

(3) 礼法を構成する要素について

現在、小笠原家の各流派は、礼法に関する普及や啓蒙活動を継続的に行っており、啓蒙書が刊行されているほか、門人の育成を目的として教場や稽古場を開設したり、礼法の普及や啓蒙を目的としてカルチャーセンターで講座を開設したりしている。これらの啓蒙書や稽古場や講座での教授内容からは、礼法がどのような要素で構成されているかをうかがい知ることができる。

まず、啓蒙書を確認すると、礼法を生かし実践する上で、普段の姿勢や歩き方等の身体をどのように適切に扱うかが礼法の基本であるとしている。その上で、時・場所・自身が置かれている状況等に応じて、合理的、道徳的でありかつ美しい振る舞いを基本としていることが説かれている⁴。

次に、礼法の教授を行っている教室に関するウェブページや、カルチャーセンターの講座紹介ページには、主な教授内容として、以下のような項目が挙げられている⁵。

- ・姿勢や起居進退（立ち方・座り方・歩き方）、などの基本動作
- ・お辞儀、前通りの礼や行き逢いの礼
- ・お茶やお菓子、座布団等の進撤
- ・扇子や団扇、本等の進撤
- ・障子や襖、戸や扉の開閉
- ・訪問する側・迎える側としての心得
- ・部屋のしつらいやもてなしの心得
- ・熨斗袋や風呂敷の扱い方
- ・折形、水引、紐結びを含めた贈答の心得
- ・箸や碗、杯の扱い、食事の作法
- ・年中行事、慶事や弔事の心得

2 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年

3 折形は、贈答品等を紙で包むため折り方やその包み方のことで、小笠原家をはじめ、伊勢家等の武家礼法の各家において継承されてきた。

4 小笠原清信『小笠原流』（学生社、昭和42年）、小笠原敬承斎『小笠原流礼法 美しいマナー心得』（PHP研究所、平成15年）及び小笠原清忠『日本人の9割が知らない日本の作法』（青春出版社、平成28年）を参照した。

5 小笠原流礼法 HP（URL:<https://ogasawararyu-reihou.com/lessons.html>）及び、NHKカルチャー（URL:https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_430765.html）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

- ・書礼礼（書状や手紙の書き方）、料紙や硯箱の扱い
- ・言葉遣い 他

また、各流から刊行されている礼法に関する啓蒙書に記載されている内容においても、起居進退、身体の回し方、辞儀（お辞儀）、食事に関する作法といった日常で必要となるような所作や動作が、礼法の基本として挙げられている。加えて、これら所作や動作を規範として、慶事や弔事、催事等それぞれの状況に応じた最適な礼を示すための知識や方法等が示されている。

この点について、辞儀の仕方を例として挙げると、頭の下げる角度や呼吸の深さにより礼の度合いや敬い方が異なるものとされている。これは、辞儀をする際の基本的な姿勢・動作・所作や作法があり、その上で自分と相手の関係において自らの立場がどのようなものであるか、自分がどのような状況に置かれているのかを適切に判断した上で、最適と思われる辞儀を行うことが相手への礼を示すことであるとの考えが説明されている。

以上のように、武家故実における礼法においては、適切な姿勢や歩き方等の基本的な身体の扱い方が礼を示すための根本としてあり、その根本を踏まえた上で、礼を示すために適切とされる立ち居振る舞い等の基礎となる身体動作や所作があることが分かる。

基本となる身体の扱い方—姿勢や歩き方、座り方—を身に付け、時や場所、自らが置かれている立場や状況を判断し、規範となる所作や作法をもって最適な礼の表現を行うことが、礼法の基本的な要素であることがうかがえる。

〈主要参考文献〉

- ・小笠原清信『小笠原流』学生社、昭和 42 年
- ・熊倉功夫『文化としてのマナー』岩波書店、平成 11 年
- ・綿拔豊昭『礼法を伝えた男たち』新典社、平成 21 年
- ・陶智子『日本人の作法』平凡社新書、平成 22 年
- ・小笠原清基『小笠原流 美しい大人のふるまい』日本実業出版社、平成 27 年
- ・小笠原敬承斎『小笠原流礼法入門 日本人のこころとかたち』淡交社、平成 29 年

1-2 礼法の歴史

(1) 有職故実と武家故実

有職故実の形成について

平安時代初期、朝廷の儀礼を記載した「内裏式」が法制として定められたのをはじめ、その後、『貞観儀式』や『延喜儀式』等の官選儀式書の編纂が進んでいくとともに、儀式次第や儀式を行うにあたり必要とされる作法等が形作られていった。これらは、後世の宮中において規範とされた。また、平安時代中期には、私選の儀式書が編まれるなど、家ごとの作法も確立していった。

朝儀や祭事、四季の行事等のあり方、行事によって必要とされる作法をはじめとした規範となる先例は「故実」と呼ばれる。そうした故実をもとに当時の公家たちが体系化して継承したものを「公家故実」と呼ぶ⁶。著名な「公家故実」の流派としては、主に藤原実資のさねすけ小野宮流と藤原師輔のもろすけ九条家流が挙げられる。実資は『小野宮年中行事』、師輔は『九条年中行事』といった儀式書を子孫のためにまとめており、この中には宮中におけるくじ公事や儀式に関する一連の行事次第とあわせて、辞儀（ゆう揖やしやぎ謝座等）を行う場面等、行事に臨む際に必要な作法についても記載されている。

武家故実の形成と展開

貴族社会において形成・発展した「公家故実」がある一方、軍事貴族である源頼朝が鎌倉幕府を開き、武家政権が求心力を有した鎌倉時代の社会では、武家の故実も次第に形成された。

そもそも、有力御家人の多くは秀郷流藤原氏など京都の貴族の末裔であり、弓馬の術についても家ごとに故実があった。そのため、頼朝は配下の御家人たちに、騎射の作法などで統一した様式の実践が企図されるなど、故実の整理がはかられていった。

四代藤原頼経以降、鎌倉幕府の将軍位は摂家や親王の出身者で占められ、それに随行して京都から関東に下向する公家たちも多く現れた。その結果、関東の武家社会は、多くの公家故実・文化を摂取していった。

やがて、南北朝時代に京都で室町幕府が成立すると、公家と武家との直接的交渉の機会も増えた。また、3代将軍足利義満は内乱で弱体化した朝廷の復興に尽力し、自らも朝廷儀礼に参画するなど、公武にまたがって主導的役割を果たした。

そうした動向もあって、武家の行事や法令・制度・風俗・習慣・役職・儀式・装束等の知識が体系化され、「武家故実」⁷として形成されていった。特に、足利将軍に近侍して武家故実の形成に深く関わった伊勢家や京都小笠原家、数代の将軍に仕え武家故実を蓄積した大館尚氏おおだちひさうじなどが、武家故実の指導等を担う中心的な存在となり、多数の武家故実書を後代に伝えた⁸。室町時代に定められた

6 故実に関する知識体系やその知識を有する者を「有職」という。

7 武家故実には、礼儀作法や、弓術・馬術・軍陣など武家社会に関わる故実全般が含まれる。

8 武家故実書の例としては、伊勢家の伊勢貞頼が殿中での作法や心得などをまとめた『宗五大草紙』や、京都小笠原家の小笠原持長が弓の法式や故実をまとめた『射禮私記』や『流鏑馬次第』、大館尚氏が書札礼について記した『大館常興書札抄』等がある。このほか、信濃小笠原家では小笠原長秀が各種武家故実をまとめた『三議一統大双紙』や、今川家の今川了俊により弓や兵法、奉仕の心得などをまとめたものを抜書した『了俊大草紙』のように、各武家によってまとめられた故実書がある。

武家儀礼の多くが江戸時代の武家社会でも規範になっていく。

(2) 江戸時代の礼法の庶民への広まり

武家への小笠原家礼法の広まり

戦国時代を経て、社会が安定に向かった江戸時代には、儀式等に関する故実やそれに伴う様々な作法等が重んじられるようになる。3代将軍徳川家光の頃になると、高家（伝統的な礼法の実技を中心とするもの。勅使のもてなしや日光代参等）と武家故実家（弓馬や軍陣における実践的な故実と幕府や主君の前における儀礼や作法等の故実を体系化し通じる者）の体制がとられ、前者には公家・武家の儀礼に詳しい吉良家・一色家等が、後者には信濃小笠原家（以下、単に小笠原家と称す）の子孫の二流（縫殿助家と平兵衛家）と伊勢家が旗本として就いた。

江戸時代は将軍家を頂点とする封建社会であり、諸藩は将軍家にあわせて、藩校等で口伝や礼法書の筆写等により武士階級に小笠原家の礼法を学ばせた。武士にとって、武芸同様、礼法は大切なたしなみとなり、近世初期に整備された小笠原家の礼法が全国的に広がることになった。

一般庶民への礼法の広まりと諸礼家の活動

社会の安定に伴って、商人をはじめ江戸時代の一般庶民も私塾や寺小屋、個人指導等で礼法を学ぶようになり、庶民の間で「小笠原流」の礼法が広く流布した。

江戸時代の一般庶民に広く礼法を広めた諸礼家の一人に、水嶋卜也^{みずしまぼくや}がいる。水嶋は、小笠原総領家が藩主であった豊前小倉藩の藩士・斎藤三郎右衛門久也から小笠原家の礼法を学んでいた。同人は、5代将軍徳川綱吉の子、徳松の髪置きの儀で名を挙げたとされ、江戸に礼儀作法の道場を開き、多くの門弟を抱えた。中でも、「女礼」（武家の女性向け礼儀作法）に着目し、男性向けの礼儀作法書を参考にしながら女性の礼儀作法を説いたことでも知られる。同人の門弟は「小笠原流」と称し、水嶋から教授された小笠原家の礼法を民間に教えており¹⁰、民間で行われてきた婚姻儀礼の形式等に小笠原流の影響が見られるものがある¹¹。

このような民間への礼法普及の一つの要因として、礼法という形のないものを一般の人々に伝授することによって収入が得られるようになったことが挙げられる。江戸時代には、藩校等で礼法を学んだ藩士が脱藩して諸礼家として礼法を生業にするケースが多く見られた。

加えて、印刷技術が発達した江戸時代には『和礼儀統要約集』^{われいぎとうようやくしゅう}など礼儀作法に関連する書物も多数刊行された。挿絵が豊富な本等も刊行され、代表的なものに文化6年（1809）の浮世絵師のほつきょうぎよくざん 法橋玉山筆・石玉峯^{いしだぎよくほう}画による『〈児童躰方面図手引〉小笠原諸礼大全』があり、これは明治時代に入っても刊行されていた。ほかにも礼儀作法については、当時の教養書である「往来物」で取り上げられており、江戸を訪れた人の土産用として辻売り用に刷られたと考えられる

9 水嶋姓の表記は資料によって、「水島」「水寫」と表記するものもあるが、本稿では「水嶋」と表記する。

10 陶智子『近世小笠原流礼法家の研究』（新典社、平成15年）では、水嶋及び水嶋の門流を含めた、近世の諸礼家の系統と伝書について詳述されている。

11 村尾美江『小笠原流礼法と民俗—婚姻儀礼と熨斗—』（雄山閣、令和元年）p. 15-145

『小笠原男女諸礼しつけかた』等も刊行されている。

(3) 西洋化の中での明治時代から昭和時代前半までの礼法教育

西洋文化の導入と礼儀作法の変化

明治維新後、衣食住の洋風化が進み、礼儀作法もそれに適応したものが求められた。それまでの日本の礼法は、座っていることを前提とした身体動作や作法や所作中心であったが、テーブルでのマナーや、「立礼（立って行う礼、作法）」等の礼儀作法が加わっていく。これは西洋との交流等、日本の近代化に応じた変化であった。

その背景として、明治時代初期には、『童蒙をしへ草』（福沢諭吉訳）や、『英米礼記』（矢野龍溪（文雄）抄訳）、『泰西礼法』（高橋達郎訳・川本清一検閲）、『英国交際儀式』（渡辺豊訳述）等、学校教育での子供用や大人用などの多数の西洋の礼儀作法書等が翻訳・刊行されており、西洋のマナーへの関心の高まりがうかがえる。一方で、急速な西洋の礼儀作法の導入への反発から、礼儀作法に関する建白書も多数提出されていたことが指摘されている¹²。

学校教育における礼儀作法教育の展開

このような状況の中、礼法家である小笠原清務は、女性への礼法教育の必要性を訴え、明治13年（1880）に東京府に「学校において女礼教脩之儀上稟」を提出した。その結果、神田小川小学校において女礼式の授業が行われるようになり、同人がその教授を担当した¹³。

次いで明治14年（1881）5月には「小学校教則綱領」が定められ、「修身」の一部として「作法」が取り入れられ教授されることになった。

「小学校教則綱領」が定められた同年同月には、小笠原清務・水野忠雄を編集兼出版人とした『小学女礼式 第一』が刊行された。同書「序」には、小笠原清務が女礼式に関する教授を東京府の学校教員に行った際の経験等を踏まえて書き記したとある。

同書の内容は、女礼式にて教授する項目、「起居進退」、「物品薦撤」（物品を客に進めたり、退いたりする際の作法）、「陪侍周旋」（主人のそばで御用する際の礼法）、「授受捧呈」（物品を授受したり、捧げたりするときの作法）、「進饌程儀」（食事を出したり、進めたりするときの作法）、「飲食程儀」（食事をする際の作法）について、具体的な身体動作と所作を詳述している¹⁴。

また、明治16年（1883）に、小笠原清務・水野忠雄により『新撰立礼式』が編まれた。同書は、「坐礼」の記載はなく、欧米式の立って行う動作・立ち居振る舞いに関したものである。同年には、文部省（現：文部科学省）が『小学作法書』を刊行し、以後、礼法に関する教科書が数多く刊行された。なお、この時期の教育の場における礼法関係の呼称は、「作法」以外に「礼式」「礼法」「容

12 熊倉功夫『文化としてのマナー』（岩波書店、平成11年）。同書では、西洋文化の導入が礼儀作法に及ぼした影響について指摘しており、建白書の例として、明治13年（1880）に青森県の渡辺村男より提出された建白書の文言を引いて当時の状況について説明している。

13 江口敦子・住田昌二「礼法教育の研究（第1報）小学校における礼法の成立過程」（『日本家庭科教育学会誌』26巻2号、日本家庭科教育学会、昭和58年 p.13-17）

14 小笠原清務・水野忠雄著『小学女礼式』同源社、明治14年

儀」とも表記されることがあった。

女子高等教育機関と礼法

当時、小学校以外でも礼法教育が行われており、女子教育の一環で学生に礼儀作法を学ぶ機会を設けている学校があった。例えば、明治8年(1875)に跡見花蹊^{あとみかけい}が創立した跡見学校(現:学校法人跡見学園)では「点茶」の教授を通じて礼儀作法を学ぶ機会が設けられていたとされているほか¹⁵、明治15年(1882)に創設された東京女子師範学校附属高等女学校では、「女礼」の科目が設けられていた例などがある。

しかし、これらの中等教育を受けた後に女性が高等教育を受けることができる機関は、教師になるための女子高等師範学校の門戸が開かれているのみという状況にあった。このため、明治時代末期から大正時代にかけて高等教育を受けたい女子生徒に対して、社会参加や自立、職業進出を支援するための私学塾や、私立女子専門学校が設立されるようになっていった。特に大正時代から昭和時代にかけて中等教育を修了した者が学ぶ専門学校も数多く設立された¹⁶。

以上のような経緯で設立されていった女子高等教育機関のうち、授業科目に礼法を取り入れた学校が見られる。明治32年(1899)に下田歌子が創立した実践女学校(現:学校法人実践女子学園)では、学科課程の「家政」において「礼式」が教授されている¹⁷。大妻コタカが立ち上げた裁縫・手芸の塾である大妻技芸伝習所(大正10年(1921)に大妻高等女学校。現:学校法人大妻学院)では、必須科目として「修身」があり、礼法教育者であった甫守謹吾^{ほもりきんご}がこの科目の顧問を務めていた¹⁸。大妻自身も『日常常識礼儀作法』や『礼儀作法』等、礼儀作法を扱った書籍も執筆している。

このように、明治・大正時代の教育者が高等教育機関において実学としての礼法教育に積極的に取り組み、社会に送り出していたことがうかがえる。

国民礼法の構想

昭和時代の前半、国民礼法の構想が立ち上がる。昭和10年(1935)、作法教育の強化を目的に中等教育会・全国高等女学校長協会合同で、中等学校の作法科教員教育協議会が開催され、昭和13年には文部省の「作法教授要項調査委員会」(委員長:徳川義親^{よしちか})が設置された。その結果、昭和16年4月に文部省が『礼法要項』¹⁹を発表、これに伴い、『国民学校児童用礼法要項』『(文部省制定)

15 従来、跡見学校において「点茶」が礼儀作法を学ぶ目的で設けられていたとされていたが、小林善帆「明治初中期の女子教育といけ花、茶の湯、礼儀作法 遊芸との関わりを通して」(『日本研究』64巻、国際日本文化研究センター、令和4年3月 p.51-89)では、「点茶」が学科目として設けられていなかった点や、後に小笠原流の作法が科目として設けられていた点などを指摘しており、「点茶」の教授目的が一義的に礼儀作法を学ぶためだけに行われていたと考えにくい点を示唆している。

16 高橋真央「女性の高等教育機関としての女子大学の変遷～過去から現在、そして未来へ～」(『甲南女子大学研究紀要I』第55号、甲南女子大学、平成30年 p.29-42)

17 「女子教育の胎動と学園の幕開け(新潟青陵大学HP)」(URL:<http://www.n-seiryu.ac.jp/about/history/prologue/>) 最終確認日:令和6年2月15日

18 『大妻学校の過去と現在:設立十周年記念』大妻学校同窓会、大正15年

19 『礼法要項』は、礼法趣旨、前篇、後篇で構成されており、前篇は姿勢、拝礼、敬語・挨拶、言葉遣い、服

昭和の国民礼法』『昭和国民礼法要項』『礼法要項（要義）』等の解説本も刊行された。しかし、『礼法要項』に基づいた教育は太平洋戦争の激化で頓挫した。

〈主要参考文献〉

- ・『礼法要項』（『文部時報』第720号、文部省、昭和16年）
- ・二木謙一『中世武家儀礼の研究』吉川弘文館、昭和60年
- ・伊勢貞丈・島田勇雄校注『貞丈雑記1～4』平凡社、昭和60年
- ・熊倉功夫『文化としてのマナー』岩波書店、平成11年
- ・二木謙一『中世武家の作法』吉川弘文館、平成11年
- ・陶智子、綿抜豊昭編著『近代日本礼儀作法書誌事典』柏書房、平成18年
- ・綿抜豊昭『礼法を伝えた男たち』新典社、平成21年
- ・陶智子『日本人の作法』平凡社新書、平成22年
- ・筑波大学付属図書館特別展「明治時代に礼法はいかにして伝えられたか—出版メディアを中心に—」筑波大学付属図書館、平成24年

装など全9章、後篇は「皇室・国家に関する礼法」「家庭生活に関する礼法」「社会生活に関する礼法」の3部・全26章から成る。

2 節 現代における礼法の現状と社会的な位置付けについて

2-1 現代社会における礼法

(1) 現代社会における礼法

礼法の啓蒙書等に見る礼法の価値や評価について

現在、礼法や礼儀作法に係る啓蒙的な書籍が数多く刊行されている。

礼法や礼儀作法の書籍は、第2次世界大戦以前においても数多く刊行されており、とりわけ家庭・一般向けの書籍が数多く刊行されていた。この傾向は戦後も続き、家庭でのしつけやたしなみ、また、冠婚葬祭等での礼儀作法の解説に力点が置かれた書籍の発刊が続いた。

1960年代後半以降は、ビジネスマナーとも関連させた書籍が出版されるなど、その主旨や目的、読者層の傾向にも変化が見られるようになった。また、同時に、武家礼法の歴史や礼法の仕方等を啓蒙する書籍も出されている。

近年では、小笠原家の各家や関係者によって礼法及び礼儀作法の啓蒙的な書籍が刊行されている。これらの傾向としては、ビジネスマン向けや女性向け、子供向け等、どのような対象に対して礼法を啓蒙するかにより、その内容を変えながら刊行されていることがうかがえる。

以上のように、礼法の啓蒙書は、今日まで様々な読者層に向けた書籍の刊行が継続的に行われてきた。戦後以降、家庭向けにしつけや礼儀作法を啓蒙するための教養書だけではなく、武家礼法の歴史や意義を啓蒙する書籍、ビジネスマンや女性向けの実用書等、特定の読者層に向けた啓蒙書が刊行されている。

現在でも、礼法の啓蒙書が数多く出版されている状況から推察されるように、礼法や礼儀作法は私たちの日常生活の様々な場面に応じて必要とされており、多くの人々は、場面に応じた礼をどのように示したら良いのか、また、場面や状況をどのように判断すればよいのか等を、啓蒙書を参考として必要に応じて礼儀作法を学んでいるものと考えられる。

学校教育における礼法、その教授の目的

戦前は、公的な学校教育機関及び私立の学校において礼法の教授が行われていたが、現在の学校教育では、一般的な礼儀作法に関する指導は、主に道徳の授業内で行われている。その一方、今日においても一部の学校では、学校教育の中で伝統的な礼法を授業に取り入れているところもある。また、キャリア教育の一環として礼儀作法を学ぶ機会を設ける大学もある。

また、伝統文化を尊重する教育のモデル事業や実践研究として、礼法を取り入れた事業を行っている事例が、国立教育政策研究所による「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」、「伝統文化教育実践研究」等において確認することができる²⁰。

以上のように、戦後以降も礼法は私立学校の授業等で実施されていることが見え、学生が社会に

20 「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業の研究主題-平成 18・19 年度-」国立教育政策研究所教育課程研究センター (URL:https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/list/dentou_118-21.pdf) 最終確認日：令和6年2月15日

出た際に必要とされるような能力を身に付けてもらうことを目的として行われている傾向が見られる。

啓蒙書や企業研修に見える礼法の捉え方について

学校や大学等において礼法が教えられている例があるほか、企業の新入社員教育等でもマナー教育との関わりで礼法の教授が行われている場合がある。これは礼法が、接遇等の技術習得だけでなく、組織人としてのあり方や身の処し方、日常の振る舞い、周囲の人々に対する配慮の仕方等に関して、規範となるものと捉えられているものと考えられる。近年では、企業経営における「礼節」の重要性に特化し、個人や組織における礼儀正しさの効用を分析したマネジメント書も出ている²¹。

以上のように、現在の社会において、私立学校の授業や企業の研修等で伝統的な礼法の教授が行われていることがうかがえる。伝統的な礼法を授業や研修に行うことについては、社会における基本的な慣習である礼儀作法を礼法の知識・実践を通じて学び、社会人としての基本的な振る舞いを身に付けることが主な目的となっている。

(2) 礼法関係者の活動について

流派の活動

礼法を継承している流派の中で、資格制度を有している団体では、指導者の育成や免許状の発行のほか、一般向け礼法教室の開催、学校の礼法授業への講師派遣、子供や大人、外国人を対象にした礼法講座、ホームページやブログ、SNS を活用した情報発信、また、和装業界やブライダル産業との連携も行っている。

弓術や弓馬術等の技芸と共に礼法を受け継いでいる流派では、礼法に特化した免許状制度はなく、門人に弓術・弓馬術・礼法の流儀について指導を行っており、流鏑馬^{やぶさめ}や笠懸^{かさかけ}、歩射^{ぶしや}を神社において執行している。また、礼法に関しては、教場での指導のほか、小学校や中学校、高等学校、大学での授業やカルチャーセンター等において講義も行っている。

その他の団体

礼法流派が関係する形で設立されたマナーやプロトコルを扱う団体や、小笠原家の礼法講師の有資格者が立ち上げた団体等も活動しており、独自の検定事業の運営、教養講座や講習会等の開催を実施している。

21 クリスティーン・ポラス『Think CIVIRITY 「礼儀正しさ」こそ最強の生存戦略である』（東洋経済新聞社、令和元年）

2-2 国民意識調査について

(1) 調査の概要

生活文化に係る6分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し2万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、礼法の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。

■調査設計

調査方法	インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング）						
調査地域	全国						
調査対象者	18歳以上の男女						
サンプル数	2万サンプル						
		18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	男性	1,398	1,359	1,759	1,580	1,459	2,090
	女性	1,342	1,303	1,713	1,588	1,533	2,723
	それ以外／ 答えたくない	41	29	24	10	10	39
	※国勢調査（令和2年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に2万サンプルを割付けている。						
調査期間	令和4年10月14日（金）～10月20日（木）						
設問項目	【属性】 F1：性別 F2：年齢 F3：居住地 F4：職業 F5：同居している人の状況 F6：昨年度の世帯全体の年収 F7：最終学歴 F8：子供の頃の習い事						
	【フィルタリング・パート】 FQ4：礼法の経験の有無						
	【「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問】 DQ1：礼法を習い始めたきっかけ DQ2：礼法を始めた当初の習い方 DQ2補問：当初の習い方を選んだ理由 DQ3：現在の継続状況 DQ3補問1：礼法を続けている理由 DQ3補問2：礼法から離れたきっかけや理由						

	DQ 4：礼法を続けている（続けていた）年数 DQ 5：礼法に関する活動内容 DQ 6：礼法に関する活動頻度 DQ 7：礼法に関する月額費用 DQ 8：礼法に関する興味関心や魅力
	【「学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」と回答した者への設問】 DQ 9：礼法を体験したきっかけ DQ 10：礼法を体験した場 DQ 11：礼法を習いやすい状況 DQ 12：礼法に支払える月額費用 DQ 13：礼法を習っていない理由 DQ 14：礼法に対する印象やイメージ DQ 15：礼法に関する興味関心や魅力
	【「今まで経験したことはない」と回答した者への設問】 DQ 16：参加してみたい礼法の体験内容 DQ 17：参加しやすい礼法の体験条件 DQ 18：礼法を体験したことがない理由 DQ 19：礼法に対する印象やイメージ DQ 20：礼法に関する興味関心や魅力
	【共通設問】 Q 1：趣味・余暇活動の参加状況 Q 2：1ヶ月に使える趣味・余暇費用 Q 3：1ヶ月に使える趣味・余暇時間 Q 4：趣味・余暇活動を行う時間帯 Q 5：消費行動に対する価値観 Q 6：接触メディア

■調査結果を見る上での注意事項

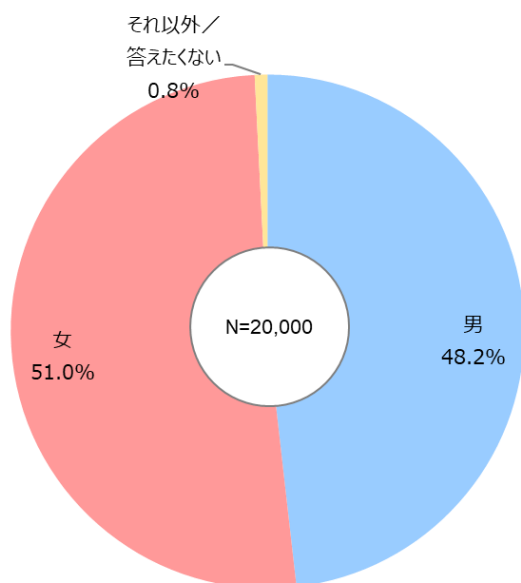
- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±5ptもしくは±10ptの開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、5pt丁度、10pt丁度の場合、色付けを行っていない。
- ・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。
- ・調査設問項目【属性】のF3居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型Ⅰ」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。
北海道：北海道
東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県
北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県
東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
 中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
 四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
 九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
 沖縄：沖縄県

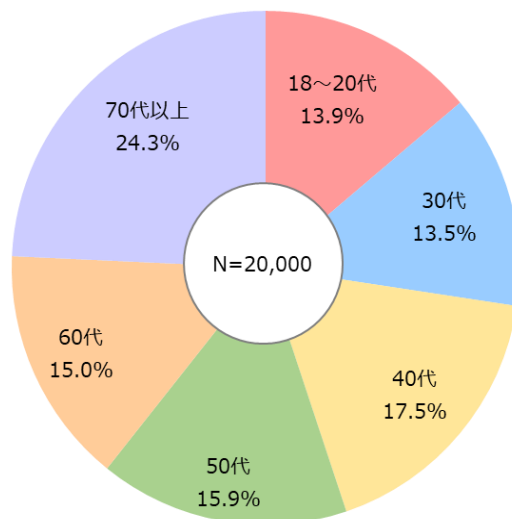
(2) 調査結果概要

1. 属性

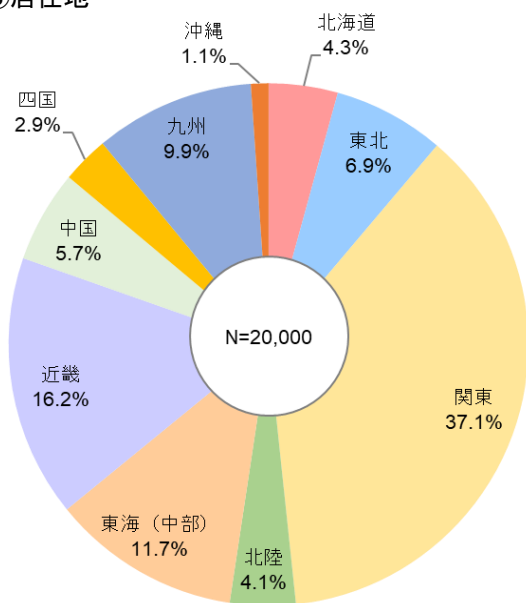
①性別



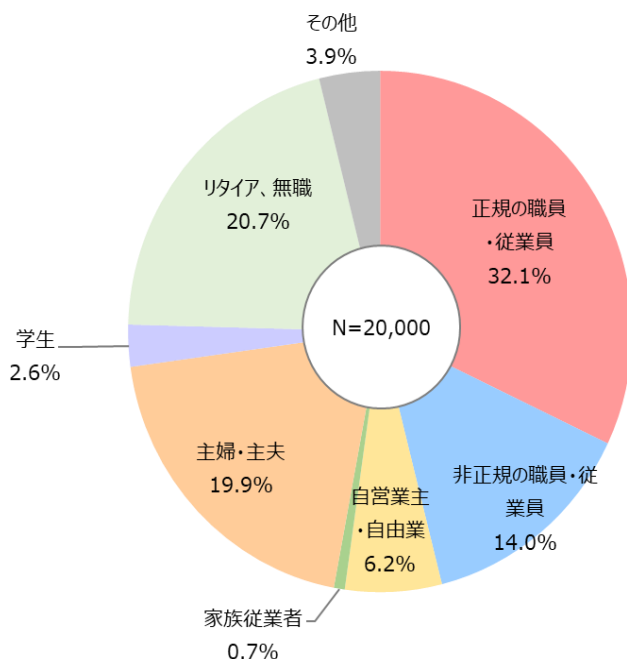
②年齢



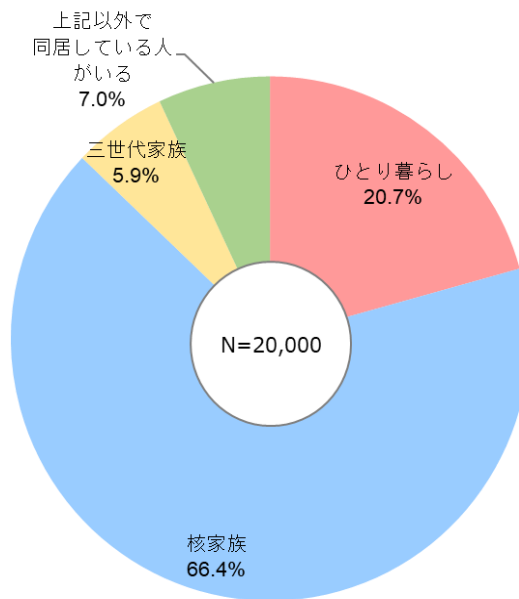
③居住地



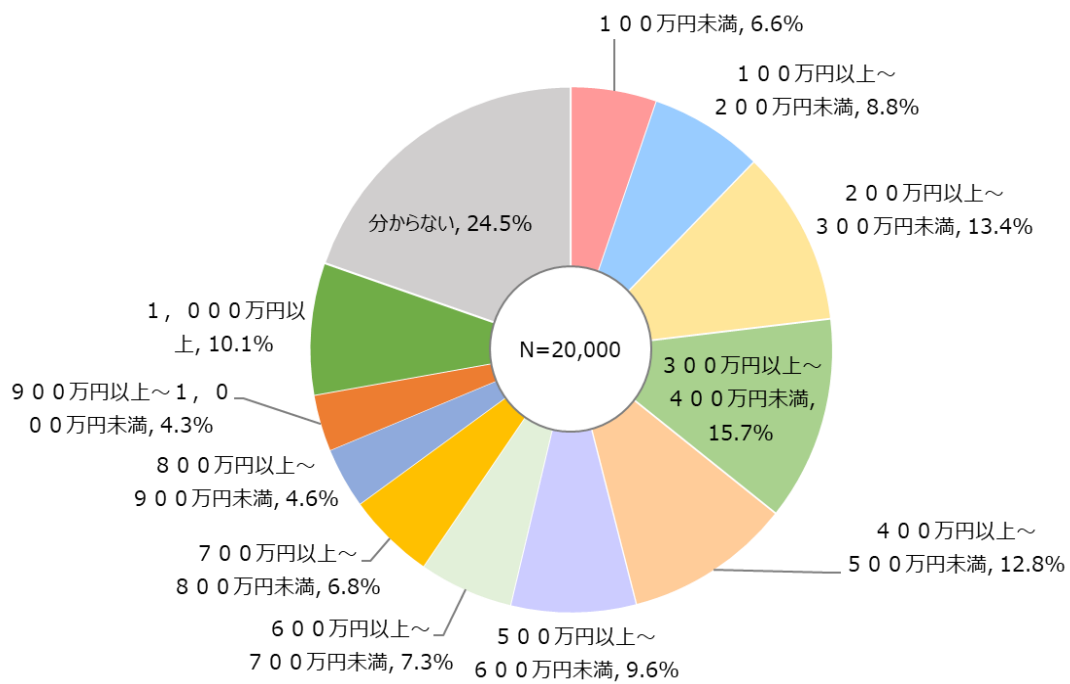
④職業



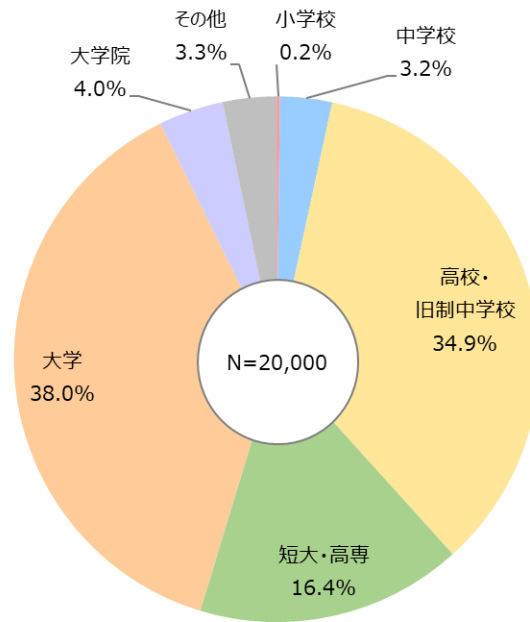
⑤同居している人の状況



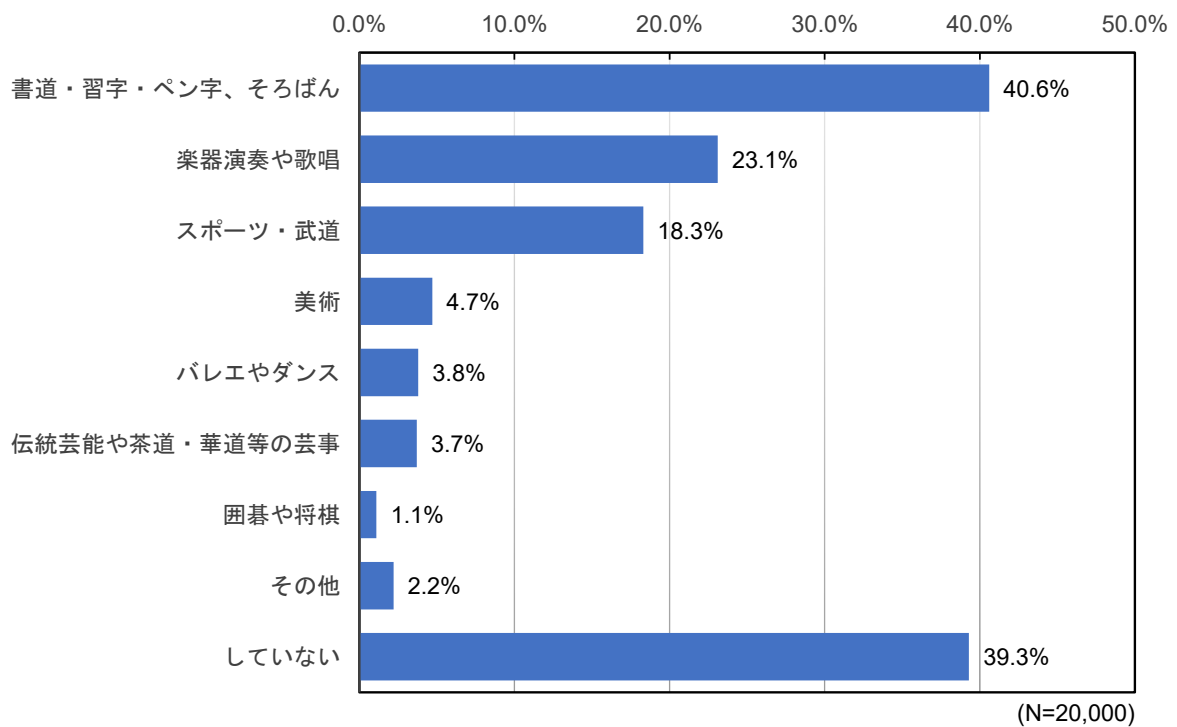
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



(その他の内容) 英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

2. 共通設問

共通1 あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。(複数回答)

【スポーツ (観戦除く)】

												(件・%)	
全体	ウォーキング	ジョギング・マラソン	トレーニング	体操(器具を使わないもの)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(練習場)	釣り	水泳(プールでの)	サイクリング・サイクスポーツ	テニス	キャッチボール・野球	スキー	
	32.1	7.8	7.0	6.3	5.1	4.0	3.6	3.4	2.9	2.8	2.3	2.3	
	卓球	エアロビクス、ジャズダンス	ボウリング	サッカー	バトミントン	スノーボード	バレーボール	柔道・剣道・空手などの武道	バスケットボール	フットサル	スキューバダイビング・グライダー	パークゴルフ・フンドなどの簡易ゴルフ	
	2.1	2.0	1.8	1.8	1.6	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	
	ソフトボール	サーフィン・ウインドサーフィン	乗馬	アイススケート	ゲートボール	ヨット・モーターボート	カヌー・ラフティン	パラグライダー・ハンググライダー					
20,000	0.7	0.5	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1					

【趣味・創作】

												(件・%)	
全体	音楽鑑賞(配信、CD、レコード、FMなど)	読書(仕事、勉強などを除く娯楽として)	映画(テレビは除く)	動画鑑賞(レンタル、配信を含む)	園芸、庭いじり	音楽会、コンサートなど	スポーツ観戦(テレビは除く)	美術鑑賞(テレビは除く)	ファッション(楽しみとしての)	編物、織物、手芸	観劇(テレビは除く)	洋楽の演奏	
	17.3	16.1	14.5	13.6	12.8	10.8	7.4	6.7	5.9	5.9	4.9	4.7	
	日曜大工	料理(日常的なものを除く)	写真の制作	学習・調べもの	絵を描く、彫刻をする	洋裁、和裁	詩文の創作(小説、歌、俳句など)	動画の制作・編集	演芸鑑賞(テレビは除く)	お花	模型づくり	書道	
	4.6	4.3	3.9	3.7	3.0	2.9	2.3	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7	
	お茶	趣味工芸(組ひも、ペーパークラフト、革細工など)	邦楽、民謡	コーラス	陶芸	洋舞、社交ダンス	おどり(日舞など)						
20,000	1.6	1.5	1.5	1.1	1.0	0.8	0.4						

【娯楽】

		(件・%)										
全体	テレビゲーム（家庭用）	カラオケ	温泉施設（健康ランド、クアハウス、スパ銭湯等）	宝くじ	外食（日常的なものを除く）	ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	中央競馬	バーベキュー	麻雀	パチンコ	将棋	サウナ
		7.9	6.9	6.8	5.8	5.5	5.3	4.7	3.8	3.7	2.8	2.7
	ゲームセンター、ゲームコーナー	カラオケ、花札など	地方競馬	サッカーくじ（t.o.）	バー、飲み屋	囲碁	ボートレース（競艇）	競輪	ビリヤード	オートレース	クラブ、キャバレー	ディスコ
20,000	2.5	2.3	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.0	0.9	0.5	0.5	0.3

【観光・行楽】

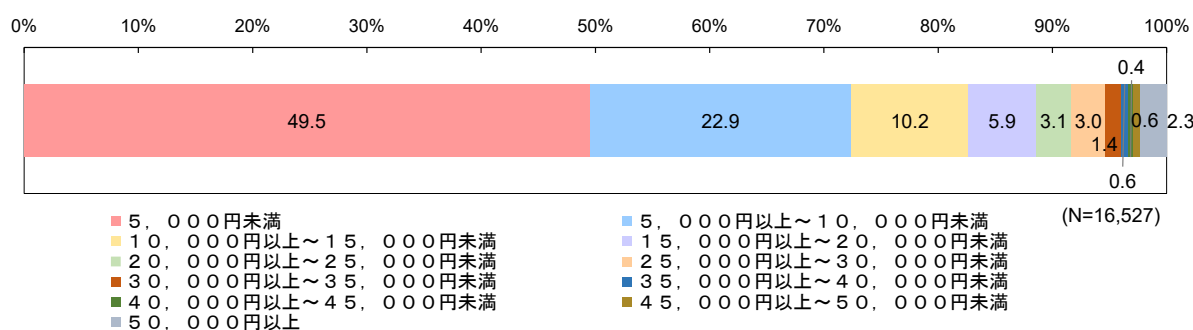
		(件・%)											
全体	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	ドライブ	動物園、博物館、水族館	海外旅行	ピクニック・ハイキング・野外散歩	遊園地	帰省旅行	催し物、博覧会	登山	海水浴	オートキャンプ	フィールドアスレチック	
		30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6
	20,000	30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6

【その他・特に何もしていない】

		(件・%)										
全体	複合ショッピングモール	ウインドウショッピング	ペット（遊ぶ、世話をする）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	ヨガ、ピラティス	ボランティア活動	農園（市民農園など）	エステティック、ホームエステ	クルージング（客船による）	自由記述	特に何もしていない	
		15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4
	20,000	15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4

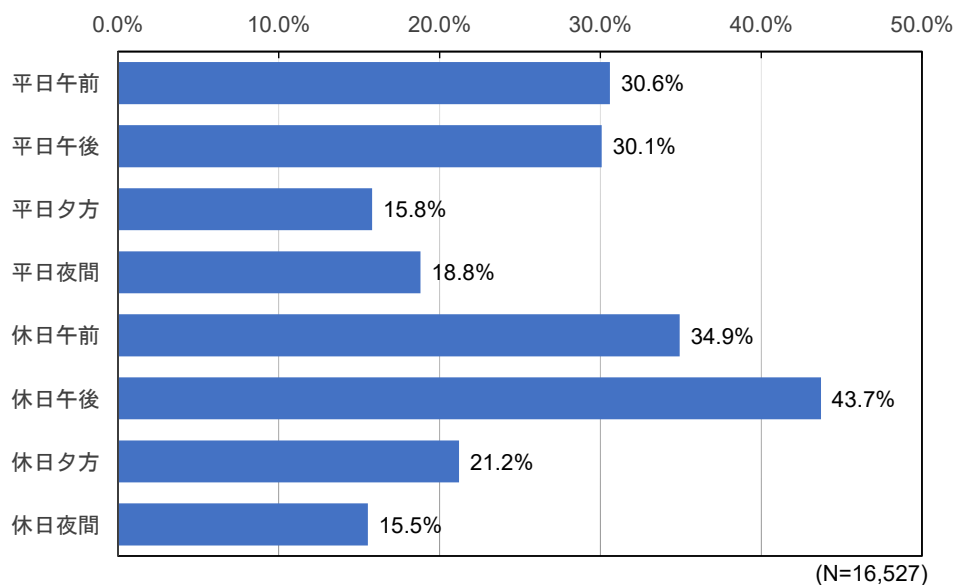
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



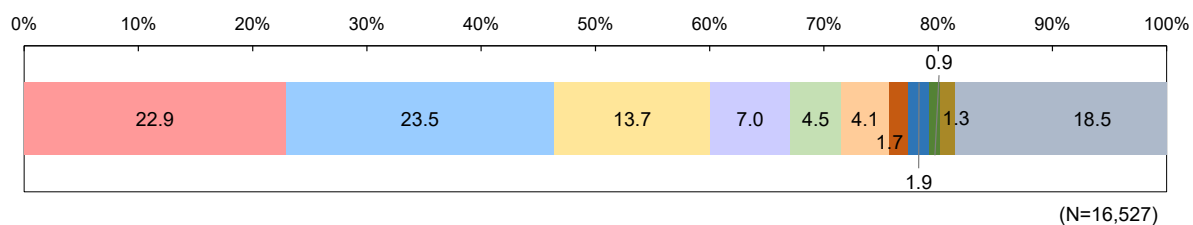
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(複数回答)



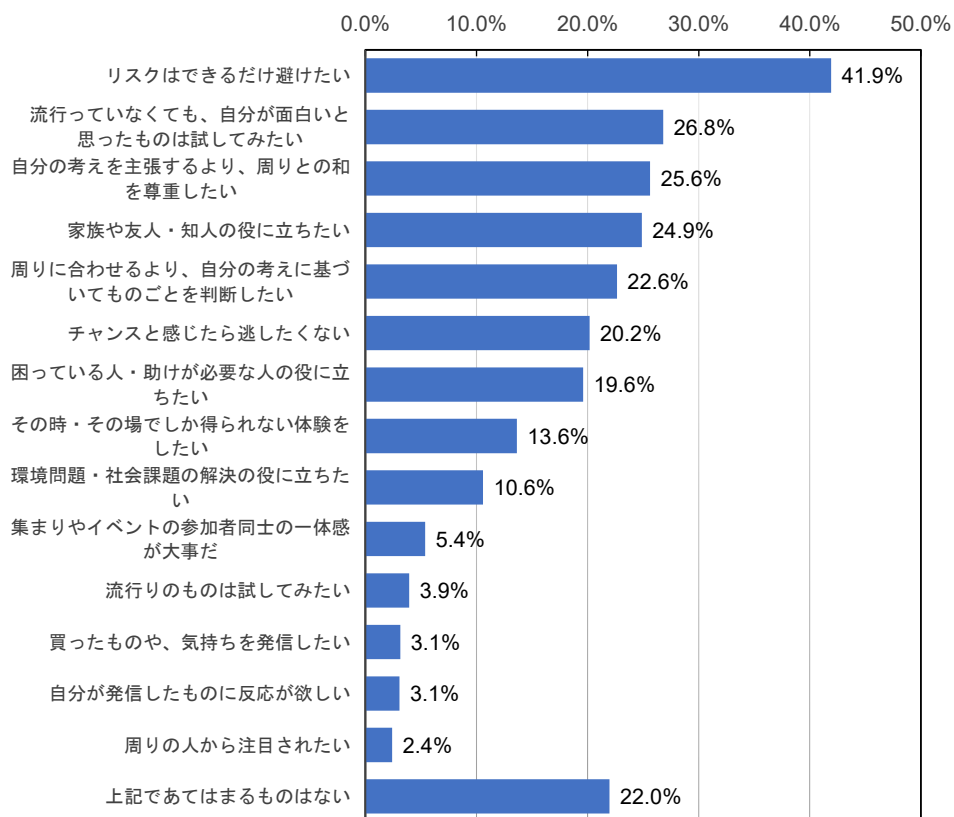
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。



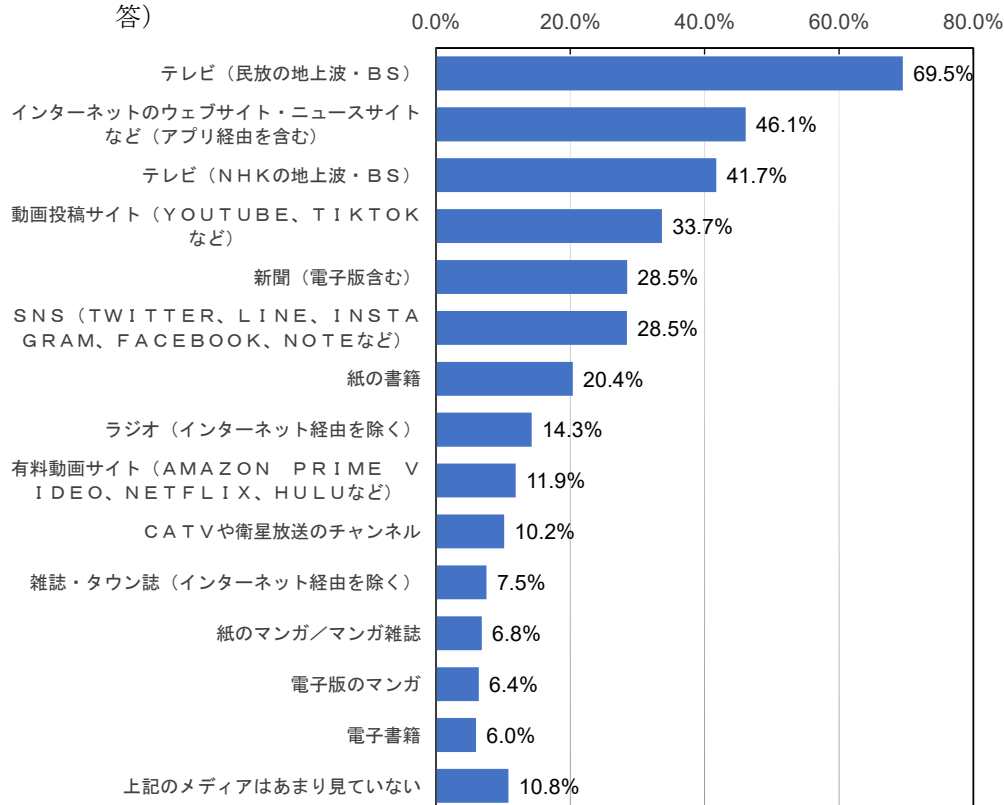
- 1時間未満
- 1時間以上～2時間未満
- 2時間以上～3時間未満
- 3時間以上～4時間未満
- 4時間以上～5時間未満
- 5時間以上～6時間未満
- 6時間以上～7時間未満
- 7時間以上～8時間未満
- 8時間以上～9時間未満
- 9時間以上～10時間未満
- 10時間以上

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

3. 単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（FQ4：礼法の経験・体験の有無）

礼法を経験した者、あるいは全く触れたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、礼法の「経験」にも深度があり、いわゆる稽古場や教室等で習った経験がある者や、稽古場や教室等で教える立場にいる者、あるいは、イベント等で礼法の体験をしたことがある者等があると想定される。経験の有無を大別するならば、教室等で習ったあるいは教える立場にいる者、イベント等で体験をした者、そして経験をしたことがない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、礼法の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

FQ4 礼法の経験の有無

礼法を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は2.6%（512人）、「学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」（以下、「参加体験あり」）17.1%（3,413人）、「今まで経験したことはない」（以下「未経験」）80.4%（16,075人）となった。

男女別では、女性の「経験あり」が3.3%、「参加体験あり」が20.8%と、男性より高い。

年齢別では、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者は18～20代と70代以上で全体平均より高く、30～60代は全体平均より低い回答比率である。

		n=	(%)		
			習っている(いた)、あるいは教える立場にいる(いた)	学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある	今まで経験したことはない
全体		20,000	2.6	17.1	80.4
性別	男	9,645	1.8	13.2	85.0
	女	10,202	3.3	20.8	75.9
	それ以外／答えたくない	153	2.6	11.1	86.3
年齢	18～20代	2,781	3.8	18.6	77.6
	30代	2,691	3.0	14.6	82.4
	40代	3,496	1.9	13.6	84.5
	50代	3,178	1.5	13.8	84.7
	60代	3,002	2.1	16.8	81.2
	70代以上	4,852	3.1	22.4	74.6

図1 FQ4：礼法の経験の有無

■「礼法を習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問
（DQ1～DQ8：経験者の実態把握）

本設問群では、礼法を経験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会でも礼法を習うようになったのか、興味関心を持っているのか等、経験の実態を把握するためのアンケートを実施した。

DQ1 礼法を習い始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」の25.2%で、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」23.0%、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」20.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（33.1%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（28.0%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（15.4%）の回答比率が全体平均より高い。

次に年齢別で見ると、若年層ほど「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」という回答比率が高く、高齢層では「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」という選択肢の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。

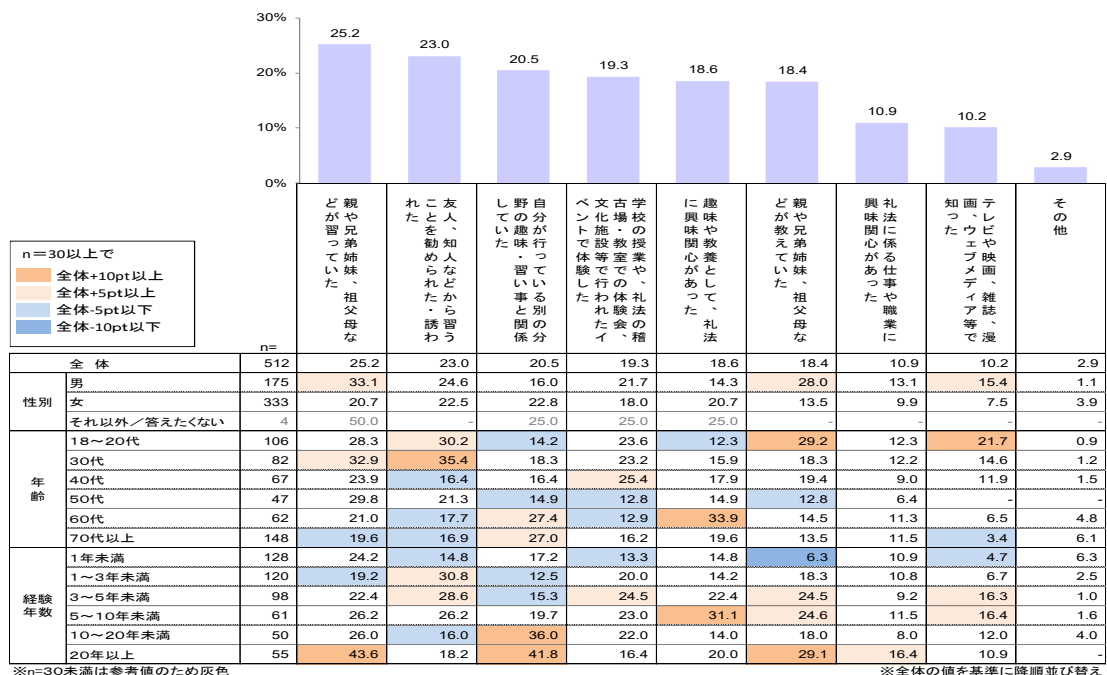


図2 DQ1：礼法を習い始めたきっかけ

（その他の内容）仕事の関係で、親に強制的に習わされた、秘書検定の勉強で関連があったから

DQ2 礼法を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の41.0%で、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」33.6%、「稽古場や教室で習っていた」23.0%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」(42.3%)の回答比率が高い。

年齢別では、10~30代で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」の回答比率が全体平均より高く、50代以上は全体平均より低い。その一方で40~50代では「稽古場や教室で習っていた」の回答比率が高い傾向にある。

経験年数別で見ると、20年以上と回答した者では、「家族や知人等、身近な人に習っていた」(60.0%)、「稽古場や教室で習っていた」(38.2%)の回答比率が高い傾向にある。一方、1~5年未満と回答した者は、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」の回答比率が全体平均より高い傾向にあり、年齢や経験年数によって、習い始めた方法に違いが見られる。

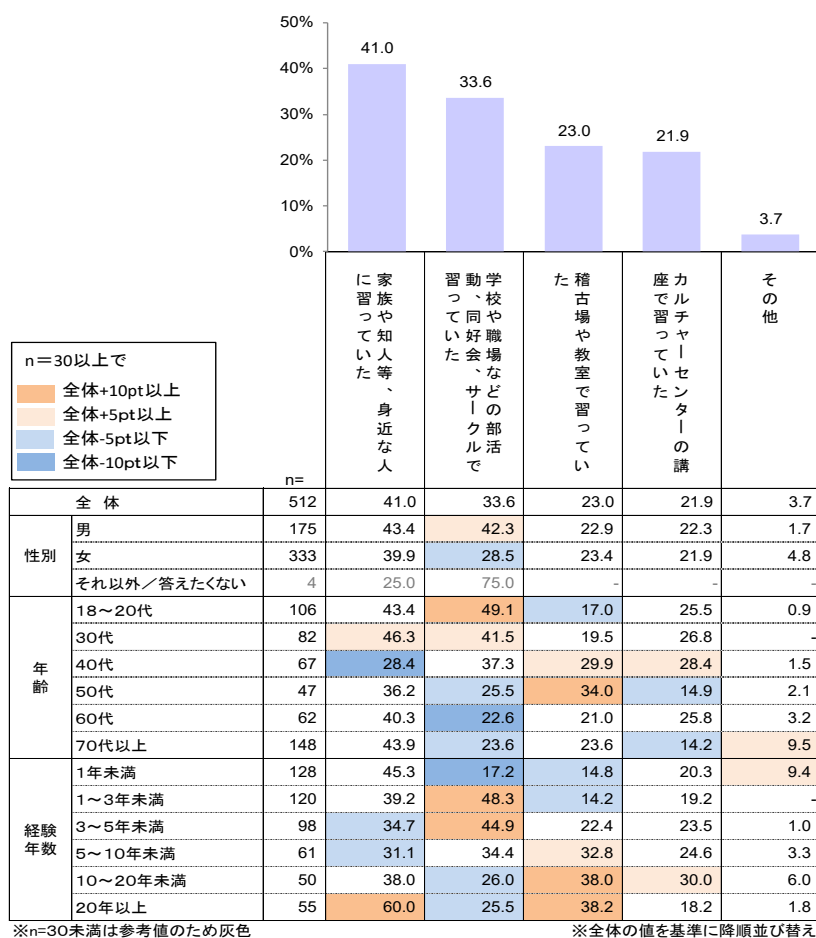


図3 DQ2：礼法を始めた当初の習い方

(その他の内容) テレビの講習会、生活の中で知った、学校の授業

DQ2補問 当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の34.8%で、次いで「家族や友人等と一緒に良かった」28.3%、「費用が手頃だった」18.4%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「家族や友人等と一緒に良かった」(35.4%)の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」(男性9.1%)の回答比率が低い傾向にある。

また、年齢別では、10~30代で「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」の回答比率が高い傾向にあるほか、50~60代で「通いやすい場所だった」、60代以上で「手軽に習ってみたかった」の回答比率が高くなっている。

経験年数別で見ると、20年以上と回答した者は、「家族や友人等と一緒に良かった」(40.0%)「通いやすい時間帯だった」(27.3%)の回答比率が高い。また、5~10年未満でも「通いやすい時間帯だった」(26.2%)の回答比率が高いほか、その他の選択肢でも全体平均を上回る項目が多い傾向が見られた。

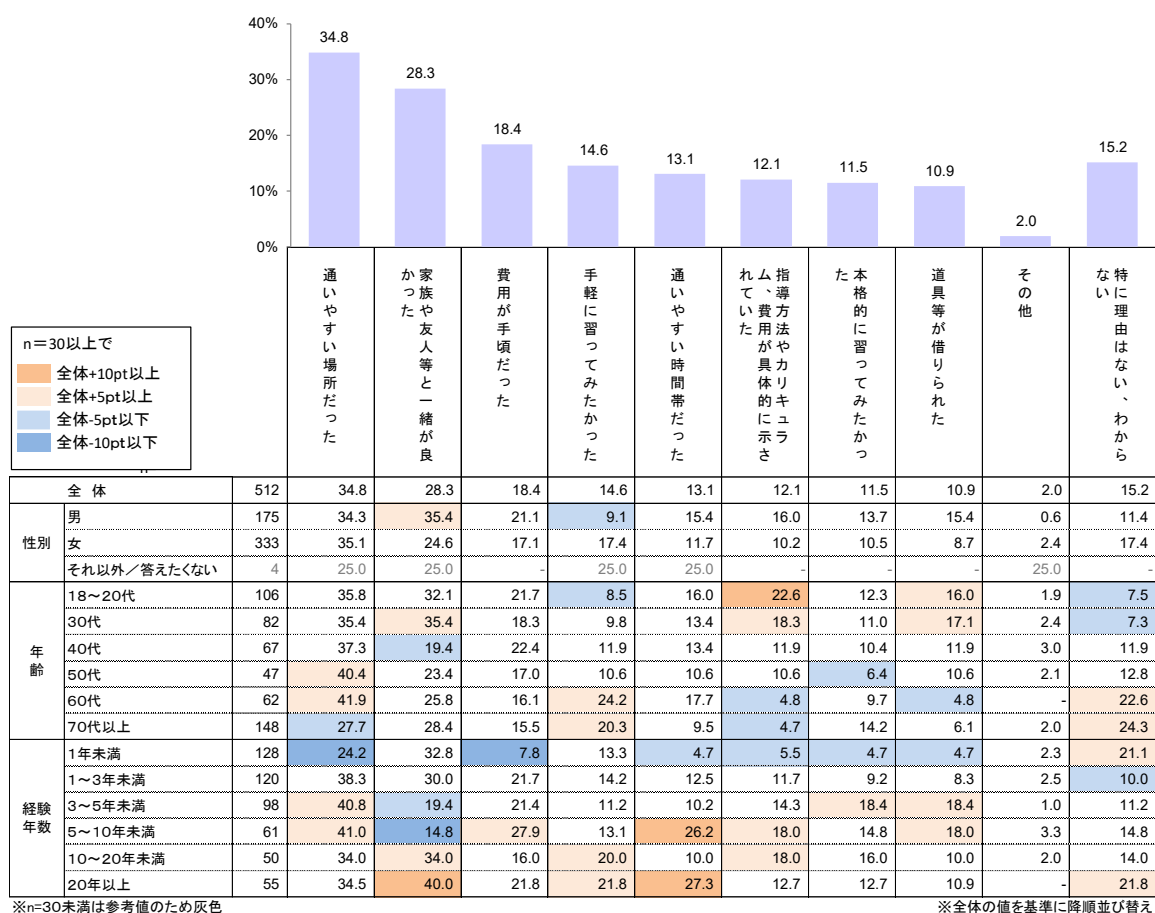


図4 DQ2補問：当初の習い方を選んだ理由

(その他の内容) 授業の一環・授業の必須科目だった、指導者に魅力を感じたから、空手を習っていて空手で礼法はとても関係しているから、教室のカリキュラムに含まれていた

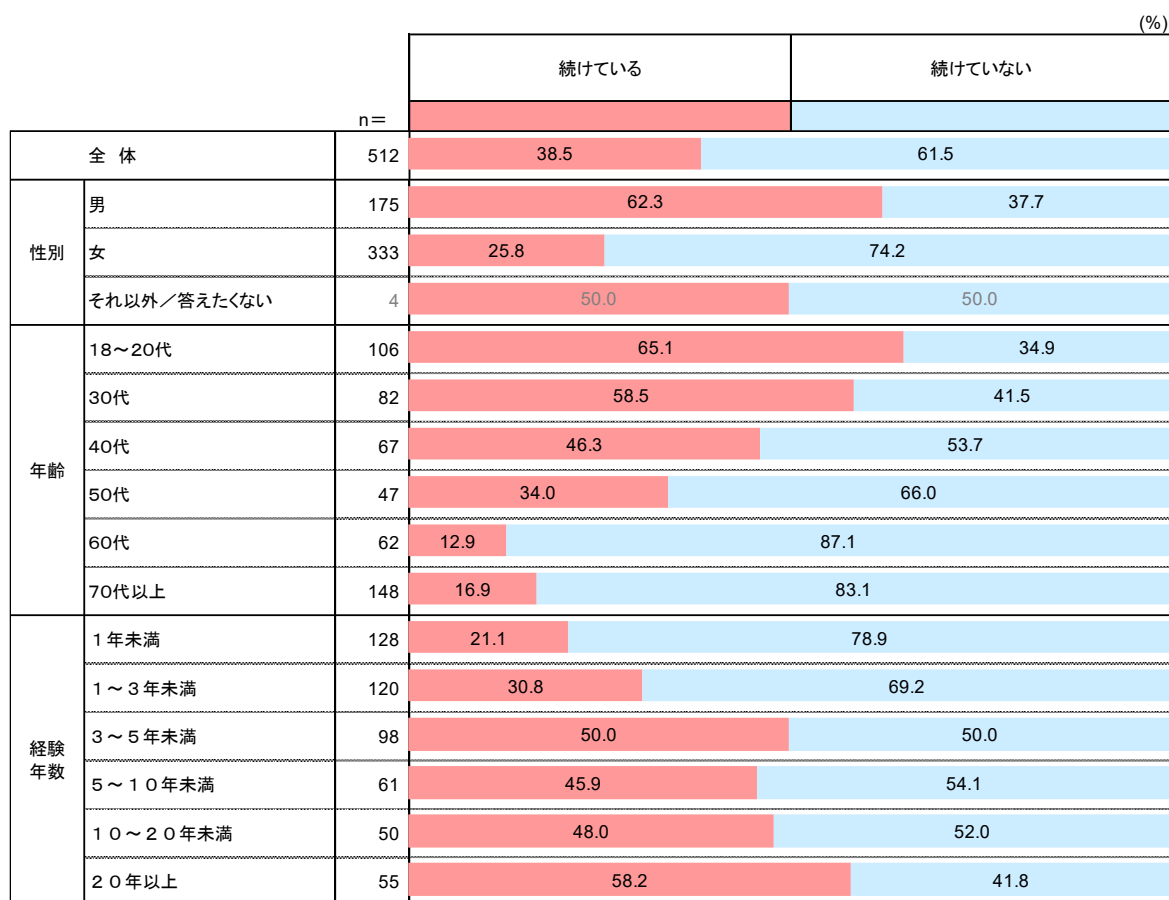
DQ3 現在の継続状況

継続状況については、「続けている」38.5%（197人）、「続けていない」61.5%（315人）と、続けていないとの回答比率が高いことが分かる。

男女別で見た場合、男性で「続けている」が62.3%と高く、女性で25.8%と低い。

次に年齢別で見ると、年代が上っていくに従って、継続率が下がっていく傾向が見られる。

経験年数別では、1年未満（78.9%）、1～3年未満（69.2%）の者で「続けていない」の比率が全体平均の回答比率を上回っている。



※n=30未満は参考値のため灰色

図5 DQ3：現在の継続状況

DQ3補問1 礼法を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の46.2%で、次いで「指導者や教授者として活動したい(している)」41.1%、「一緒に楽しむ仲間がいる」29.9%と続く。

全体平均の回答比率と、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別では18~20代で「指導者や教授者として活動したい(している)」(55.1%)、「一緒に楽しむ仲間がいる」(40.6%)の回答比率が高い傾向にあるほか、30代で「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」(37.5%)の回答比率が高い。一方、40代は18~20代で回答比率が高かった項目の回答比率が低いことが分かる。

また、経験年数別で見た場合、20年以上と回答した者は、「日本の文化だから」(75.0%)、「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」(37.5%)、「礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる」(50.0%)、「習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった」(40.6%)の回答比率が高く、経験してきた年数に比例して選ぶ選択肢が増えているものと考えられる。

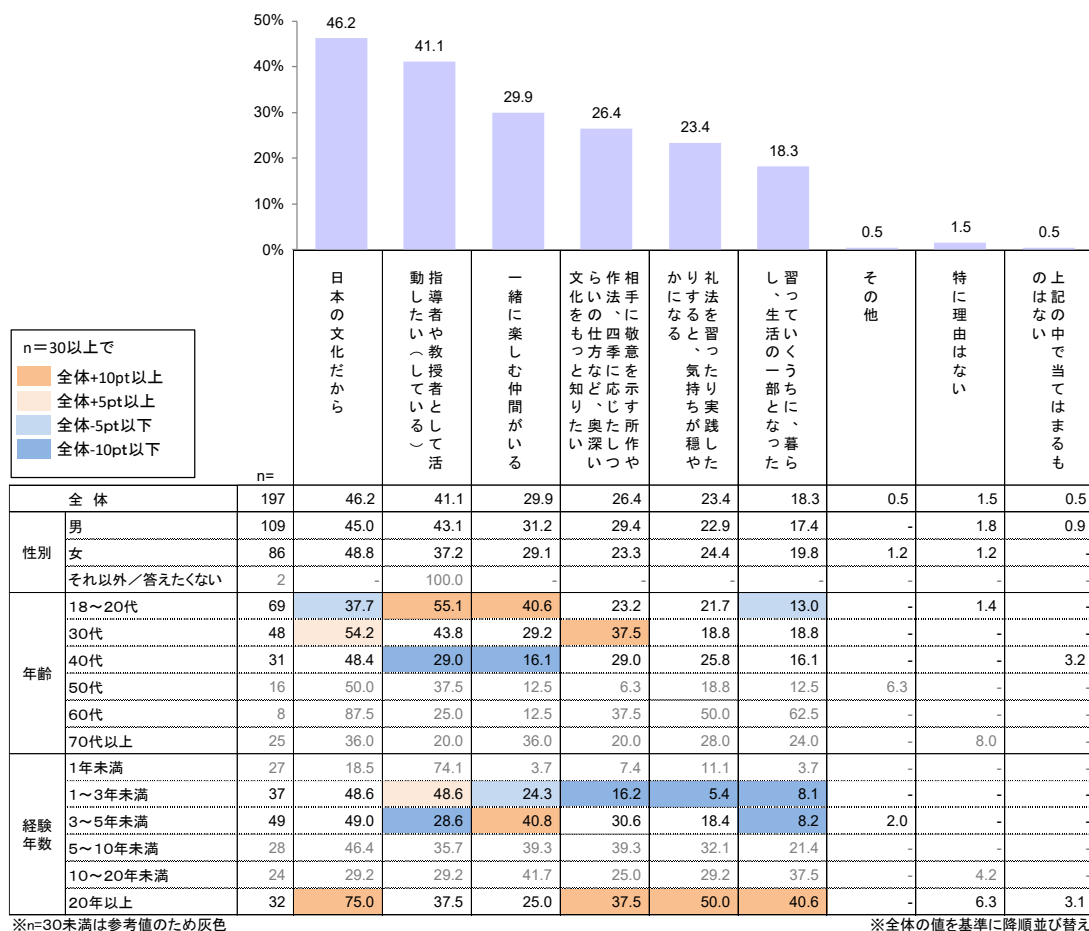


図6 DQ3補問1：礼法を続けている理由

(その他の内容) 人としてより良く生きる為

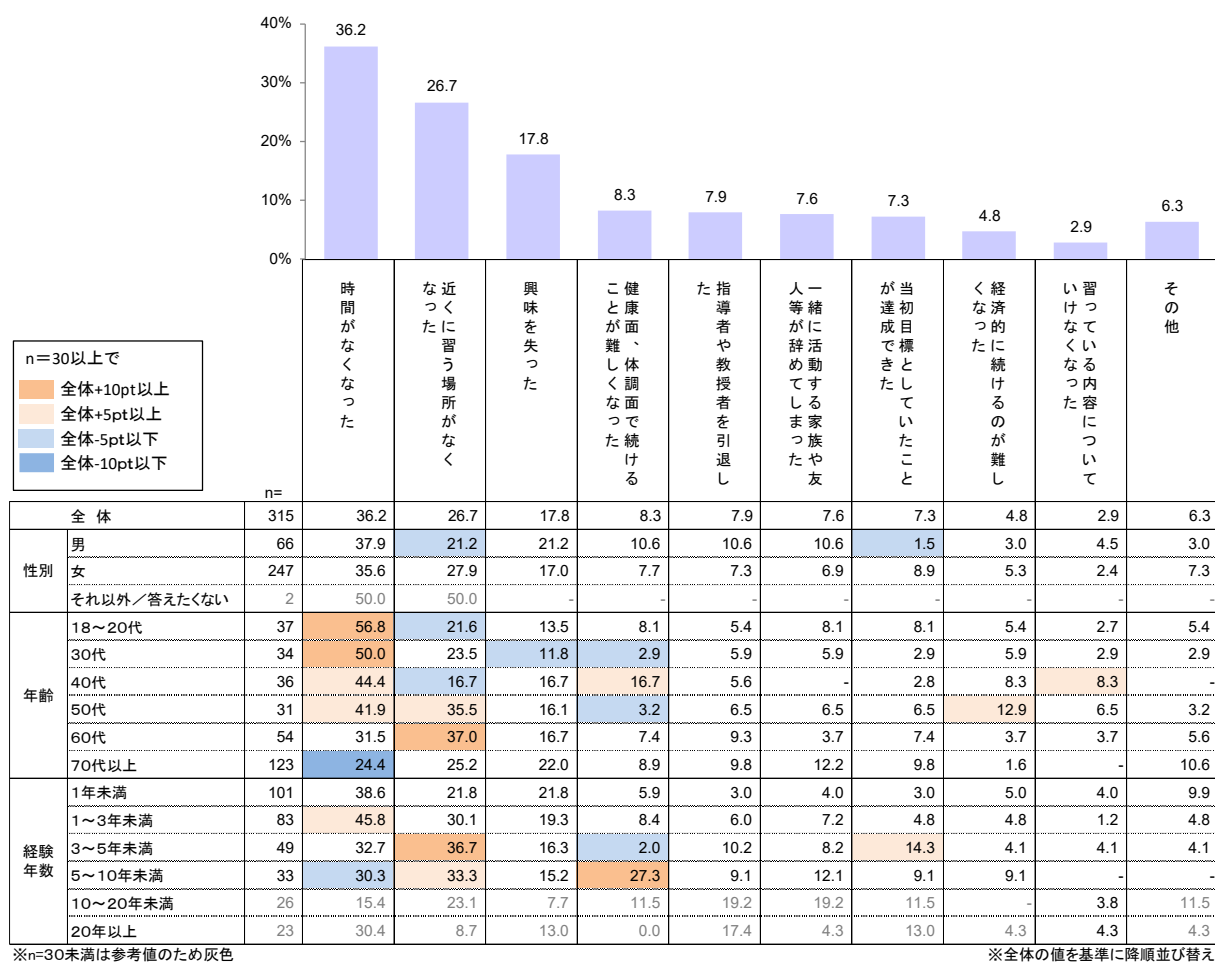
DQ3補問2 礼法から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「時間がなくなった」の36.2%で、次いで「近くに習う場所がなくなった」26.7%、「興味を失った」17.8%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「近くに習う場所がなくなった」(21.2%)、「当初目標としていたことが達成できた」(1.5%)の回答比率が低い。

次に年齢別に見た場合、10～50代で「時間がなくなった」の回答比率が全体平均より高く、50～60代では「近くに習う場所がなくなった」の回答比率が高い。

経験年数別では、3～10年未満と回答した者で、「近くに習う場所がなくなった」の回答比率が高い。また、5～10年未満と回答した者の場合、「健康面、体調面で続けることが難しくなった」(27.3%)、「近くに習う場所がなくなった」(33.3%)の回答比率が高く、「時間がなくなった」(30.3%)の回答比率は低い。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

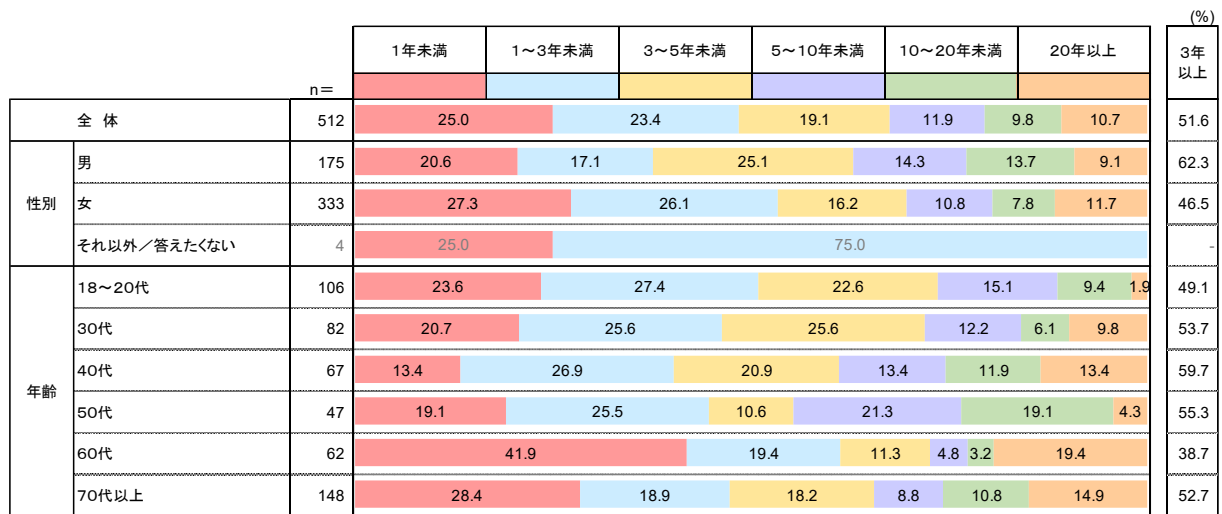
図7 DQ3補問2：礼法から離れたきっかけや理由

(その他の内容) 学校を卒業した、必要性が無くなった、幼い頃の習い事だったので

DQ4 礼法を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「1年未満」の25.0%で、次いで「1～3年未満」23.4%、「3～5年未満」19.1%と続く。全体平均で3年以上続けている（いた）人の比率は51.6%となっている。

男女別では、3年以上の継続者が、男性で62.3%（175人中109人）、女性で46.5%（333人中155人）となっており、男性の方が長く続けている（いた）人の割合が高いことが分かる。



※n=30未満は参考値のため灰色

図8 DQ4：礼法を続けている（続けていた）年数

DQ5 礼法に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「教室や稽古場で習っている (いた)」の 51.0%で、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」28.3%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」26.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」(35.4%) の回答比率が高い。

次に、年齢別では 10~40 代では「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」の回答比率が高く、また、18~20 代では、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」の回答比率も高い。一方、50~60 代では「教室や稽古場で習っている (いた)」の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、経験年数が 5 年以上と回答した者で「教室や稽古場で習っている (いた)」の回答比率が、1~5 年未満では「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」の回答比率が高い傾向が見える。また、10 年以上と回答した者では、「指導者や教授者として教えている (いた)」の回答比率も高いことが分かる。

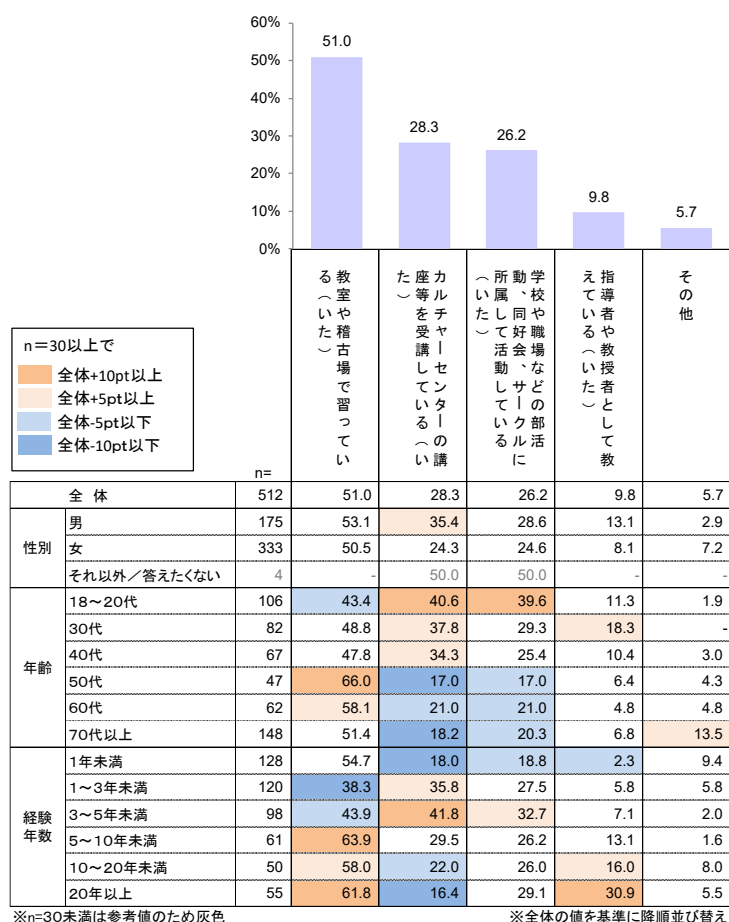


図9 DQ5 : 礼法に関する活動内容

(その他の内容) 親から教わっていた、日常生活の一部 (普段の生活の中で実践している)

DQ6 礼法に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週1回程度」の21.3%で、次いで「月数回程度」17.0%、「年1回程度」16.8%と続く。週1回以上活動している（いた）比率は48.2%（512人中247人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で週1回以上活動している（いた）比率が60.0%（175人中105人）、女性で42.0%（333人中140人）となっている。

年齢別では、年齢が高くなるほど週1回以上活動している（いた）比率が低くなっている。

また、経験年数別では、経験年数が1～5年未満の者で「週1回程度」の回答比率が高い。

		n=	ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度	(%)
全体		512	12.9	14.1	21.3	17.0	10.9	7.0	16.8	48.2
性別	男	175	20.0	22.9	17.1	22.3	4.0	9.1	4.6	60.0
	女	333	9.0	9.3	23.7	14.4	14.4	6.0	23.1	42.0
	それ以外／答えたくない	4	25.0	25.0	25.0	25.0			25.0	50.0
年齢	18～20代	106	23.6	26.4	17.9	16.0	4.7	5.7	5.7	67.9
	30代	82	17.1	25.6	14.6	20.7	9.8	4.9	7.3	57.3
	40代	67	14.9	13.4	20.9	17.9	10.4	7.5	14.9	49.3
	50代	47	2.1	12.8	34.0	17.0	14.9	4.3	14.9	48.9
	60代	62	8.1	3.2	25.8	17.7	21.0	4.8	19.4	37.1
	70代以上	148	7.4	4.1	21.6	14.9	10.8	10.8	30.4	33.1
経験年数	1年未満	128	19.5	3.9	12.5	12.5	13.3	3.9	34.4	35.9
	1～3年未満	120	8.3	24.2	30.0	12.5	10.8	3.3	10.8	62.5
	3～5年未満	98	7.1	21.4	24.5	22.4	7.1	8.2	9.2	53.1
	5～10年未満	61	9.8	13.1	26.2	27.9	11.5	6.6	4.9	49.2
	10～20年未満	50	14.0	14.0	12.0	16.0	10.0	18.0	16.0	40.0
	20年以上	55	20.0	3.6	20.0	16.4	12.7	10.9	16.4	43.6

※n=30未満は参考値のため灰色

図10 DQ6：礼法に関する活動頻度

DQ7 礼法に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000円未満」の51.2%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」18.2%、「10,000円以上～15,000円未満」10.0%と続く。なお、月額1万円以上支出している（いた）と回答した比率は30.7%（512人中157人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較した場合、まず男女別では、男性で月額1万円以上支出している（いた）割合が45.7%（175人中80人）と、女性の22.8%（333人中76人）より高い。

また、年齢別では、18～20代の年齢層で、月額1万円以上支出している（いた）割合（53.8%）が高いことが分かる。

経験年数別では、経験年数が1年未満の者は月額「5,000円未満」（77.3%）の回答比率が高い。

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計
			51.2	18.2	10.0	6.4	3.5	3.7	1.2	1.2	1.0	1.8	2.0	30.7
性別	全体	512	51.2	18.2	10.0	6.4	3.5	3.7	1.2	1.2	1.0	1.8	2.0	30.7
	男	175	38.9	15.4	13.7	12.0	5.1	5.1	2.3	2.3	1.1	1.7	2.3	45.7
	女	333	58.3	18.9	7.8	3.6	2.7	3.0	0.6	0.6	0.9	1.8	1.8	22.8
それ以外／答えたくない		4	-	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
年齢	18～20代	106	29.2	17.0	19.8	8.5	9.4	1.9	2.8	0.9	2.8	4.7	2.8	53.8
	30代	82	41.5	18.3	6.1	12.2	4.9	8.5	2.4	2.4	1.2	-	2.4	40.2
	40代	67	41.8	17.9	11.9	10.4	3.0	7.5	1.5	-	1.5	3.0	1.5	40.3
	50代	47	44.7	27.7	8.5	4.3	4.3	2.1	-	2.1	-	4.3	2.1	27.7
	60代	62	69.4	17.7	3.2	3.2	-	-	-	1.6	-	-	4.8	12.9
	70代以上	148	70.9	16.2	7.4	2.0	-	2.7	-	0.7	-	-	-	12.8
経験年数	1年未満	128	77.3	10.9	2.3	5.5	0.8	0.8	-	1.6	-	-	0.8	11.7
	1～3年未満	120	45.8	28.3	11.7	3.3	3.3	3.3	1.7	0.8	0.8	0.8	-	25.8
	3～5年未満	98	30.6	15.3	17.3	12.2	7.1	9.2	3.1	1.0	3.1	1.0	-	54.1
	5～10年未満	61	42.6	21.3	9.8	13.1	6.6	1.6	-	-	1.6	1.6	1.6	36.1
	10～20年未満	50	38.0	20.0	16.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	8.0	6.0	42.0
20年以上	55	60.0	12.7	5.5	-	1.8	5.5	-	1.8	-	3.6	9.1	27.3	

※n=30未満は参考値のため灰色

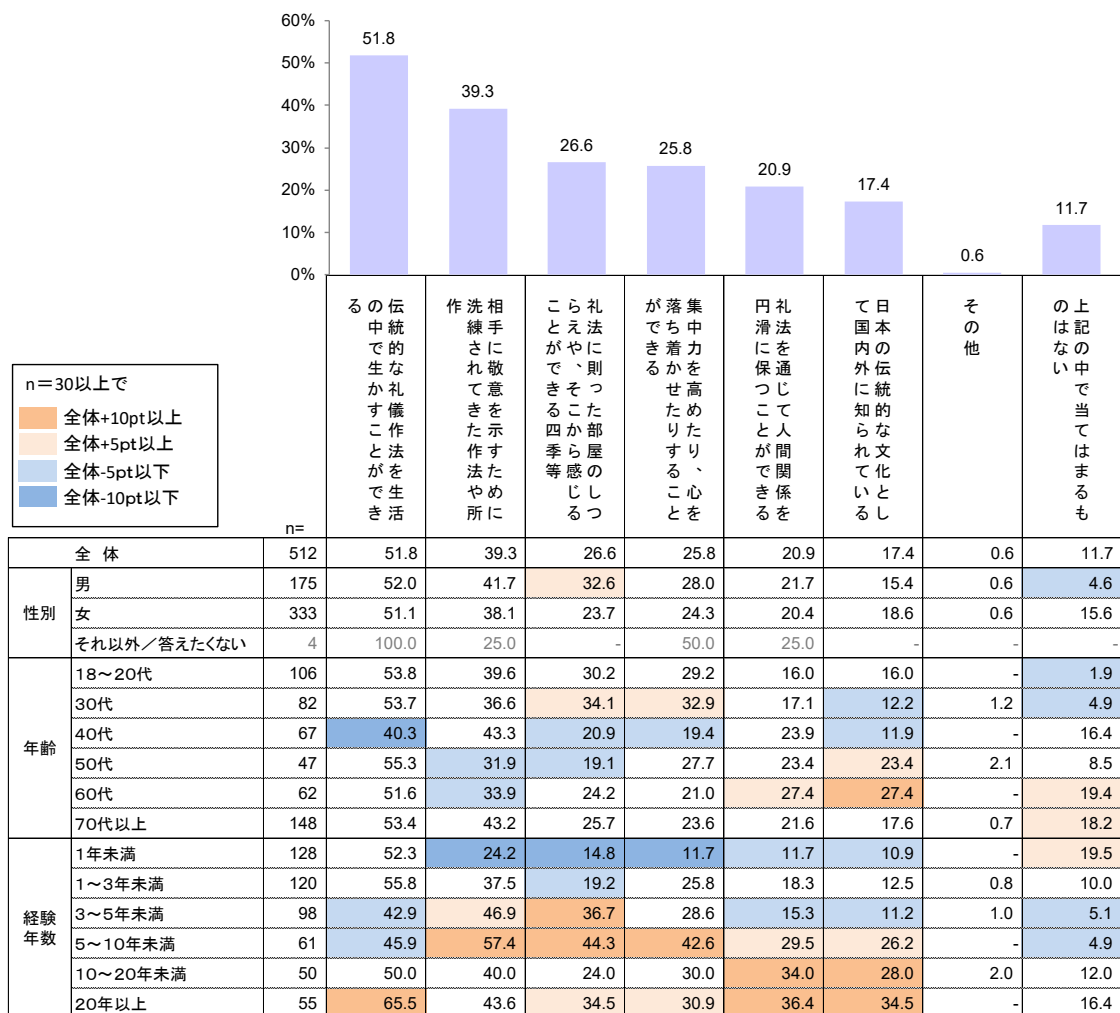
図11 DQ7：礼法に関する月額費用

DQ8 礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」の51.8%で、次いで「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」39.3%、「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」26.6%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(32.6%)の回答比率が高い傾向にある。

経験年数別では、経験年数5年以上の者で「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の回答比率が高い。また、20年以上と回答した者では、「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(65.5%)も含めて、いずれの選択肢の回答比率も高いことから、経験してきた長さにより関心が異なる傾向がうかがえる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図12 DQ8：礼法に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 自分を高められる

■「礼法を学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」と回答した者への設問（DQ9～DQ15：参加体験者の実態把握）

本設問では、礼法をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会に礼法を体験したのか、また、どの程度礼法に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

DQ9 礼法を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の48.0%で、次いで「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」15.6%、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」12.0%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、70代以上では「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」の回答比率が高く、対照的に18～20代では回答比率が低い傾向にある。

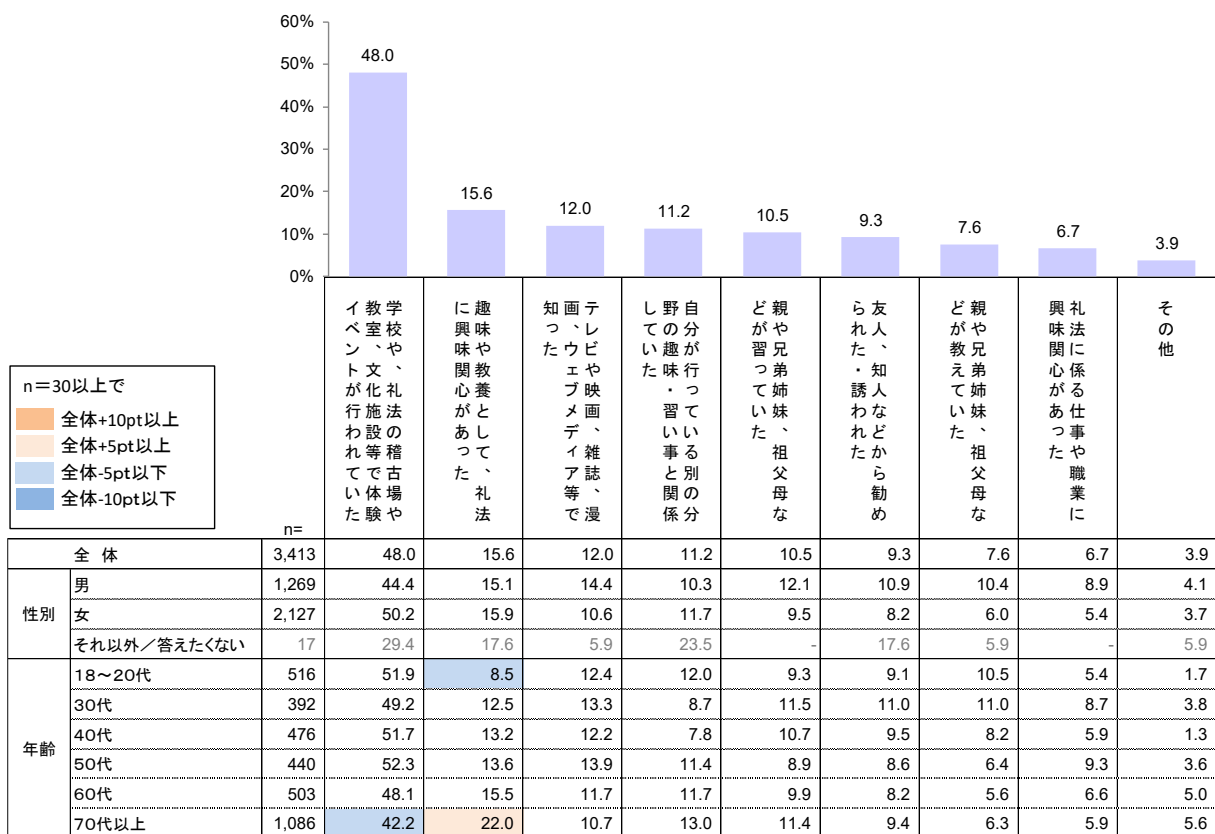


図13 DQ9：礼法を体験したきっかけ

(その他の内容) 会社での研修の一環、学校の授業で習った、仕事で、ビジネスマナーとして

DQ10 礼法を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校の授業や職場の研修会」の44.6%で、次いで「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」20.9%、「文化施設等で行われた体験イベント」16.1%となる。

全体平均と年齢別の回答比率とを比較すると、30～50代では「学校の授業や職場の研修会」の回答比率が全体平均より高い一方、70代以上では大きく下回っている。

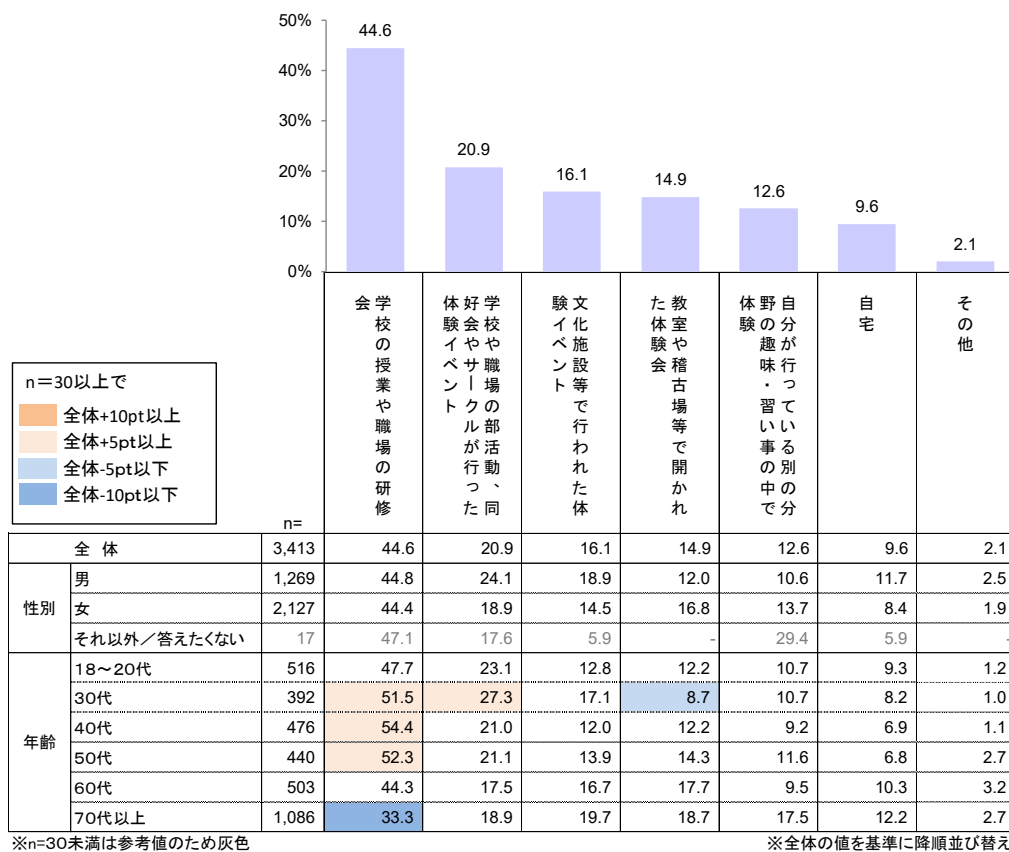


図14 DQ10：礼法を体験した場

(その他の内容) 冠婚葬祭施設 (ホテル・結婚式場)、禅寺に1泊しての修養会、神社、YouTube、テレビ番組

DQ11 礼法を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所で習えたら」の37.4%で、次いで「費用が手頃だったら」33.0%、少し離れて「家族や知人等、身近な人から習えたら」20.4%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、30代で「必要な道具等が借りられたら」(21.9%)、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」(20.9%)の回答比率が高くなっている。また、年齢が高くなるにつれて、「わからない」の回答比率が全体平均よりも高くなっている傾向も見取れる。

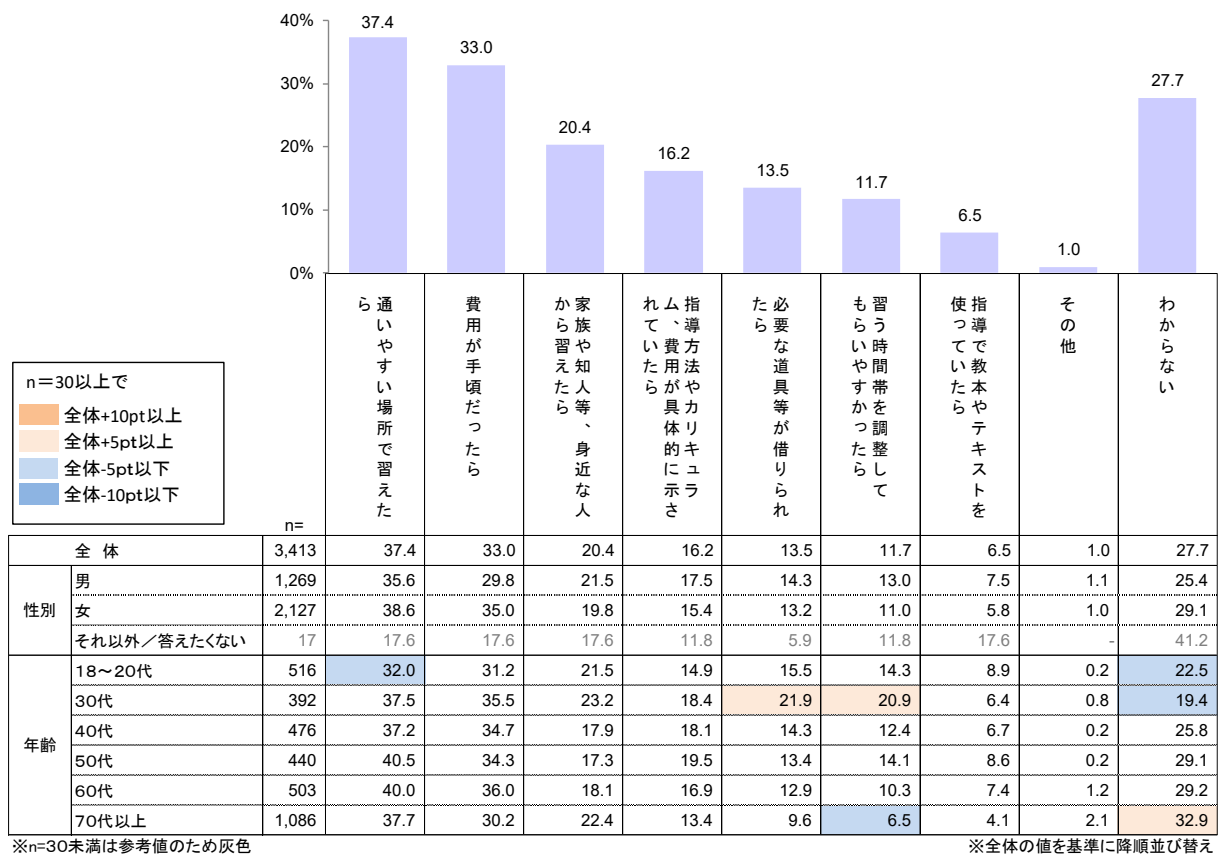


図 15 DQ11：礼法を習いやすい状況

(その他の内容) オンラインでなら、指導者との相性、同じ趣味の人がいたら

DQ12 礼法に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000円未満」の74.9%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」15.4%、「10,000円以上～15,000円未満」3.8%となった。月額1万円以上支払ってもよいと回答した比率は9.6%（3,413人中329人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で月額1万円以上支払ってもよいという回答が14.8%（1,269人中188人）あったのに対し、女性は6.4%（2,127人中137人）にとどまり、男女で差が見られる。

また、年齢別では、年齢が若いほど月額1万円以上支払ってもよいという回答が増える傾向がある。

		n=	(%)												
			5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下 </div>	全体	3,413	74.9	15.4	3.8	2.3	1.2	1.0	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	9.6	
	性別	男	1,269	67.7	17.5	5.6	3.7	2.1	1.6	0.8	0.1	0.2	0.3	0.4	14.8
		女	2,127	79.3	14.2	2.7	1.5	0.7	0.6	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	6.4
		それ以外/答えたくない	17	64.7	11.8	-	5.9	-	-	-	-	-	5.9	11.8	23.5
年齢	18～20代	516	62.4	17.6	6.8	5.0	2.5	2.1	0.6	0.6	0.8	1.2	0.4	20.0	
	30代	392	66.8	15.3	7.7	3.8	2.6	1.3	1.5	0.3	-	-	0.8	17.9	
	40代	476	68.3	18.7	3.8	3.4	1.9	1.9	0.8	0.4	0.4	-	0.4	13.0	
	50代	440	78.4	14.8	2.3	1.8	1.1	0.9	0.2	-	0.2	-	0.2	6.8	
	60代	503	81.5	13.9	2.2	1.4	-	0.4	0.2	-	-	0.2	0.2	4.6	
	70代以上	1,086	82.2	14.0	2.3	0.6	0.5	0.2	-	-	-	-	0.2	3.8	

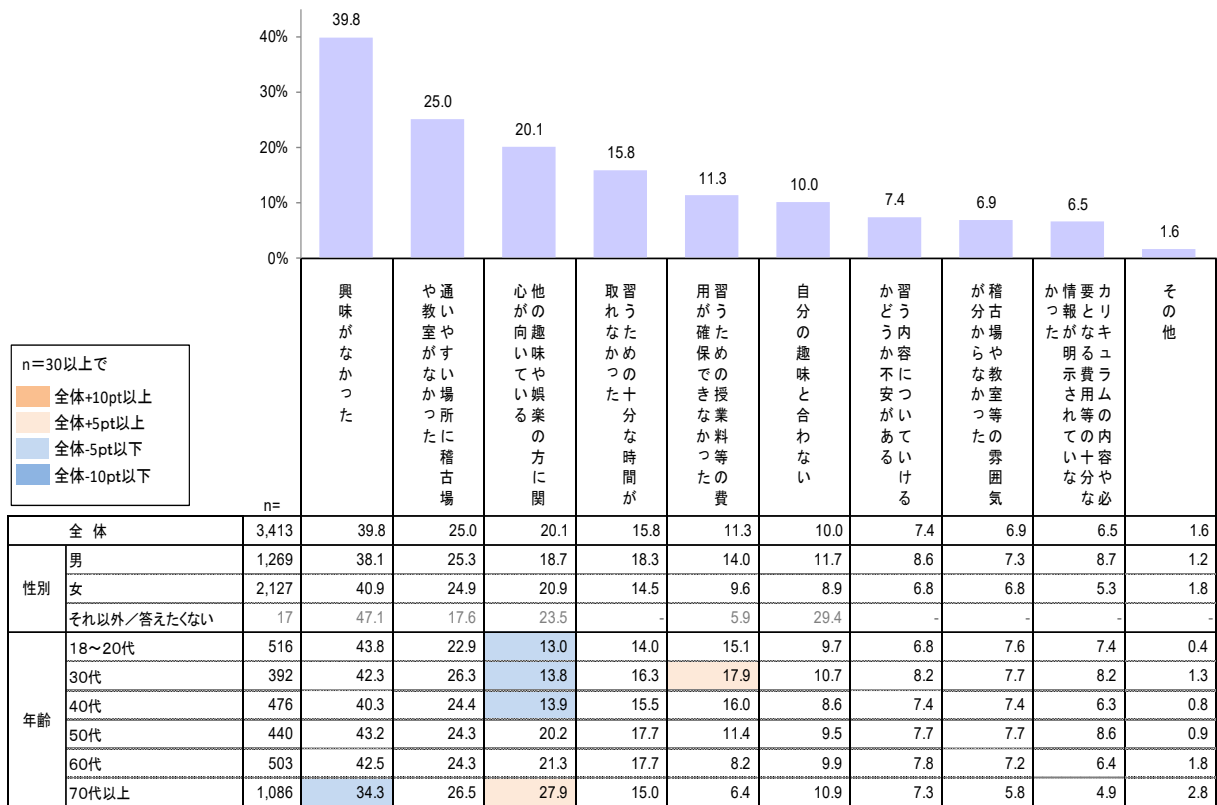
※n=30未満は参考値のため灰色

図 16 DQ12：礼法に支払える月額費用

DQ13 礼法を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「興味がなかった」の39.8%で、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」25.0%、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」20.1%となった。

年齢別では、10～40代で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」の回答比率が高い一方、年齢が高いほど「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」の回答比率が高まっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図17 DQ13: 礼法を習っていない理由

(その他の内容) 必要性を感じなかった、家族からの教示で十分、学校で十分やった、語りや能書きが多く方向が違う(堅苦しさ)

DQ14 礼法に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の伝統文化への理解を深められる」の38.6%で、次いで「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」38.0%、「作法、しきたりなどが複雑」31.2%となった。

年齢別では、10～30代で「作法、しきたりなどが複雑」という回答比率が高く、70代以上で低い傾向が見られる。また、30代では「月謝等にお金がかかる」（21.7%）、「人間関係が複雑」（14.3%）というマイナスイメージの回答比率が高い一方、70代以上では「日本の伝統文化への理解を深められる」（45.6%）というプラスイメージの回答比率が高くなっている。

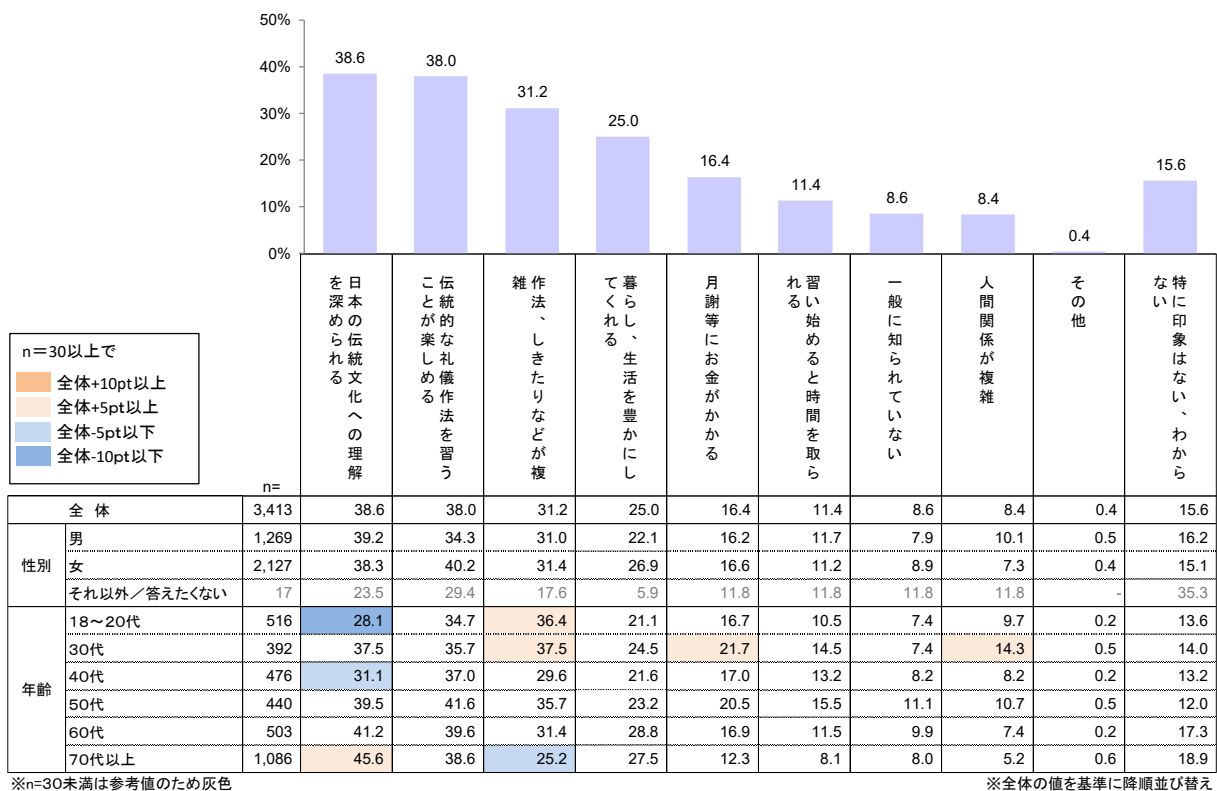


図 18 DQ14：礼法に対する印象やイメージ

（その他の内容）堅苦しく煩雑で無駄が多い、独自ルールや作法の乱立で何が正しいのか分からない、知っていれば無難に過ごせる、一般常識として必要最低限の知識を学びたい

DQ15 礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」の42.5%で、次いで「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」41.8%、「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」24.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見た場合、男性で「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(36.6%)の回答比率が低いことが分かる。

年齢別で見ると、30代の「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」(29.8%)、「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(26.3%)の回答比率が高い傾向にある。

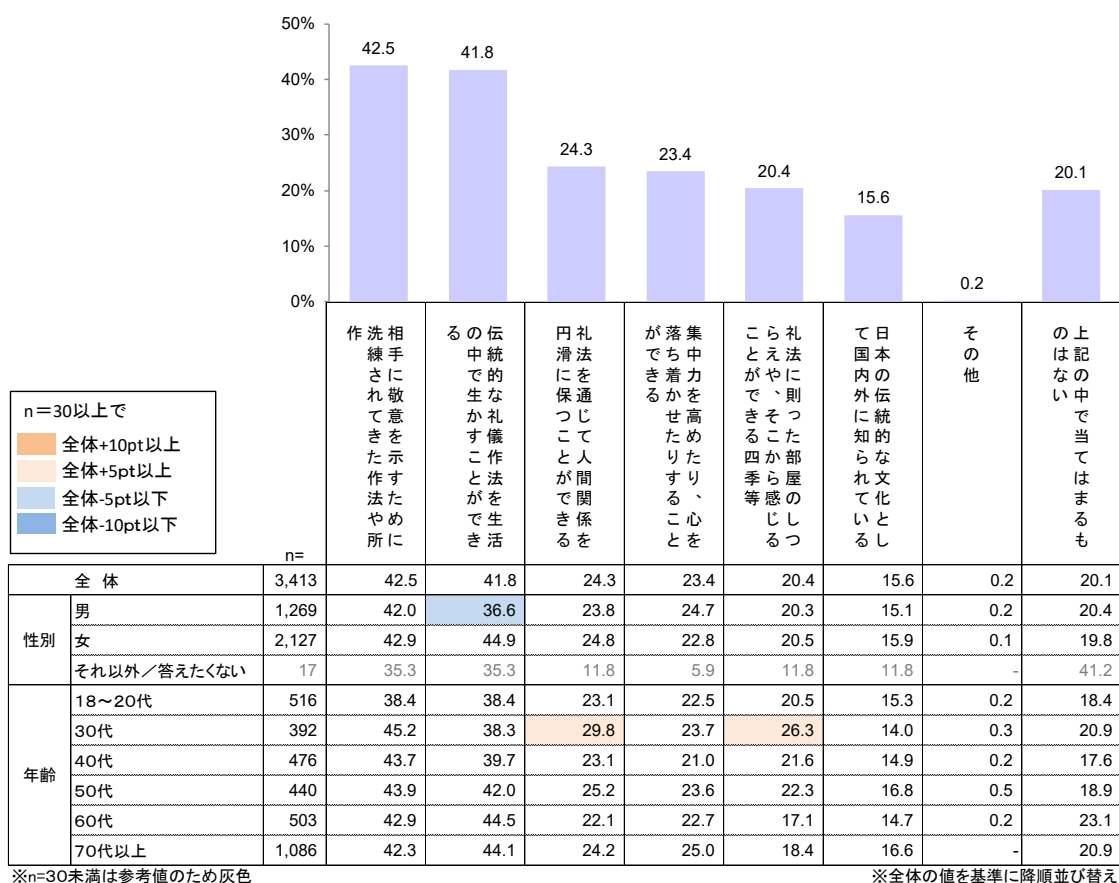


図 19 DQ15 : 礼法に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 日本の礼儀作法なので何でも知っておいて損な事はない、普段の姿勢所作がきれいになり、若く見られる

■「礼法を今まで経験したことはない」と回答した者への設問（DQ16～DQ20：未経験者の実態把握）

本設問では、礼法を経験したことがないと回答した者が、もし礼法を体験するならば、どのような内容や機会なら参加したいか、また、礼法に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

DQ16 参加してみたい礼法の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 57.6%で、次いで「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」26.0%、「普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる」20.1%、「礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる」13.6%となった。

男女別では、男性で、「上記の中で当てはまるものはない」（64.9%）と全体平均を上回るほか、「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」（20.8%）は全体平均を下回っている。対照的に、女性は「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」（31.9%）、「普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる」（25.4%）となっており、男女差が大きい傾向が見られる。

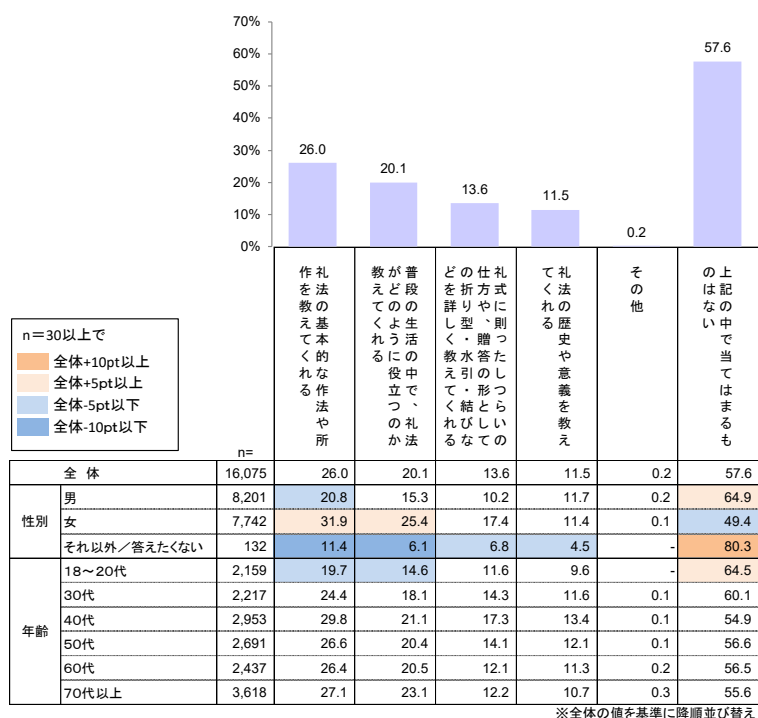


図 20 DQ16：参加してみたい礼法の体験内容

（その他の内容）車椅子利用者の礼法があるのなら知りたい、優しい指導者

DQ17 参加しやすい礼法の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の54.5%で、次いで「手ごろな参加費で参加できたら」23.6%、「行きやすい場所で体験できたら」23.3%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「わからない」(62.0%)の回答比率が高い一方で、「手ごろな参加費で参加できたら」(17.2%)、「行きやすい場所で体験できたら」(17.2%)の回答比率が低い傾向にある。一方、女性は、「わからない」(46.3%)の回答比率は低く、「手ごろな参加費で参加できたら」(30.7%)、「行きやすい場所で体験できたら」(29.9%)の回答比率が高いことから、男女で礼法に対する関心の差があると推察される。

また、年齢別で見ると、18～20代で「わからない」(60.6%)の回答比率が高く、「手ごろな参加費で参加できたら」(15.4%)、「行きやすい場所で体験できたら」(15.4%)の回答比率が共に低いことから、若い世代が礼法の体験そのものに関心を持っていないことが推察される。

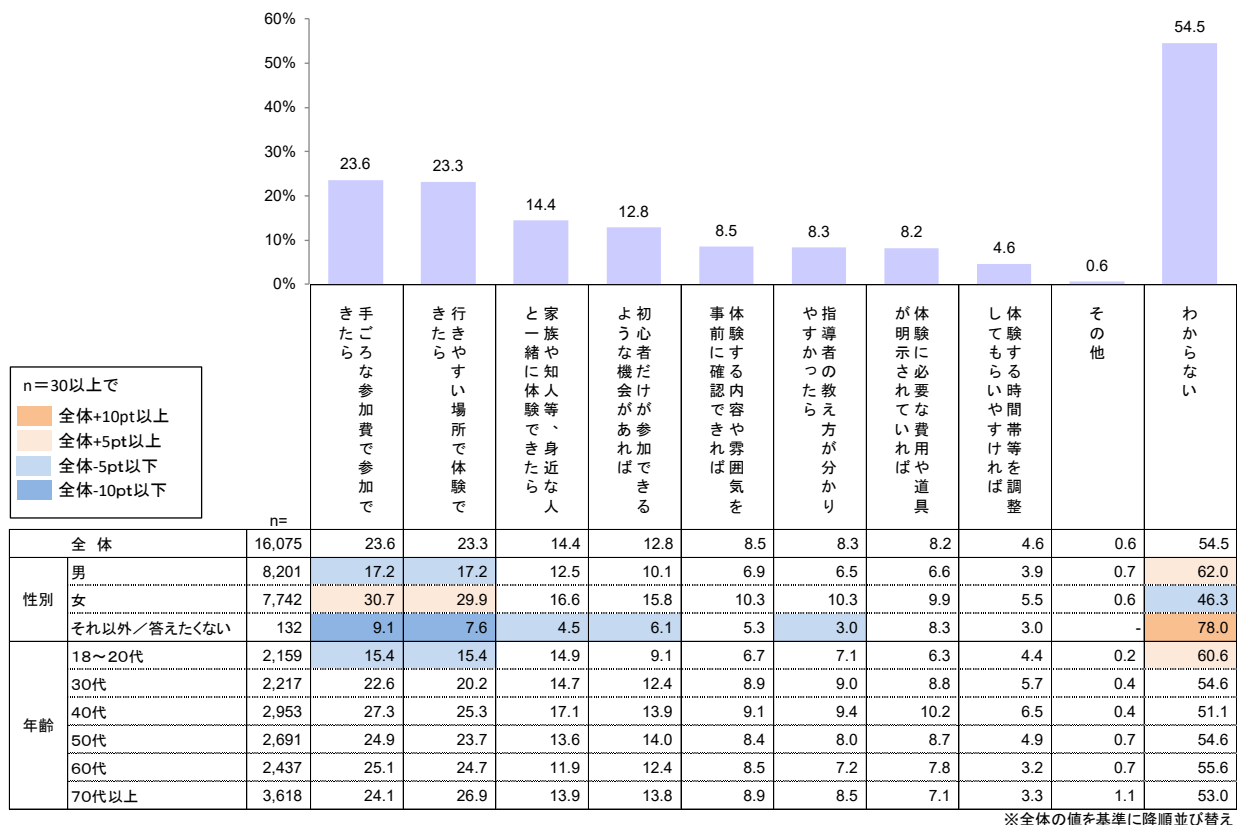


図 21 DQ17：参加しやすい礼法の体験条件

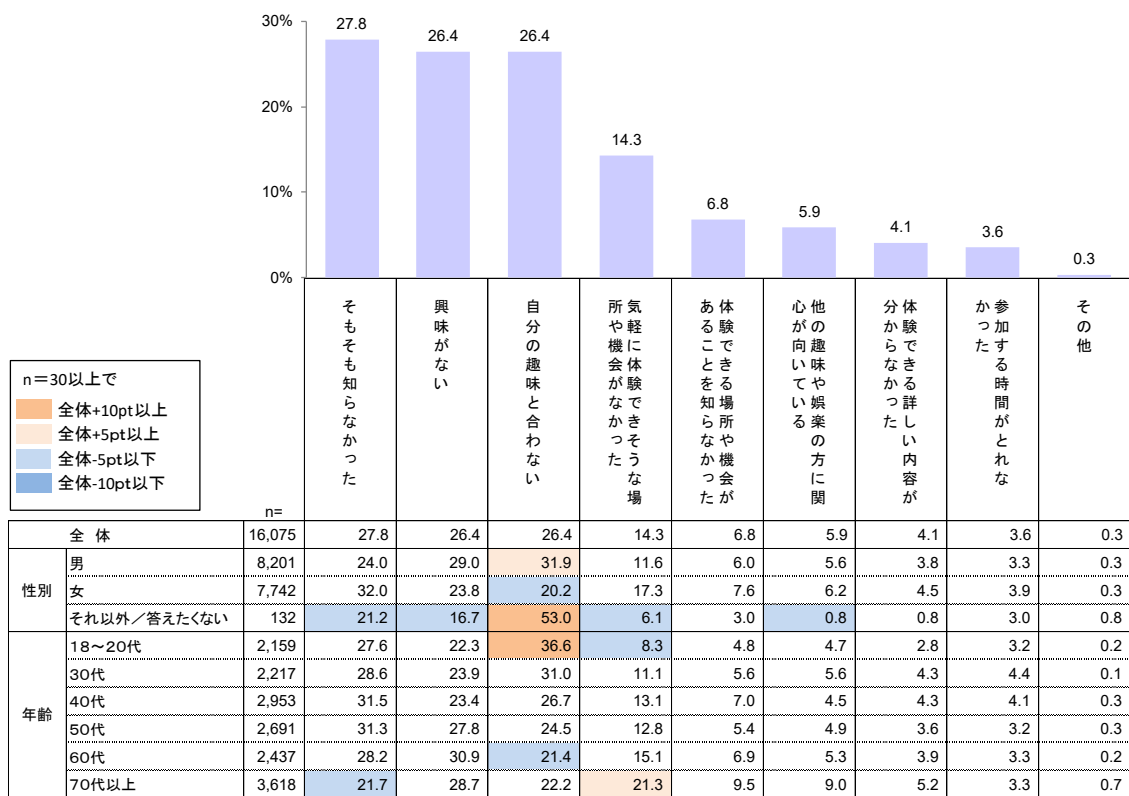
(その他の内容) 無料体験、障害者でも参加可、指導者の人となりが分かったら (怖い人は嫌)、堅苦しくなければ、一人参加しやすい

DQ18 礼法を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「そもそも知らなかった」の27.8%で、次いで「興味がない」、「自分の趣味と合わない」(ともに26.4%)となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「自分の趣味と合わない」(31.9%)の回答比率が高い。

また、年齢別で見ると、18~20代で「自分の趣味と合わない」(36.6%)の回答比率が高く、70代以上で「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」(21.3%)の回答比率が高い。



※全体の値を基準に降順並び替え

図 22 DQ18：礼法を体験したことがない理由

(その他の内容) 必要な時に調べればいから必要性を感じなかった、ある程度身につけている、実生活で使い物にならない、茶道を習いながら礼法も学べた

DQ19 礼法に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の48.1%で、次いで「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」20.7%、ほぼ同率で「作法、しきたりなどが複雑」20.0%、次いで「日本の伝統文化への理解を深められる」18.2%と続いている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見た場合、男性で「特に印象はない、わからない」(56.3%)の回答比率が高い。

また、年齢別で見ると、年齢が高い方が「日本の伝統文化への理解を深められる」という回答比率が高い。



図 23 DQ19：礼法に対する印象やイメージ

(その他の内容) 堅苦しそう、面倒くさそう、役に立つ場面が日常にない、指導が厳しそう

D Q20 礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 57.2%で、次いで「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」23.9%、「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」17.1%、「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」10.9%と続く。

男女別で見ると、男性で、「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(18.0%)の回答比率が低く、「上記の中で当てはまるものはない」(64.5%)の回答比率も高いことから、男性よりも女性の方が礼法に対して興味関心や魅力を感じている傾向がうかがえる。

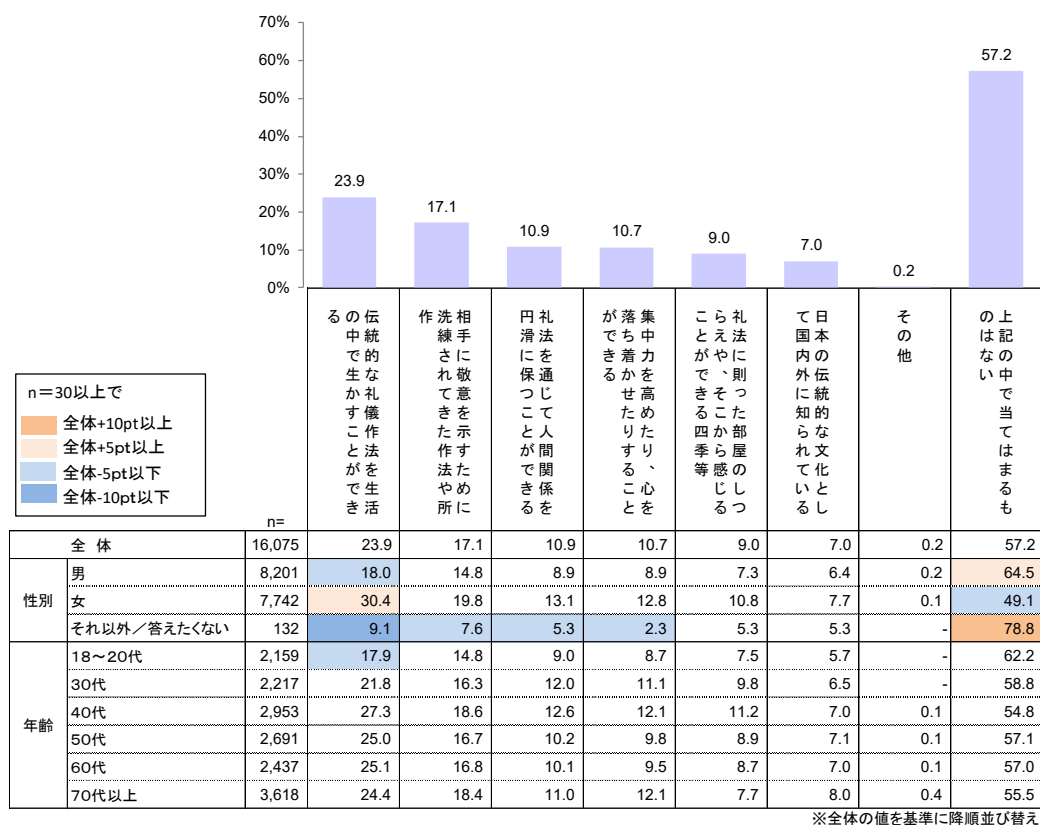


図 24 D Q20 : 礼法に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 実生活で失礼にならないことなら学びたい、葬儀での振舞方

(3) 調査結果に基づく分析と考察

本節では、礼法の振興施策の検討を主眼として前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

礼法に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

礼法の経験・体験の有無と同居家族とのクロス集計の結果からは、「家族従業者」、「主婦・主夫」、「学生」に「参加体験あり」層がやや多い傾向にあることが分かる。居住地域、世帯年収とのクロス集計の結果からは際立った傾向は見られない。

集計表 1 居住地・職業・同居家族×礼法の経験の有無

		FQ フィルタリング・パート (%)			
			「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
n=30以上で					
全体+10pt以上					
全体+5pt以上					
全体-5pt以下					
全体-10pt以下					
n=					
全 体		20,000	2.6	17.1	80.4
居住地	北海道	852	2.5	13.4	84.2
	東北	1,385	2.8	16.4	80.8
	関東	7,422	2.8	16.7	80.5
	北陸	816	1.8	18.4	79.8
	東海(中部)	2,349	2.3	16.9	80.8
	近畿	3,247	3.0	17.3	79.7
	中国	1,140	2.1	17.4	80.5
	四国	584	0.7	19.0	80.3
	九州	1,987	2.5	19.2	78.3
	沖縄	218	1.8	13.3	84.9
職業	正規の職員・従業員	6,411	3.2	15.1	81.8
	非正規の職員・従業員	2,803	2.1	16.8	81.1
	自営業主・自由業	1,239	2.3	17.2	80.5
	家族従業者	135	3.7	24.4	71.9
	主婦・主夫	3,987	3.1	22.3	74.6
	学生	512	2.9	23.8	73.2
	リタイア、無職	4,141	1.6	14.9	83.5
	その他	772	1.4	13.5	85.1
同居家族	ひとり暮らし	4,145	3.5	15.8	80.7
	核家族	13,277	2.3	17.7	80.0
	三世大家族	1,179	2.9	19.8	77.4
	上記以外で同居している人がいる	1,399	1.6	12.9	85.6

集計表2 昨年度の世帯年収×礼法の経験の有無

(%)

		FQ フィルタリング・パート			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
全体		20,000	2.6	17.1	80.4
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	3.8	11.4	84.8
	100万円以上～200万円未満	1,325	2.9	15.9	81.2
	200万円以上～300万円未満	2,030	3.0	17.6	79.4
	300万円以上～400万円未満	2,367	2.4	19.3	78.4
	400万円以上～500万円未満	1,937	3.0	17.6	79.4
	500万円以上～600万円未満	1,457	2.3	18.2	79.5
	600万円以上～700万円未満	1,096	2.6	20.3	77.0
	700万円以上～800万円未満	1,024	2.1	15.2	82.6
	800万円以上～900万円未満	702	3.4	19.4	77.2
	900万円以上～1,000万円未満	653	2.8	14.9	82.4
	1,000万円以上	1,525	3.4	20.0	76.6
分からない	4,893	1.7	15.4	82.9	

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、礼法の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者の全体平均（2.6%）と比較すると、「囲碁や将棋」（19.5%）、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」（14.4%）、「バレエやダンス」（13.2%）、「美術」（9.9%）が高い回答比率を示している。同様の傾向は「参加体験あり」と回答した者にも見られ、こちらでは「経験あり」の回答者で平均以上であった項目に加え、「楽器演奏」、「スポーツ・武道」でも平均を5%以上上回っている。

集計表3 子供の頃の習い事×礼法の経験の有無

(%)

		FQ フィルタリング・パート			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
全体		20,000	2.6	17.1	80.4
楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)		4,615	4.6	23.2	72.2
バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)		755	13.2	30.7	56.0
美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)		939	9.9	28.4	61.7
伝統芸能や茶道・華道等の芸事		743	14.4	33.9	51.7
囲碁や将棋		221	19.5	29.0	51.6
書道・習字・ペン字、そろばん		8,121	3.3	21.6	75.2
スポーツ・武道		3,661	3.8	22.9	73.3
その他		449	2.9	27.4	69.7
していない		7,852	0.9	9.5	89.7

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見る事ができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果を見ると、「特に何もしていない」との回答比率は全体平均で 17.4%であるが、「経験あり」(7.4%)、「参加体験あり」(4.9%) と回答比率が低いことから、経験あり・参加体験ありの回答者共に、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向として、「経験あり」と回答した者の場合、日本の伝統的な文化に関しては、「お茶」(11.7%)、「書道」(9.6%)、「お花」(9.4%)、「邦楽、民謡」(4.5%)、「おどり(日舞など)」(4.1%)、と全体平均を上回る回答比率となっている。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、「特に何もしていない」が 4.9%と全体平均を下回っているのを除き、全ての種目で、平均以上か平均並の回答比率となっており、分野に関わらず趣味・娯楽等活動を幅広く行っていることが推察できる。

次に、1ヶ月に使える趣味・娯楽等にかかる費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかかる費用については、「5,000円未満」の回答比率が、全体平均の 49.5%と比較すると、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者いずれも平均を下回っている。また、平均月2万円以上支出している割合を計算した場合、全体平均は 11.4%となるが、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者ともに、全体平均を上回る回答比率であることから、礼法の経験や体験をした者の趣味・娯楽等の活動への積極的な関わりがこの集計においてもうかがうことができる。

次に、趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「経験あり」と回答した者の趣味・娯楽等を行う時間帯として「平日夕方」(23.2%)の回答比率が高く、対照的に休日の活動率は全体平均を下回っている。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「1時間未満」の回答比率が全体平均で 22.9%に対し、「経験あり」と回答した者は 19.0%、「参加体験あり」と回答した者は 18.8%と低い。一方、「2時間以上～3時間未満」の回答比率は全体平均を上回る回答比率となっており、「未経験」と回答した者と比べても、趣味・娯楽等の活動を積極的に行っている傾向が見られる。

集計表 4 礼法の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

		共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)									
		邦楽、民謡	なレ音楽鑑賞(ド、配信、FM)	書道	お茶	お花	おどり(日舞など)	除読(仕事として、勉強など)	寒国内観光(避暑、避)	ルタ複(シ、アウトレングトモン)	特に何もしていない
	n=										
全体	20,000	1.5	17.3	1.7	1.6	1.8	0.4	16.1	30.7	15.7	17.4
「経験あり」層	512	4.5	15.6	9.6	11.7	9.4	4.1	13.7	28.1	13.7	7.4
「参加体験あり」層	3,413	3.0	22.1	3.7	4.1	4.1	0.7	20.9	42.6	24.6	4.9
「未経験」層	16,075	1.1	16.3	1.0	0.7	1.0	0.2	15.1	28.3	13.9	20.3

※共通設問1は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。(以下同様)

集計表5 礼法の経験の有無×趣味・娯楽等に1ヶ月に使える費用

		共通設問2 1ヶ月に使える趣味・余暇費用 (%)											
		5 0 0 0 円 未 満	15 0 0 0 円 未 満	11 5 0 0 円 未 満	21 0 5 0 円 未 満	22 5 0 0 円 未 満	32 0 5 0 円 未 満	33 5 0 0 円 未 満	43 0 5 0 円 未 満	44 5 0 0 円 未 満	54 0 5 0 円 未 満	5 0 0 0 円 未 満	合計
n=30以上で													
		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下								
全体	16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4
「経験あり」層	474	32.1	19.0	13.5	11.8	6.3	5.3	2.5	2.1	1.1	0.6	5.7	23.6
「参加体験あり」層	3,246	40.8	25.8	12.4	6.8	4.3	3.5	1.8	0.7	0.7	0.8	2.2	14.1
「未経験」層	12,807	52.4	22.3	9.6	5.5	2.7	2.8	1.2	0.5	0.3	0.6	2.2	10.3

集計表6 礼法の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

		共通設問3 1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯 (%)							
		平日 午前	平日 午後	平日 夕方	平日 夜間	休日 午前	休日 午後	休日 夕方	休日 夜間
n=30以上で									
		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下				
全体	16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	474	33.3	33.1	23.2	19.2	27.2	28.3	17.3	9.7
「参加体験あり」層	3,246	34.3	33.0	16.5	17.7	35.0	40.5	20.3	13.2
「未経験」層	12,807	29.6	29.2	15.4	19.1	35.2	45.1	21.6	16.4

集計表7 礼法の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

		共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間 (%)										
		1 時 間 未 満	2 1 時 間 未 満	3 2 時 間 未 満	4 3 時 間 未 満	5 4 時 間 未 満	6 5 時 間 未 満	7 6 時 間 未 満	8 7 時 間 未 満	9 8 時 間 未 満	1 9 0 時 間 未 満	1 0 時 間 以 上
n=30以上で												
		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下							
全体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	474	19.0	22.4	18.8	10.3	5.3	4.9	1.9	2.7	1.7	1.5	11.6
「参加体験あり」層	3,246	18.8	25.1	14.8	8.2	4.5	4.7	1.9	1.8	0.9	1.5	17.8
「未経験」層	12,807	24.1	23.1	13.2	6.5	4.5	3.9	1.7	1.9	0.9	1.3	18.9

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と礼法の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者は、「リスクはできるだけ避けたい」、「流行っていないけれども、自分が面白いと思ったものは試してみたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回っている。また、「チャンスと感じたら逃したくない」(31.4%)の回答比率は、全体平均を上回ると共に「参加体験あり」との回答者の回答比率も上回っている。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で全

体平均を上回り、また、「家族や友人・知人の役に立ちたい」(36.4%)、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」(30.9%)、「流行っていないくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」(36.9%)の3項目で全体平均の回答比率を大きく上回っている。

「未経験」と回答した者の場合は、「上記であてはまるものはない」(25.5%)以外の全項目で回答比率が全体平均を下回る。

集計表8 礼法の経験の有無×消費行動に対する価値観

		共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)																					
		たい	自分の考えを主張するよ	ごとの考えに基づいて、自	周りに合わせるより、自	た	チャンスと感	た	リスクは	家族や友人・知人の役に	決	要	い	者	そ	た	は	流	買	自	な		
		自分、周りと	ごとの考えを	周りに合わせる	た	チャンスと感	た	リスクは	家族や友人・知人の役に	決	要	い	者	そ	た	は	流	買	自	な			
n=30以上で		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下																		
n=																							
全体	20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0							
「経験あり」層	512	34.0	29.3	31.4	31.4	26.8	16.6	24.6	6.8	10.9	15.4	7.2	20.9	7.4	5.1	9.0							
「参加体験あり」層	3,413	32.8	29.5	27.1	48.3	36.4	17.3	30.9	3.3	9.6	22.1	6.1	36.9	5.3	4.5	7.2							
「未経験」層	16,075	23.8	21.0	18.3	40.9	22.4	9.0	17.0	2.1	4.3	11.8	3.4	24.8	2.7	2.7	25.5							

■普段接するメディアとのクロス集計結果

回答者が普段接するメディアと礼法の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者の場合、「CATV や衛星放送のチャンネル」、「ラジオ」、「新聞」、「雑誌・タウン誌」の回答比率が全体平均を5%以上上回り、その一方、「テレビ(民放)」、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」、「動画投稿サイト」、「SNS」では回答比率が全体平均を下回っており、CATV や衛星放送、新聞や雑誌などに普段から接触している傾向が見られる。

一方、「参加体験あり」と回答した者の場合、全てのメディアの回答比率が全体平均を上回っており、幅広くメディアに接触しているものと推察される。

なお、「未経験」と回答した者の場合は、全てのメディアにおいて全体平均より回答比率がやや低い傾向にある。

集計表9 礼法の経験の有無×接触メディア

		共通設問6 接触メディア (%)																			
		B	波	C	経	新	タ	雑	な	イ	動	紙	電	紙	電	x	有	見			
		テレビ	テレビ	ATV	経	新聞	雑誌	雑誌	な	イ	動	紙	電	紙	電	x	有	見			
n=30以上で		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下																
n=																					
全体	20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	11.9	10.8					
「経験あり」層	512	58.6	45.3	18.8	19.3	35.2	13.3	35.5	24.0	25.6	22.1	9.4	9.0	8.2	15.2	4.9					
「参加体験あり」層	3,413	74.9	51.7	14.1	19.0	36.4	13.3	53.9	38.8	35.4	28.0	7.9	8.8	7.8	14.6	2.5					
「未経験」層	16,075	68.7	39.5	9.0	13.1	26.6	6.1	44.8	32.9	27.1	18.7	5.4	6.4	6.0	11.2	12.8					

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、礼法の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

1) 礼法を経験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18～20代、30代と続く。

次に経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、チャンスと感じたら逃したくないという意識が強くあり、周りとの協調や一体感を大事にしつつも自身の考え方で物事を判断し、身近な人や社会の役に立ちたいという価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見える。普段のメディア接触についてはCATVやラジオ、新聞等のメディア媒体への接触率が高い傾向にあるといえる。

2) 礼法を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18～20代、60代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあり、また、伝統的な文化への関わりが高い傾向がうかがえる。消費行動への意識については、面白いものを試したいという嗜好性が特徴として表れているほか、家族や知人、困っている人の役に立ちたいという傾向もうかがえる。また、普段のメディア接触については、地上波放送やBS放送、新聞や雑誌、電子書籍や有料動画、紙の書籍等、普段から幅広くメディア接触に接触している傾向にある。

3) 礼法を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、経験がないとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して、特に何もしていないという回答比率が全体平均を上回っており、積極的に趣味・娯楽等を行うことがない回答者が多い傾向にある。消費行動への意識については、当てはまるものはないという回答が全体平均を上回っており、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、いずれのメディアとも接触率があまり高い傾向にあるとは言えない。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

はじめに、「未経験」と回答している者について分析を行う。上述の回答者属性に関する分析結果からは、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、なぜ礼法を経験してこなかったのか、また、礼法を経験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、礼法を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とDQ16「参加してみたい礼法の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

DQ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと57.6%が回答しており、残りの42.4%は、体験内容によっては礼法の体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、礼法の体験に参加してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果からは、ほとんどの項目で全体平均を上回る回答比率を示していることから、趣味・娯楽等の活動に対して積極的であると分かる。

消費行動に対する価値観とのクロス集計結果からは、ほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。この傾向は「参加体験あり」と回答した者の消費行動に対する価値観と近似している部分があり、家族や知人、困っている人の役に立ちたい、面白いと思ったものは試してみたい、と言った項目が合致している。また、「参加体験あり」と回答した者の場合、リスクを避けたいとの回答が全体平均より高い（全体41.9%に対して48.3%）が、「未経験者」の場合、より強くこの傾向が見られる。

普段からのメディア接触とのクロス集計結果を見ると、消費行動に対する価値観と同じく、「参加体験あり」と回答した者と近似した傾向、つまり、普段から幅広くメディアに接触している傾向が見て取れる。

次に、礼法の参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。DQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選んでいる割合が高い。このように、礼法の参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とは言えず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

集計表 10 参加してみたい礼法の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)									
		邦楽、民謡	音楽鑑賞（レコード、テープ、FM、CD、など）	美術鑑賞（テレビは除く）	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	読書（仕事、勉強などを除く）	複合シヨッピングセンター、アウトレットモール	特に何もしていない
全体	16,075	1.1	16.3	5.6	1.0	0.7	1.0	0.2	15.1	13.9	20.3
礼法の基本的な作法や所作を教えてください	4,187	1.7	23.5	10.3	1.8	1.5	1.8	0.3	23.9	23.3	6.3
礼法の歴史や意義を教えてください	1,851	2.5	22.6	12.3	1.5	1.7	1.8	0.5	24.0	22.3	5.3
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてください	2,193	2.2	26.4	12.3	1.8	1.9	2.4	0.4	26.2	26.4	5.8
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてください	3,225	1.9	25.2	11.4	1.7	1.6	2.1	0.4	25.4	24.4	5.8
その他	26	-	19.2	3.8	3.8	-	-	-	11.5	11.5	11.5
上記の中で当てはまるものはない	9,258	0.7	12.7	3.2	0.6	0.3	0.6	0.1	10.5	8.5	30.2

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 11 参加してみたい礼法の体験内容×消費行動に対する価値観

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)																												
		周り、周りの人を尊重しよ	自分の考えを主張するよ	ごとの考えに基づいて、自	分に合わせるより、自	分に合わせるより、自	分を判断したい	たに合わない	チャンスと感したら逃し	たい	リスクはできるだけ避け	立ちたい	家族や友人・知人の役に	決の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解	要な人の役に立ちたい	困っている人・助けが必	周りの人から注目され	者同士の一体感が大事だ	集まりやイベントの参加	それなりの体験をしたい	その時・その場でしか得	た流行りのものは試してみ	流行っていないが、自分	が面白くないと思つたも	は試してみたい	買ったものや、気持ちを	発信したい	自分が発信したものに反	応が欲しい
全体	16,075	23.8	21.0	18.3	40.9	22.4	9.0	17.0	2.1	4.3	11.8	3.4	24.8	2.5	2.7	25.5														
礼法の基本的な作法や所作を教えてください	4,187	37.5	29.1	28.1	57.8	36.2	16.6	30.5	3.1	7.6	22.4	5.6	41.2	4.0	4.2	4.8														
礼法の歴史や意義を教えてください	1,851	34.7	34.8	34.9	52.4	37.4	22.7	32.4	4.6	9.3	24.7	6.7	40.2	5.7	5.6	3.9														
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてください	2,193	35.0	32.4	34.6	58.7	40.8	19.4	33.7	4.0	8.9	27.2	6.9	46.7	5.8	5.4	3.6														
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてください	3,225	34.5	29.5	28.7	59.2	39.8	18.3	32.1	3.1	8.9	24.5	5.7	44.7	4.7	4.6	4.3														
その他	26	26.9	50.0	15.4	50.0	11.5	7.7	15.4	-	-	-	-	50.0	-	7.7	15.4														
上記の中で当てはまるものはない	9,258	16.2	16.2	12.5	32.4	14.7	4.9	9.9	1.4	2.4	6.1	2.1	16.7	1.6	2.0	40.5														

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 12 参加してみたい礼法の体験内容×接触メディア

	n=	共通設問6 接触メディア (%)																				
		Bテレビ（民放の地上波、	波・BS）	テレビ（NHKの地上	チャンネルや衛星放送の	経由を除く）	ラジオ（インターネット	新聞（電子版含む）	タ雑誌・タウン誌（イン	ターネット経由を除く）	む）	サイサイト・ニュースウエ	ブ（ヘア）	ネットの経由を含む	動画投稿サイト（YouTube	等）	ar、LS、NT、EW、It、e、bt	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	x、H、N、L、i、V
全体	16,075	68.7	39.5	9.0	13.1	26.6	6.1	44.8	32.9	27.1	18.7	5.4	6.4	6.0	11.2	12.8						
礼法の基本的な作法や所作を教えてください	4,187	81.5	52.6	11.9	17.6	35.5	10.0	58.7	42.6	36.9	29.5	8.3	9.9	9.2	15.0	1.4						
礼法の歴史や意義を教えてください	1,851	78.4	54.7	12.9	20.3	35.1	12.5	57.3	43.5	36.7	31.4	10.7	11.0	9.1	16.5	1.1						
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてください	2,193	78.7	53.1	13.2	18.3	34.3	12.8	61.1	46.0	40.2	31.8	10.6	11.9	10.6	16.7	1.7						
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてください	3,225	79.5	53.6	13.0	18.6	37.0	10.7	59.5	43.8	36.2	30.1	8.5	10.0	9.5	15.6	1.7						
その他	26	65.4	42.3	23.1	3.8	42.3	-	65.4	42.3	30.8	23.1	3.8	3.8	-	7.7	3.8						
上記の中で当てはまるものはない	9,258	61.7	32.2	7.4	10.4	21.5	3.9	37.7	27.9	22.1	13.1	3.9	4.7	4.5	9.2	20.7						

※n=30未満は参考値のため灰色

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、礼法は未経験と回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、DQ16「参加してみたい礼法の体験内容」の各種の参加体験とDQ17「参加しやすい礼法の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、DQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の87.7%が、DQ17で「わからない」と回答している。一方、実際に希望する体験機会がある層では、「わからない」という回答は極めて少ない。

具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高い。体験条件の選択肢の回答比率を見ると、「行きやすい場所で体験できたら」、「手ごろな参加費で参加できたら」の2項目は回答比率が50%から60%台と高く、特に重視されている傾向が分かる。

そのほか、「礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる」という体験内容を希望する者は、必要な費用や道具、体験する時間帯等の調整、初心者だけの参加機会、体験する内容や雰囲気の前確認、指導者の教え方の分かりやすさと言った選択肢の回答比率が他の回答比率に比べて高い傾向にあり、体験する際の内容や条件について気にかけている傾向が見られる。

以上のように、礼法を未経験であると回答した者のうち、DQ16で具体的な体験内容を答えた者の多くは、DQ17の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

集計表 13 参加してみたい礼法の体験内容×参加しやすい礼法の体験条件

		DQ17 参加しやすい礼法体験の条件 (%)										
		と家族や知人に体験でき、身近な人	行きやすい場所での体験	手ごろな参加費での参加	体験に必要な費用や道具	体験する時間帯を調整	初心者だけが参加できる	事前確認できれば	指導者の教え方が分かり	その他	わからない	
全体		16,075	14.4	23.3	23.6	8.2	4.6	12.8	8.5	8.3	0.6	54.5
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる		4,187	36.7	57.2	57.4	20.3	11.3	31.3	21.0	19.6	0.5	8.0
礼法の歴史や意義を教えてくれる		1,851	34.4	62.2	60.6	28.0	17.1	32.6	24.7	23.2	0.5	6.4
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる		2,193	33.9	63.0	68.2	33.3	19.2	39.5	30.0	26.5	0.6	4.6
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる		3,225	28.8	56.5	57.9	24.1	14.8	38.9	27.1	26.8	0.5	8.4
その他		26	-	11.5	11.5	3.8	3.8	7.7	-	7.7	69.2	26.9
上記の中で当てはまるものはない		9,258	3.3	3.8	4.3	1.0	0.6	2.3	1.5	2.2	0.6	87.7

※n=30未満は参考値のため灰色

■これまで礼法を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

礼法を未経験と回答した者には、これまでに礼法を体験してこなかった理由（DQ18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験機会が身近になかった、特定の事情で体験することができなかつた者や、そもそも全く興味がなかつた等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

既に、回答者の中には興味関心がなかつたわけではなく、体験できなかつた事情や理由があると回答した者がいることがDQ18の回答結果から判明しているが、体験できなかつた事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。DQ18の回答と参加してみたい体験内容を問う設問（DQ16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

まず、礼法をこれまで体験してこなかった理由として「そもそも知らなかつた」が回答比率として最も高く（27.8%）、次点で「興味がない」（26.4%）、「自分の趣味と合わない」（26.4%）と続いている。

DQ16とのクロス集計の結果を見ると、DQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では、DQ18で「自分の趣味と合わない」（41.3%）、「興味がない」（32.2%）の回答比率が全体平均よりも高いことが分かる。

一方、DQ16で具体的な体験内容についての選択肢を回答した者の場合、「そもそも知らなかつた」が全体平均を上回る一方、「興味がない」が10%台、「自分の趣味と合わない」が一桁台と、全体平均を下回っていることから、礼法自体を知らなかつた者の中には、機会があれば参加体験を希望する層が一定数いると推察できる。また、DQ18の「気軽に体験できそうな場所や機会がなかつた」、「体験できる場所や機会があることを知らなかつた」の回答比率が全体平均を大きく上回っており、体験機会そのものが身近になかつた場合や、体験機会があつても体験機会を希望する者に情報として届いていなかつたことが回答結果から推察される。

集計表 14 参加してみたい礼法の体験内容×礼法を体験したことがない理由

	n=	DQ18 礼法を体験したことがない理由 (%)										
		そもそも知らなかつた	興味がない	所や機会が体験できなかつたような場	気軽に参加する時間がとれない	参加する時間がとれない	あるときを知らなかつたか機会があつた	体験できる場所や機会があつた	体験できる場所や機会があつた	心が向いていない	他の趣味や娯楽の方に興味がある	自分の趣味と合わない
全体	16,075	27.8	26.4	14.3	3.6	6.8	4.1	5.9	26.4	0.3		
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	39.6	17.3	32.2	6.8	15.1	8.7	8.8	4.8	0.4		
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	32.5	18.1	35.5	12.2	19.5	12.3	10.0	5.7	0.4		
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	33.4	12.7	38.3	11.8	22.8	14.0	11.2	5.4	0.5		
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	34.3	16.1	31.2	7.6	18.8	12.2	11.9	7.5	0.4		
その他	26	-	65.4	11.5	3.8	7.7	3.8	19.2	34.6	19.2		
上記の中で当てはまるものはない	9,258	22.4	32.2	3.2	0.8	1.4	1.0	3.5	41.3	0.3		

※n=30未満は参考値のため灰色

■「未経験」層と「参加体験あり」層の礼法へのイメージの違い

礼法を未経験と回答した者が持つ礼法へのイメージについて、DQ19の結果では、「特に印象はない、わからない」(48.1%)、「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」(20.7%)、「作法、しきたりなどが複雑」(20.0%)、「日本の伝統文化への理解を深められる」(18.2%)、「暮らし、生活を豊かにしてくれる」(11.3%)、「月謝等にお金がかかる」(11.0%)となっており、そもそも具体的なイメージを持っていない者が多い。この要因は、回答者が礼法の未経験者であることから具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。また、難解なものと思えらる一方、プラスのイメージが先行している傾向が見られるが、これは、礼法が現在の社会生活において必要とされやすい、しきたりやマナーに通じているものと推察される。

下のグラフは、礼法の参加体験をしたことがある者のイメージ(DQ14)と未経験者のイメージ(DQ19)の回答結果を比較したものである。

未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を行うことで大幅に減っている一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「作法、しきたりなどが複雑」の回答比率が未経験と比べて、参加体験したの方が回答比率は高くなっており、他の選択肢についてもほぼ同様のことが指摘できる。

礼法の参加体験をすることで、礼法が持つ魅力はもちろんのこと、作法等の複雑さや時間や費用がどの程度かかるかも明確なイメージを描けるようになってきていることが分かる。

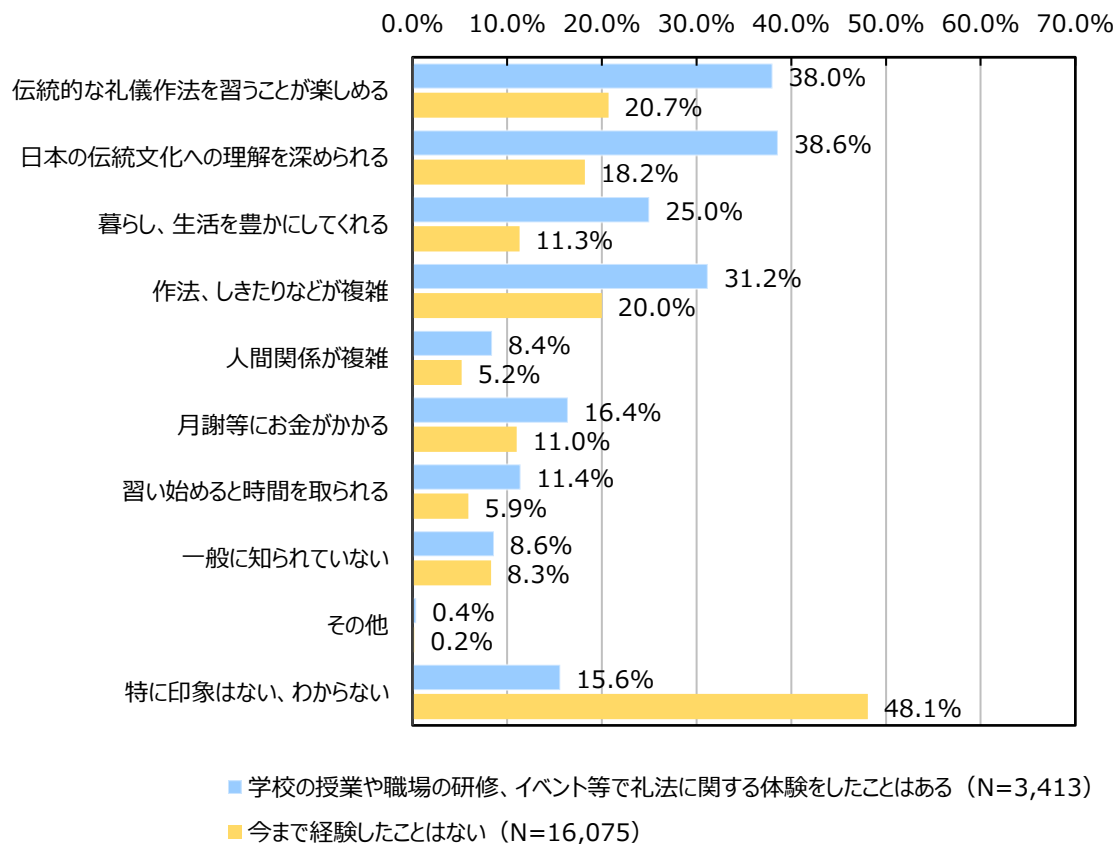


図 25 未経験者と参加体験者の礼法に対する印象やイメージの違い

■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の礼法の魅力についての評価の違い

未経験者が礼法に対する印象やイメージを具体的に描けないように、礼法の魅力に対する設問（DQ8、DQ15、DQ20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、礼法未経験者の回答者の半数が、「上記の中で当てはまるものはない」（57.2%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差がある。

このことは、他の魅力についても言え、参加体験者と未経験者を比較すると「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」や「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」の回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。

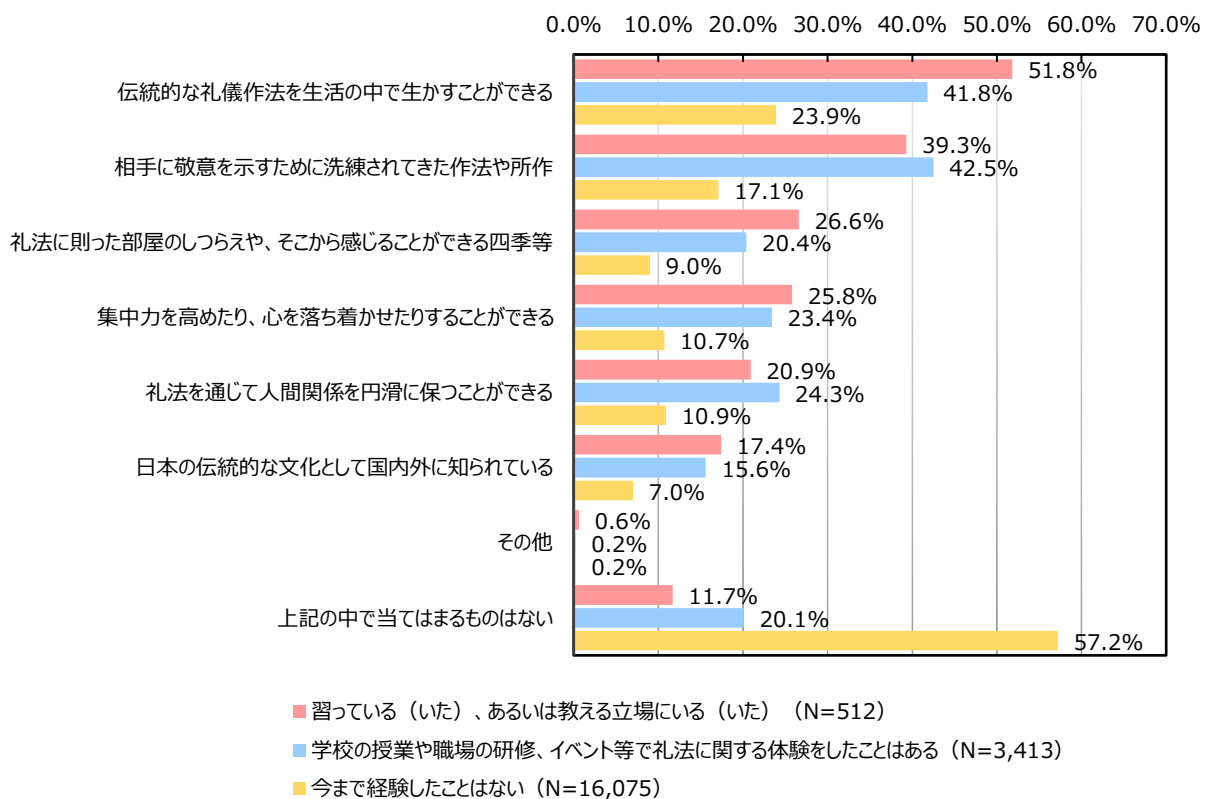


図 26 各回答者における礼法に対する興味関心や魅力の違い

上記のクロス集計の結果から、礼法を未体験と回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 礼法に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

礼法を未経験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 57.6%いる一方、42.4%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、他の礼法を未経験と回答した者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して積極的であり、消費行動への明確な意見を有し、普段から幅広いメディアに触れている傾向にある。また、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率も全体平均を上回る回答比率となっており、伝統的な文化への接触は決して低くない傾向にある。

2) 未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

DQ16、DQ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の 50～60%が、行きやすい場所と手頃な参加費用の 2 点を参加体験の条件としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。

また、DQ16 と DQ18 とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「気軽に体験できる場所がなかった」「そもそも知らなかった」の回答比率が高いことから、参加体験の意向を持つ者の多くが、礼法を知る機会や、体験する機会を得ることができなかったことが分かる。

3) 礼法の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、礼法に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、礼法の作法や所作、礼法の持つ意義などの具体的な行為や意味等と魅力が結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって礼法を体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至っていない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（DQ9）を問う設問の結果から、学校や稽古場、文化施設等で行われた体験イベントがきっかけであるという回答比率が48.0%と最も高く、次いで趣味や教養として礼法に興味関心があったとの回答が15.6%と、参加体験者の半数以上は体験イベントをきっかけに礼法の参加体験をしている傾向が見られる。また、体験の場（DQ10）については学校の授業や職場での研修、部活動やサークル活動のイベントの回答比率が高く、学校や職場における体験が中心となっている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、DQ9とDQ10のクロス集計の結果が下の表である。前述のとおり、体験したきっかけについて、学校や稽古場、文化施設等での体験イベント（48.0%）と回答した者のうち、「学校の授業や職場の研修会」（66.1%）、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」（57.7%）で体験を行ったとの回答比率が高い。

他方、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（10.5%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（7.6%）を選択した者では、「自宅」で、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（15.6%）と回答した者は、「文化施設等で行われた体験イベント」（29.0%）、で体験を行っていた回答比率が高いことが分かる。

このような結果から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、現状においては、イベント等での体験機会による参加体験の提供が、礼法を見知る場として大きい位置を占めているものと推察される。

集計表 15 礼法を体験した場×礼法を体験したきっかけ

		DQ9礼法を体験したきっかけ (%)									
		ど親が習っていた兄弟姉妹、祖父母	ど親が教えた兄弟姉妹、祖父母	友人、知人、誘われたから勧め	学校や稽古場、文化施設等での体験	知ったテレビや映画、雑誌、漫画	趣味や教養として、礼法	礼法に関心がある仕事や職業に	野分が興味を持った別関係	自分が行っている別の関係	その他
n=30以上で											
全体+10pt以上											
全体+5pt以上											
全体-5pt以下											
全体-10pt以下											
全体	n=3,413	10.5	7.6	9.3	48.0	12.0	15.6	6.7	11.2	3.9	
教室や稽古場等で開かれた体験会	510	24.3	11.6	14.3	45.7	10.0	22.0	9.6	13.1	1.4	
学校の授業や職場の研修会	1,522	7.9	7.3	7.1	66.1	12.5	11.7	6.0	5.5	3.3	
学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント	712	9.7	10.3	16.0	57.7	14.2	19.2	7.9	6.6	1.8	
文化施設等で行われた体験イベント	549	12.0	8.9	18.0	45.5	22.4	29.0	11.1	8.6	1.8	
自宅	327	27.8	27.2	12.8	17.4	16.2	23.9	10.1	11.3	3.4	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	430	9.1	5.6	8.8	19.5	8.4	23.0	12.8	52.1	1.4	
その他	72	2.8	0.0	1.4	13.9	11.1	5.6	2.8	4.2	68.1	

■礼法を習いやすい状況

礼法を習いやすい状況（DQ11）に関する設問の結果では、通いやすい場所（37.4%）、費用の手頃さ（33.0%）の2つが主な条件となっている。一方、支払い可能な金額（DQ12）を見ると、「5,000円未満」（74.9%）、「5,000円以上～10,000円未満」（15.4%）と続き、回答者の約90%が1万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

DQ11とDQ12のクロス集計の結果を見ると、「5,000円未満」を選択した者の中では、習いやすい状況として「その他」「わからない」を選択している者が全体平均74.9%を上回っているほか、その他の習いやすい状況についての項目は全て全体平均を下回る結果となっている。一方、「5,000円以上～10,000円未満」（15.4%）と回答した者の場合、通いやすい場所や道具の貸与、具体的なカリキュラムの提示等が全体平均を上回っていることから、具体的に習うことを想定して回答を行っているものと推察される。

集計表 16 礼法を習いやすい状況×礼法に支払える月額費用

		DQ12礼法に支払える月額費用 (%)											
		5000円未満	5000円以上～10000円未満	10000円以上～20000円未満	20000円以上～30000円未満	30000円以上～40000円未満	40000円以上～50000円未満	50000円以上～60000円未満	60000円以上～70000円未満	70000円以上～80000円未満	80000円以上～90000円未満	90000円以上	
n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下	全体	74.9	15.4	3.8	2.3	1.2	1.0	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	
	家族や知人等、身近な人から習えたら	75.2	15.9	5.3	1.0	1.6	0.3	-	0.1	0.1	0.3	0.1	
	通いやすい場所で習えたら	69.6	20.5	4.5	2.7	1.0	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	
	費用が手頃だったら	74.0	17.1	4.4	2.0	1.0	0.7	0.4	0.2	-	0.2	0.1	
	必要な道具等が借りられたら	57.6	23.2	6.9	6.1	2.2	2.4	1.3	-	0.2	-	0.2	
	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	62.5	20.8	8.0	3.3	3.3	1.0	1.0	-	-	-	0.3	-
	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	67.4	22.1	4.0	3.1	0.5	1.1	0.9	0.2	0.4	0.4	-	-
	指導で教本やテキストを使っていたら	64.4	20.3	3.2	2.3	1.4	4.5	0.5	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
	その他	88.6	11.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	わからない	91.1	6.5	0.7	0.3	0.3	0.4	0.1	-	-	-	0.4	

次に、礼法をこれまで習っていない理由（DQ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（39.8%）が最も多く、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（25.0%）、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」（20.1%）と続く。DQ11の習う状況とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい状況について分析を行う。

参加しやすい状況について「わからない」（27.7%）と回答した者のうち、習わなかった理由について「自分の趣味と合わない」（51.3%）、「興味がなかった」（44.3%）の回答比率が高く、体験をしても興味関心が湧かなかつたことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「通いやすい場所で習えたら」（37.4%）と回答した者が習っていない理由として「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（64.2%）が最も多く、次いで「習う内容についていけるかどうか不安がある」（57.5%）、「習うための十分な時間がとれなかった」（57.4%）と続き、身近な場所で習いたいと思う一方で、時間の確保が難しかったり、習う内容への不安があったりしたことが見える。「費用が手頃だったら」（33.0%）と回答した者の場合は、

費用の確保ができなかったとの回答比率が高く、続いて習う内容についていけるかどうかの不安と、教室等の雰囲気に分らなかつたとの回答比率が高い。

集計表 17 礼法を習っていない理由×礼法を習いやすい状況

		DQ11礼法を習いやすい状況 (%)									
		か家族や知人等、身近な人から習えたら	ら通いやしやすい場所で習えた	費用が手頃だった	た必要な道具等が借りられ	ら習いやすい時間帯を調整しても	れム、指導方法やカリキュラムが具体的に示さ	使指導で教本やテキストを	その他	わからない	
n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下	n=										
	全 体	3,413	20.4	37.4	33.0	13.5	11.7	16.2	6.5	1.0	27.7
	興味がなかつた	1,360	19.2	26.8	27.2	7.8	6.7	10.6	3.8	1.0	44.3
	通いやしやすい場所に稽古場や教室がなかつた	854	24.7	64.2	49.4	21.3	18.1	21.5	8.2	0.1	7.1
	習うための授業料等の費用が確保できなかつた	384	23.4	55.7	57.6	36.5	25.5	22.9	9.4	0.3	5.2
	習うための十分な時間が取れなかつた	540	26.5	57.4	51.3	28.5	26.3	26.5	12.2	0.4	7.6
	カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかつた	223	25.6	49.8	47.1	34.1	29.6	43.0	14.8	0.4	7.6
	稽古場や教室等の雰囲気が分らなかつた	237	22.8	57.0	51.9	36.7	27.4	44.3	20.7	-	7.2
	習う内容についていけるかどうか不安がある	254	26.8	57.5	55.1	32.3	24.8	36.2	16.5	0.4	10.6
	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	686	23.6	44.8	37.9	13.1	13.4	22.6	10.5	0.4	24.9
	自分の趣味と合わない	343	15.7	19.8	19.2	7.3	9.6	13.4	8.7	2.6	51.3
その他	54	24.1	16.7	22.2	5.6	9.3	13.0	3.7	24.1	24.1	

クロス集計の結果を見る限り、回答者にとって礼法を習いやすい状況とは、礼法を習わなかつた事情や理由と密接な関係があり、通える場所や時間、習う内容や教室等の雰囲気と言った部分が、習い始める時に参加体験者にとってのハードルになりやすくなっている傾向が見える。

上記のクロス集計の結果から、礼法の参加体験ありと回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

1) 参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

DQ 9とDQ10のクロス集計結果の分析から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけとして礼法を体験した者が多い傾向にある。他方、親族が礼法を習ったり、教えていたりした場合は自宅が体験機会の場に、礼法についてメディアを通じて知ったり、興味関心があった者は、文化施設等の体験イベントに参加して体験する等、きっかけの違いが、体験の機会に関係していることが分かる。また、学校や職場等での体験イベントは、礼法を知り・体験する場として大きな役割を果たしているとともに、礼法に関する担い手の活動の場ともなっていると推察される。

2) 参加体験者が考える習いやすい状況や内容についての傾向と特徴

参加体験者が礼法を習いやすい状況や内容について、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、月額費用として5,000円以上を支払うと回答した者ほど、習いやすい具体的な状況について回答している傾向にあり、礼法を習っても良いと考える者と捉えることができる。

習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、参加体験をしても礼法に興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても通える場所がない等の事情があることが分かる。加えて、習うための時間の確保や、習う場所の雰囲気分からない等も回答として多く、参加体験者にとって、習う内容や機会に関する詳しい情報があつた方が、習い始めやすいと考えていることが、回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で礼法を習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

礼法を習い始めたきっかけ（DQ1）の回答結果では、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（25.2%）が最も高く、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（23.0%）、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（20.5%）、「学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（19.3%）と続いている。以上の点から、経験ありと回答した者の身近には、礼法に関わる者がいたり、礼法に関する情報やイベントがあつたりしたことで、礼法を習い始めるきっかけが生み出される背景があつたことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（DQ1）と現在の継続状況（DQ3）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（38.5%）に対し、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（69.2%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（66.0%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（58.1%）の回答者の継続率は、全体平均を上回っている。反対に、非継続率の全体平均（61.5%）を比べると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（69.5%）、「趣味や教養として、礼法に興味関心があつた」（67.4%）が全体平均を上回っており、親族等が礼法に関わっていることをきっかけとして習い始めた回答者の方が、継続率が高い傾向にあり、反対に、自分の趣味との関わりや教養として関心を持った者については、何らかの理由で継続できていない傾向にあることが分かる。

集計表 18 礼法を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

	n=	DQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続かない
全体	512	38.5	61.5
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	129	58.1	41.9
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	94	66.0	34.0
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	118	53.4	46.6
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	99	44.4	55.6
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	52	69.2	30.8
趣味や教養として、礼法に興味関心があつた	95	32.6	67.4
礼法に係る仕事や職業に興味関心があつた	56	44.6	55.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	105	30.5	69.5
その他	15	-	100.0

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、継続理由に関する設問（DQ3補問1）では、「日本の文化だから」（46.2%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として活動したい（している）」（41.1%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（29.9%）と続いている。始めたきっかけ（DQ1）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（66.1%）、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（64.5%）を、礼法を習い始めたきっかけであると回答している者の比率が高い。また、「指導者や教授者として活動したい（している）」と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（62.7%）と回答している比率が高い一方、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（35.5%）の回答比率が全体平均を大きく下回っている。

また、継続率において最も回答比率が高かった習い始めるきっかけ「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」を選んだ者は、「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（66.7%）の回答比率が高い傾向にある。

集計表 19 礼法を習い始めたきっかけ×礼法を続けている理由

	n=	DQ3補問1 礼法を続けている理由 (%)											
		動 指 し 導 者 や 教 授 者 と し て 活 動 し た 者 の か き つ け （ ～ し て 者 と し て ）	日 本 の 文 化 だ か ら	一 緒 に 楽 し む 仲 間 が い る	文 ら 作 相 か り 礼 し 習 、 つ て 生 活 の く う 部 ち と な つ た ら	文 化 の 仕 方 と 知 り た 奥 深 い	作 法 に 示 す 所 作 や 作 法	に な る と 習 っ た り 、 じ す 所 作 や 作 法	か り に な る と 習 っ た り 、 じ す 所 作 や 作 法	し 習 、 つ て 生 活 の く う 部 ち と な つ た ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い	上 記 の 中 で 当 て は ま る も の は な い
全 体	197	41.1	46.2	29.9	26.4	23.4	18.3	0.5	1.5	0.5			
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	75	62.7	48.0	36.0	25.3	21.3	22.7	-	2.7	1.3			
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	62	46.8	66.1	43.5	35.5	29.0	24.2	-	1.6	1.6			
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	63	47.6	54.0	49.2	39.7	30.2	25.4	-	-	-			
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	44	38.6	56.8	50.0	59.1	52.3	34.1	-	-	-			
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	36	41.7	50.0	55.6	66.7	52.8	33.3	-	-	-			
趣味や教養として、礼法に興味関心があった	31	35.5	64.5	41.9	58.1	61.3	48.4	3.2	3.2	-			
礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	25	56.0	68.0	48.0	72.0	64.0	52.0	-	-	-			
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	32	50.0	59.4	40.6	53.1	53.1	56.3	3.1	6.3	-			
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

※n=30未満は参考値のため灰色

一方、礼法から離れたきっかけ（DQ3補問2）を見ると、「時間がなくなった」（36.2%）と「近くに習う場所がなくなった」（26.7%）が大きな理由となっている。

始めたきっかけ（DQ1）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「時間がなくなった」と回答した者の場合、始めたきっかけとして「礼法に係る仕事や職業に興味関心があった」（48.4%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（47.3%）の2項目が全体平均を特に上回っている。また、「近くに習う場所がなくなった」と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（40.6%）、「友人、知人などから習

うことを勧められた・誘われた」(40.0%)の2項目が全体平均を上回っており、友人や知人からの勧めで始めた者が習う場所や時間の事情で、継続が難しくなり止めてしまう傾向にあると推察される。

一方、「当初目標としていたことが達成できた」(7.3%)と回答した者のうち、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」(15.6%)をきっかけとした回答者の比率が高く、到達する目標があり、何らかの目的を持って習い始め、その目標が達成できたために辞めたという回答者も一定数いることが分かる。

集計表 20 礼法を習い始めたきっかけ×礼法から離れたきっかけ

		DQ3補問2 礼法から離れたきっかけ (%)									
		時間 が な く な っ た	近 く に 習 う 場 所 が な く	当 初 目 標 と し て い た こ と	興 味 を 失 っ た	経 済 的 に 続 け る の が 難 し	健 康 面 、 体 調 面 で 続 け る	一 等 が 活 動 す る 家 族 や 友	習 っ て い る 内 容 に つ い て	指 導 者 や 教 授 者 を 引 退 し	そ の 他
n=30以上で											
	全体+10pt以上										
	全体+5pt以上										
	全体-5pt以下										
	全体-10pt以下										
	n=										
全 体	315	36.2	26.7	7.3	17.8	4.8	8.3	7.6	2.9	7.9	6.3
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	54	42.6	22.2	11.1	13.0	3.7	7.4	11.1	3.7	5.6	5.6
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	32	34.4	40.6	3.1	18.8	6.3	15.6	6.3	3.1	6.3	3.1
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	55	47.3	40.0	3.6	12.7	5.5	10.9	16.4	1.8	3.6	3.6
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	55	30.9	36.4	9.1	21.8	3.6	7.3	10.9	3.6	7.3	9.1
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	16	37.5	31.3	6.3	12.5	12.5	-	12.5	12.5	12.5	6.3
趣味や教養として、礼法に興味関心があった	64	39.1	28.1	15.6	9.4	7.8	10.9	6.3	4.7	10.9	1.6
礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	31	48.4	32.3	3.2	19.4	0.0	6.5	3.2	0.0	9.7	0.0
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	73	31.5	24.7	6.8	19.2	5.5	11.0	11.0	4.1	15.1	6.8
その他	15	-	13.3	13.3	26.7	-	6.7	13.3	-	-	40.0

※n=30未満は参考値のため灰色

以上のようなクロス集計の結果からは、テレビ等のメディアを通じて礼法を知ったり、親族が礼法を習っていたり、教えていたりしたことを契機として習い始めた者については、継続性が高い傾向にあり、とりわけ親族が習っていたことをきっかけに礼法を習い始めた者の場合、自身が教授者として活動していたり、今後教授者として活動しようと考えている傾向が見られる。

一方、礼法に対して趣味や教養の観点から興味関心を持ったり、友人・知人から誘われたりした場合の継続性は決して高い傾向とは言えない。ただし、これは、習うための時間や場所が失われてしまう等の事情があったり、目標を持って習い始めその目標を達成できたから辞めたりした、という事情もあることが結果からうかがえる。

■活動内容

礼法に関する活動内容(DQ5)の結果では、「教室や稽古場で習っている(いた)」(51.0%)が半分強を占め、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)」(28.3%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)」(26.2%)と続く。

まず、活動内容(DQ5)と現在の継続状況(DQ3)についてクロス集計を行い、活動内容と

継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（38.5%）の中で、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（60.0%）が最も回答比率が高く、次いで「指導者や教授者として教えている（いた）」（56.0%）と続く。

集計表 21 礼法に関する活動内容×現在の継続状況

	n=	DQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続けない
全体	512	38.5	61.5
教室や稽古場で習っている(いた)	261	41.0	59.0
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	60.0	40.0
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	44.8	55.2
指導者や教授者として教えている(いた)	50	56.0	44.0
その他	29	10.3	89.7

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、活動内容（DQ5）と経験年数（DQ4）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。経験年数が「20年以上」（10.7%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」（34.0%）と全体平均を大きく上回っており、逆に「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（6.2%）のみが平均回答比率を下回っている。また、「10～20年未満」（9.8%）と回答した者の中でも、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（7.6%）は回答比率が低く、1年以上～5年未満程度の経験年数の者がカルチャーセンター等で礼法を習っていることが分かる。

集計表 22 礼法に関する活動内容×礼法を続けている年数

	n=	DQ4 礼法を続けている年数 (%)						
		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	3年以上合計
全体	512	25.0	23.4	19.1	11.9	9.8	10.7	51.6
教室や稽古場で習っている(いた)	261	26.8	17.6	16.5	14.9	11.1	13.0	55.6
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	15.9	29.7	28.3	12.4	7.6	6.2	54.5
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	17.9	24.6	23.9	11.9	9.7	11.9	57.5
指導者や教授者として教えている(いた)	50	6.0	14.0	14.0	16.0	16.0	34.0	80.0
その他	29	41.4	24.1	6.9	3.4	13.8	10.3	34.5

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（DQ5）と活動頻度（DQ6）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。「週に2～3回」（14.1%）と回答した者のうち、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（25.5%）の項目への回答比率が高いことから、カルチャーセンターでの受講頻度の傾向が見える。また、「ほぼ毎日」（12.9%）と回答した者のうち「指導者や教授者として教えている（いた）」（18.0%）の回答比率が高く、これは職業としての指導者や教授者が回答者の中に含まれていることが予測される。また、「月数回程度」（17.0%）と回答した者でも指導者や教授者として活動しているとの回答比率は高く、こちらは教室等を月数回程度開いていることを意味しているものと考えられる。

集計表 23 礼法に関する活動内容×礼法に関する活動頻度

	n=	DQ6 礼法に関する活動頻度 (%)						
		ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度
全体	512	12.9	14.1	21.3	17.0	10.9	7.0	16.8
教室や稽古場で習っている(いた)	261	16.9	11.5	20.7	17.2	12.6	6.9	14.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	13.1	25.5	22.8	16.6	8.3	4.8	9.0
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	14.9	12.7	25.4	17.9	9.7	6.7	12.7
指導者や教授者として教えている(いた)	50	18.0	14.0	4.0	26.0	12.0	12.0	14.0
その他	29	17.2	3.4	-	3.4	-	10.3	65.5

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（DQ5）と月額費用（DQ7）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。

「5,000円未満」（51.2%）と回答した者のうち、教室や稽古場で習っていると回答した者以外の項目は、全体平均を下回っている。また、5,000円以上の費用を見ると、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」は、「5,000円未満」以外の費用で全て全体平均を上回っていることが分かる。一方、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答している者の費用は「5,000円未満」のほか35,000円以上の項目で平均を少し上回っていることが見える。

集計表 24 礼法に関する活動内容×礼法に関する月額費用

	n=	DQ7 礼法に関する月額費用 (%)											
		5000円未満	15000円未満	115000円未満	210000円未満	225000円未満	320000円未満	335000円未満	430000円未満	445000円未満	540000円未満	550000円以上	合計
全体	512	51.2	18.2	10.0	6.4	3.5	3.7	1.2	1.2	1.0	1.8	2.0	30.7
教室や稽古場で習っている(いた)	261	54.0	18.8	9.2	3.8	3.1	2.3	1.1	1.9	1.1	1.9	2.7	27.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	29.0	21.4	14.5	12.4	5.5	6.2	2.1	1.4	1.4	3.4	2.8	49.7
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	44.8	12.7	9.0	9.0	6.0	6.7	2.2	0.7	1.5	3.7	3.7	42.5
指導者や教授者として教えている(いた)	50	30.0	14.0	18.0	10.0	6.0	4.0	-	2.0	-	6.0	10.0	56.0
その他	29	89.7	3.4	3.4	-	-	3.4	-	-	-	-	-	6.9

※n=30未満は参考値のため灰色

■経験年数

礼法を続けている年数（DQ4）の結果では、「1年未満」（25.0%）の回答比率が最も高く、次いで「1～3年未満」（23.4%）、「3～5年未満」（19.1%）と続いている。

経験年数（DQ4）と習い始めたきっかけ（DQ1）のクロス集計を行い関係性について分析する。まず、習い始めたきっかけとして回答比率が最も高かった「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（25.2%）を回答した者のうち、「20年以上」（43.6%）が平均を大きく上回っているほか、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（18.4%）でも、「20年以上」（29.1%）が平均を大きく上回っている。また、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（20.5%）と回答した者については、10年以上の回答比率が平均を上回っている。

一方、3～10年未満と回答した者の場合を見ると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」の回答比率は全体平均よりやや低い傾向にあり、他の項目（親族等が教えていた、友人・知人からの勧め、イベントでの体験、メディアを通じて知った）では全体平均よりやや高い回答比率となっている。

これらの傾向を見る限り、親族が礼法を習ったり教えていたりした場合、また、自分の趣味と関連して礼法を習い始めた場合には経験年数が長い者が多い傾向があるが、きっかけ自体が直接、経験年数に関係しているとは考えにくい。

集計表 25 礼法を続けている年数×礼法を習い始めたきっかけ

	n=	DQ1 礼法を習い始めたきっかけ (%)								
		ど親が習った、兄弟姉妹、祖父母など	ど親が教えた、兄弟姉妹、祖父母など	れこ友たを、人を勧められたら誘わう	ベ文古学ン化場校ト施・の設教授体等室業験でや、し行の、たわ体礼れ験法た会のイ、稽	知画テっ、レたウビエや映メ画、デ、イ雑誌等、で漫	に趣味や関心があつた、興味や心があつた、礼法	興礼法に心係があつた、職業に	し野自のてのた味行っ習い事と別の係分	その他
全体	512	25.2	18.4	23.0	19.3	10.2	18.6	10.9	20.5	2.9
1年未満	128	24.2	6.3	14.8	13.3	4.7	14.8	10.9	17.2	6.3
1～3年未満	120	19.2	18.3	30.8	20.0	6.7	14.2	10.8	12.5	2.5
3～5年未満	98	22.4	24.5	28.6	24.5	16.3	22.4	9.2	15.3	1.0
5～10年未満	61	26.2	24.6	26.2	23.0	16.4	31.1	11.5	19.7	1.6
10～20年未満	50	26.0	18.0	16.0	22.0	12.0	14.0	8.0	36.0	4.0
20年以上	55	43.6	29.1	18.2	16.4	10.9	20.0	16.4	41.8	-

次に経験年数（DQ4）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（DQ2補問）のクロス集計を行い関係性について分析する。習い方を選んだ理由として最も回答比率が高かった「通いやすい場所だった」（34.8%）を回答した者のうち、「5～10年未満」（41.0%）、「3～5年未満」（40.8%）の回答比率が全体平均よりも高い傾向にある。また、「家族や友人等と一緒に良かった」（28.3%）を回答した者のうち、「20年以上」（40.0%）、「10～20年未満」（34.0%）の回答比率が全体平均よりも高い。このほか、「通いやすい時間帯だった」（13.1%）の項目では、「20年以上」（27.3%）、「5～10年未満」（26.2%）が大きく全体平均を上回っている。

集計表 26 礼法を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

(%)

	n=	DQ2補問 その方法を選んだ理由									
		か家族や友人等と一緒に良かった	通いやすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いやすい時間帯だった	来ていた費用が具体的に示された	指導方法やカリキュラムが良かった	本格的に習ってみたかった	手軽に習ってみたかった	その他
全体	512	28.3	34.8	18.4	10.9	13.1	12.1	11.5	14.6	2.0	15.2
1年未満	128	32.8	24.2	7.8	4.7	4.7	5.5	4.7	13.3	2.3	21.1
1～3年未満	120	30.0	38.3	21.7	8.3	12.5	11.7	9.2	14.2	2.5	10.0
3～5年未満	98	19.4	40.8	21.4	18.4	10.2	14.3	18.4	11.2	1.0	11.2
5～10年未満	61	14.8	41.0	27.9	18.0	26.2	18.0	14.8	13.1	3.3	14.8
10～20年未満	50	34.0	34.0	16.0	10.0	10.0	18.0	16.0	20.0	2.0	14.0
20年以上	55	40.0	34.5	21.8	10.9	27.3	12.7	12.7	21.8	-	21.8

経験年数（DQ4）と礼法に関する興味関心や魅力（DQ8）のクロス集計を行い関係性について分析する。興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」（51.8%）を回答した者の中では、「20年以上」（65.5%）の経験年数の者が最も回答比率が高い。逆に、回答比率があまり高くなかった「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」（20.9%）、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」（17.4%）を回答した者の中でも、経験年数が5年以上の者の回答比率が全体平均よりも高いことから、経験年数が長い回答者ほど、礼法の意義や目的の面を興味関心や魅力として捉えている傾向にあることがうかがえる。

集計表 27 礼法を続けている年数×礼法に関する興味関心や魅力

(%)

	n=	DQ8 礼法に関する興味関心や魅力								
		伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる	相手を敬う気持ちを示す作法や場所	礼法に則つた四季感のしるし	礼法に則つた作法や心づ	落ち着いた高まり、心を	円滑に通じて人間関係を	日本内外に知られていく	その他	上記の中で当てはまるもの
全体	512	51.8	39.3	26.6	25.8	20.9	17.4	0.6	11.7	
1年未満	128	52.3	24.2	14.8	11.7	11.7	10.9	-	19.5	
1～3年未満	120	55.8	37.5	19.2	25.8	18.3	12.5	0.8	10.0	
3～5年未満	98	42.9	46.9	36.7	28.6	15.3	11.2	1.0	5.1	
5～10年未満	61	45.9	57.4	44.3	42.6	29.5	26.2	-	4.9	
10～20年未満	50	50.0	40.0	24.0	30.0	34.0	28.0	2.0	12.0	
20年以上	55	65.5	43.6	34.5	30.9	36.4	34.5	-	16.4	

上記のクロス集計の結果から、礼法の参加体験ありと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

メディアを通じて礼法に興味関心を持った者や、親族が礼法を教えていたり習っていたりしたことをきっかけとして礼法を習い始めた者の継続率が高い傾向にあり、このうち、親族が礼法と関わりを持っていたと回答した者は、自身が礼法の指導者や教授者として活動している率が全体平均より高い傾向にある。

一方で、趣味や教養として興味関心を持った者の継続率は低い傾向が見えるが、興味を失って辞めたという回答比率は低く、習う場所がなくなったり、あるいは目標を達成したりして辞めたりといった、継続していない理由や事情があることが見えてくる。

2) 活動内容と継続している状況や年数から見える傾向と特徴

カルチャーセンターで礼法を受講している者や、指導者・教授者として活動している者の経験年数が高い傾向にあり、カルチャーセンターで受講している者は1年～5年未満、指導者・教授者は10年以上の回答比率が高い傾向にある。一方で、教室や稽古場で習っている者の継続率は全体平均を上回っているものの、1年～5年未満の回答比率が全体平均より低く、5年以上の回答比率が全体平均より高くなっている。

カルチャーセンターで受講する者は週2～3回程度、指導者・教授者の場合は月数回もしくは毎日活動するという回答比率が高く、各活動内容による頻度の違いが見られる。また、月額費用については、カルチャーセンターで受講している者や指導者・教授者として活動している者は月額5,000円以上を払っている傾向にあり、礼法を習う際にどの程度の費用が掛かるかの傾向が見える。

3) 経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見た場合、親族等が礼法を習っていたあるいは教えていたと回答した者では20年以上、自分の趣味と関係して礼法を習い始めた者で10年以上、と回答する比率が高い傾向にあるが、習い始めたきっかけが経験年数の長さに関係するとは言いがたい。当初の習い方を選んだ理由については、経験年数20年以上の者で、家族や友人と一緒に習う、通いやすい時間帯の2項目について回答比率が高い傾向にあるほか、3年以上10年未満継続している者の場合、通いやすい時間帯をはじめ、場所や費用等についての回答比率もやや高い傾向にあり、習いやすい環境にあることで経験年数は上がりやすくなると思われる。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見た場合、経験年数が5年以上と回答している者は、礼法の意義や目的の面を興味関心や魅力として捉えている一方、経験年数が1年未満、1年～3年未満と回答した者は、生活の中で礼儀作法を生かすことに魅力や興味関心を持っている傾向が高い。

(4) 分析結果のまとめ

礼法の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の礼法への活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、礼法の未経験者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、礼法に興味関心が持てなかった者がいる一方で、そもそも礼法を知らなかった者が多くいること、また、礼法を知っていたとしても、体験できる場がなかった、あるいは場を知らなかった事情があり、参加体験には至らなかったことが明らかになった。

経験者の場合は親族等が礼法を習ったりしていた、あるいは、知人・友人から勧められた、自分の趣味との関わりがきっかけとなっている。参加体験者の場合は、学校や稽古場、文化施設等での体験イベントをきっかけとして体験をしており、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、礼法を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約6割は継続していない状況で、継続している者については若い世代ほど現在の継続率が高い傾向にある。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、興味を失ったから辞めたという理由よりも、習う場所がなくなった、時間がなくなった等の事情があることが傾向として見え、回答者の環境を整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、学校や職場等で体験機会を得たという回答比率が高い傾向にあり、礼法の指導者や教授者がこれらの場において、体験機会の醸成などを図っている事例もあることから、礼法を参加体験する大きなきっかけとして作用していることが分かる。また、参加体験者がこれまで礼法を習うに至らなかった理由や事情からは、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、習う内容の明示等がされていれば習いたいと考えている者がいることから、習う内容等の情報を明示するなどの工夫をすることで、習いに通いたい人に機会を提供できる可能性があることが分かる。

上記の結果から、礼法の経験者や参加体験者を増やしていく場合、学校や職場等での体験機会のみならず、礼法を体験できるイベントなどを広く行くと共に、これらの体験機会自体を広く周知していくことで、経験者や体験者を増やす可能性が広がるものと考えられる。また、習うことができる場所の周知をはじめ、習う内容や時間帯など、習いたいと考えている者に適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。

2-3 海外からの評価と国際発信

外国人から見た礼法に関する評価

日本を訪れ、日本人と接した外国人達が残した記述から、外国人が見た日本の礼儀や作法に関する評価が垣間見える。

元禄4年(1691)に来日した、エンゲルベルト・ケンペルはその著書、“*Geschichte und Beschreibung von Japan*” (邦題:『江戸参府旅行日記』)において、長崎の出島から江戸へと移動する最中に滞在した旅館の主が礼儀正しく親切であったことを一例として引き合いに出している。加えて、日本人の礼儀や立ち居振る舞いの仕方は、貴族や農民まで分け隔てることなく誰もが非常に典雅であることを称賛している²²。

明治6年(1873)に来日したバジル・ホール・チェンバレンの著書、“*THINGS JAPANESE*” (邦題:『日本事物誌』)では、「礼儀 (Politeness)」という項目を設け、「日本人の礼儀正しさは何人も議論する余地のない事実である」と前置きをした上で、日本人と西洋人の礼儀との比較・考察を試み、日本と西洋における礼儀に対する考え方の違いから来る、仕草や作法等の違いについて述べている²³。

明治10年(1877)に来日したアメリカの動物学者エドワード・シルヴェスター・モースの著書、“*JAPAN DAY BY DAY*” (邦題:『日本その日その日』)では、日本人の「挙動の礼儀正しさ」や、階級を問わずに行儀がよく親切であること、また、座礼の仕方等についても記述している²⁴。

明治11年(1878)に来日したイザベラ・バードの著書、“*Unbeaten Tracks in Japan*” (邦題:『日本奥地紀行』)には、車夫が挨拶をする際に、笠を外して礼儀正しく挨拶する様子や、子供たちが幼いころから礼法の手ほどきを受けており、分別がついていること等が記載されている²⁵。

上記以外にも、来日した外国人が見た当時の日本人の礼儀や礼節の正しさに関する記述は数多くあり、特にお辞儀をする様子が取り上げられることが多い。何回もお辞儀をしたりする様が、滑稽に見えたりすることもあったようだが、大体において武士や農民など階層にかかわらず礼儀や礼節を重視していることに好感を抱いている記載が多い。

礼法の国際発信について

外国への発信については、流派が刊行する礼法に関する書籍が外国語に翻訳され、海外で流通している²⁶。また、礼法を含めて日本の伝統的な文化に対して海外から関心が寄せられるようになっており、海外からの質問への対応のため、外国語に対応ができる人材の不足が課題として挙げられている。

22 エンゲルベルト・ケンペル著、斎藤信訳『ケンペル 江戸参府旅行日記』平凡社、昭和54年

23 バジル・ホール・チェンバレン著、高梨健吉訳『日本事物誌2』平凡社、昭和44年

24 エドワード・シルヴェスター・モース著、石川欣一訳『日本その日その日』講談社、平成25年

25 イザベラ・バード著、高梨健吉訳『日本奥地紀行』平凡社、平成12年

26 外国語に翻訳されている書籍の例としては、礼法に関する解説書として、小笠原敬承斎の“日本人不説但外人一定要懂的禮儀”(大是文化有限公司、令和4年)や小笠原清基の“Dignity in Silence: Secrets to Mastering the Undefeatable Presence of a Samurai”(一般財団法人礼法弓術弓馬術小笠原流、令和4年)を確認することができる。

大使館等で行われる伝統文化の発信に係るイベントにおいて、弓術と礼法の披露及びワークショップが開催されている例²⁷や、フランスの民間団体の協力で折形のワークショップが開催されている例も確認されている²⁸。

〈主要参考文献〉

- ・江口敦子、住田昌二、俵原敬子「礼法教育の研究（第3報）：婦人向け教養書における礼法項の推移」（『日本家庭教育学会誌』28巻1号、日本教科教育学会、昭和60年 p. 1-6）
- ・山崎貴子「近代日本における「たしなみ」への関心の高まりとその変容－礼儀作法書刊行動向の分析から－」（『教育・社会・文化研究紀要』（12）、京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座、平成21年 p. 21-40）

27 在フィンランド日本国大使館 HP（URL:https://www.fi.emb-japan.go.jp/itpr_ja/c_000196.html）最終確認日：令和6年2月15日

28 笹川日仏財団 HP（URL:<https://ffjs.org/projets/article/日本のもてなし-小笠原流礼法を基に>）最終確認日：令和6年2月15日

2章 礼法団体・礼法教室の活動について

1. 本章の主旨

本章では、令和元年度に文化庁が行った礼法分野に関する調査の概要を整理した上で、令和5年度に礼法団体、礼法教室に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、礼法の団体・教室の活動について現状を分析する。

2. 令和元年度調査の概要

「令和元年度生活文化調査研究事業」において、礼法団体3団体に対してアンケート調査を実施し、各団体の活動状況に関して把握を行った。

調査の結果、2団体から支部を有しているとの回答を得た。また、1団体が会員制度を設けて団体の運営を行っている。主な事業活動としては、2団体で学校教育、保育所、幼稚園などで礼法教室を実施しており、子供向けに礼法の体験・経験の機会を設ける取組を実施している。1団体は一般向けの礼法講座の開設と実施、動画配信サービスを利用した発信を行っている。2団体については礼法、弓術、弓馬術の伝統的な技術の継承と保存を掲げ、1団体については礼儀作法やしきたりなどのビジネススキルが求められるブライダル団体や和装団体とのつながりを持っている。また、1団体では免許・資格制度を設定している。

団体が考える現状の課題としては、1団体が会員数の減少を挙げ、その具体的な内容については「免状離れ」が会員数の減少に繋がっていることを指摘し、指導者層の育成に取り組むことを課題としている。この団体では礼法が堅苦しいと捉えられがちであり、若年層に興味を持ってもらえるような発信ができていないとも回答している。また、1団体は外国語への対応が求められていると回答し、外国人が礼法に対して興味関心を抱いていることがうかがえる。

今回のアンケート調査では、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

1 節 礼法団体の活動について

1-1 礼法団体へのアンケート調査の実施概要

礼法の活動の詳細な実態を把握することを目的として、礼法の普及啓発や継承等において活動している礼法の団体（流派・家元）を対象とし、各団体の具体的な活動内容や、その現状と課題、礼法のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることが目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	3団体・流派（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和5年（2023）11月29日（水）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	2団体（回収率：66.6%）
設問項目	<p>Q1：団体・流派について（概要、主な目的・定款等、沿革）</p> <p>Q2：団体・流派の活動（直近3年）について</p> <p>①「一般向け講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>②「会員向け研修会、講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>④「資格制度」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑤「礼法に係る技術の保存や継承に係る活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑥「機関誌の発行」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑦「広報活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑧「その他活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>Q3：礼法の継承について</p> <p>①「礼法を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由</p> <p>②①で選択した要素に関して、礼法団体・流派としての現状及び守っていく上で必要な取組</p> <p>③礼法を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例</p> <p>Q4：新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響の程度</p> <p>②具体的な影響</p> <p>③実施した対応策</p> <p>④復旧の程度</p>

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

1-2 礼法団体・流派へのアンケート調査の結果概要

(1) 礼法団体・流派の普段の活動について

① 「一般向け講習会」の実施について

○ 活動概要

- ・流派団体の1つは、流派直営で教室を開いており、月2回開催するクラスを10～15クラスほど運営している。
- ・別の団体では、カルチャーセンターや学校にて講習会を開いている他、独自に稽古場を運営しており、礼法の教授を行っているとの回答があった。

○ 現状と課題

- ・流派直営で教室を開いている団体からは、教室を開くような場が無いので教室を開設したくてもできないという会員が多いという回答があった。
- ・別の団体からは、礼法について一通り教授が終わると稽古を止めてしまう人が多く、礼法は常に稽古を続けていくことが大切であることを伝えきれていない点を課題として挙げている。

○ 今後の展望等

- ・会員が教室等を開けない一方、礼法を学びたいと考える人は全国にいるので、出来る限り教室を増やしていきたいとの回答があった。
- ・若い世代のみならず国外の人にも礼法を伝えていきたいとの展望を挙げている。

② 「会員向け研修会、講習会」の実施について

○ 活動概要

- ・回答のあった2団体ともに、会員向けに講習会を実施している。また、1団体については師範向け講習会及び試験を年1回実施しているとの回答があった。
- ・他1団体からは、対面形式に加えてオンラインでも会員向けの稽古を行っているとの回答があった。

○ 現状と課題

- ・1団体は、新型コロナウイルス感染症の収束後、ホテル等の室料等が高騰しているため、講習会で使用するための会場確保を課題として挙げている。
- ・他1団体からは、稽古で用いる道具類の価格高騰による入手の難しさを課題として挙げている。団体によれば、稽古においては日常的に伝統的な道具類を用いることが多い一方で、そのような道具を作る者の保護施策が進んでいるため、道具の価値とともに価格も高騰し、日常的に使う道具類を買うことが出来ないという悪循環に陥っていると回答している。

○ 今後の展望等

- ・会員向けのみならず一般向けにオンライン講座や、単発で開催するような講座を今後開催していきたいと回答している。

- ・別の団体は、流派において受け継がれてきた哲学・精神性等を、受講者により深く認識してもらえようようにしたいと回答している。

③ 「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○ 活動概要

- ・1団体からは、学校で行われる礼法の授業へ講師の派遣をしており、学校によっては毎週や毎月、隔月など様々な形で派遣を行っているという回答があった。
- ・もう一方の団体からも、幼稚園をはじめ大学等で授業を実施しており、学校機関だけではなく社会人向けの講座も開設しているという回答があった。

○ 現状と課題

- ・礼法の授業を行っている学校と派遣する講師との間のスケジュール調整を流派事務局で対応することがあり、それぞれに事情や状況が異なることも相まって、調整等が行き届かない場合がある点を課題として挙げている。
- ・幼稚園や大学等での授業や一般向けの講座を開いているという回答した団体からは、授業や講義を受講してもらう前に、正座をすることの大事さなどを伝えることが出来ないことを課題として挙げている。また、礼法を行う上で正座が基礎であるにもかかわらず、和室が少なくなっている点や、正座自体不要であるという認識を持たれている点も課題として挙げている。

○ 今後の展望等

- ・学校と講師間のスケジュール調整については、メール等で分かりやすく調整できるように体制や体裁等を整えていきたいという回答している。
- ・また、将来、公立の学校でも礼法等の授業を実施出来たらという回答も見られる。

④ 「資格制度」の実施について

○ 活動概要

- ・1団体では資格制度があり、7段階の資格を設けており、最終段階の資格を取得後に試験を受けて合格すると指導者として活動できるようになる制度を運用しているという回答があった。
- ・一方の団体では資格制度は無いという回答であった。

○ 現状と課題

- ・指導者が学んできた礼法を維持できるように、稽古を続けることを基本とするような資格制度への見直しを図っていくことを課題として挙げている。

○ 今後の展望

- ・流派本部で礼法を学んだ後、退会して独自に流派の礼法を用いて教室を開くような場合もあるので、資格を取得した後の制度についても見直しを図っていききたいという回答している。

⑤ 「礼法に係る技術の保存や継承に係る活動」の実施について

○ 活動内容

- ・現代の生活では用いられることがなくなった煙草盆を扱うときの所作や作法、三汁十菜の食事をする折の所作等の継承を図っているとの回答があった。このような取組を行う背景には、時代時代の環境に応じて反映されるものが伝統であるという考え方に基づいたもので、現在用いられていない作法や所作が、どのような時代状況や環境の中で考案されたかを理解することで、真に礼法を理解し伝承することを目的としていると回答している。

○ 現状と課題

- ・かつてと比べ、現代に生きる人々の総合的な身体能力が衰えてきている現状にあるとの指摘があるほか、他の伝統文化を学ぶ機会があった時代と比べて、様々な知識・知見を有する機会が減ってしまっていることもあり、現代まで伝承されてきた礼法が考案された当時の環境や状況を理解することが難しくなっている点を課題として挙げている。

○ 今後の展望

- ・礼法等への理解をより深めてもらうために、他の伝統文化を学ぶ機会を設けながら総合的な視野を身に付けてもらうことで、課題に対応していると回答があった。

⑥ 「機関誌の発行」の実施について

○ 活動の概要

- ・1団体から年2回、機関紙を発刊しているとの回答があった。

○ 現状との課題

- ・紙媒体で機関紙の発刊を行っているため出版への費用がかかっている。

○ 今後の展望等

- ・紙媒体の機関紙からオンライン化を図るとの回答があった。

⑦ 「広報活動」の実施について

○ 活動内容

- ・2団体ともにSNSを活用していると回答があった。
- ・なお、1団体からはホームページ、Facebook、ブログ、Instagramを並行して利用しているとの回答があった。

○ 現状と課題

- ・複数のSNSで広報を行っている団体からは、動画の活用を課題として挙げている。
- ・他の1団体からは、SNSを更新するための時間的人員的な余裕がないため、更新頻度を上げることが出来ない点を課題としている。また、発信を行っても興味がある人への広報の効果はあるものの、全く新しい人への広報を行うことが難しい点についても課題としている。

○ 今後の展望等

- ・1団体からは動画の活用をさらに拡大していくとの回答があった。

- ・他の1団体からは、更新頻度を増やし SNS の発信を効果的に行うことを視野に、専任の担当者を置けたらと考えている。また、SNS での広報を行う上で、団体で活動する会員自体の知名度を上げていき、礼法に関心を持ってくれるようになるような点も大事だと回答している。

⑧ 「その他活動」の実施について

※各団体とも回答はなかった。

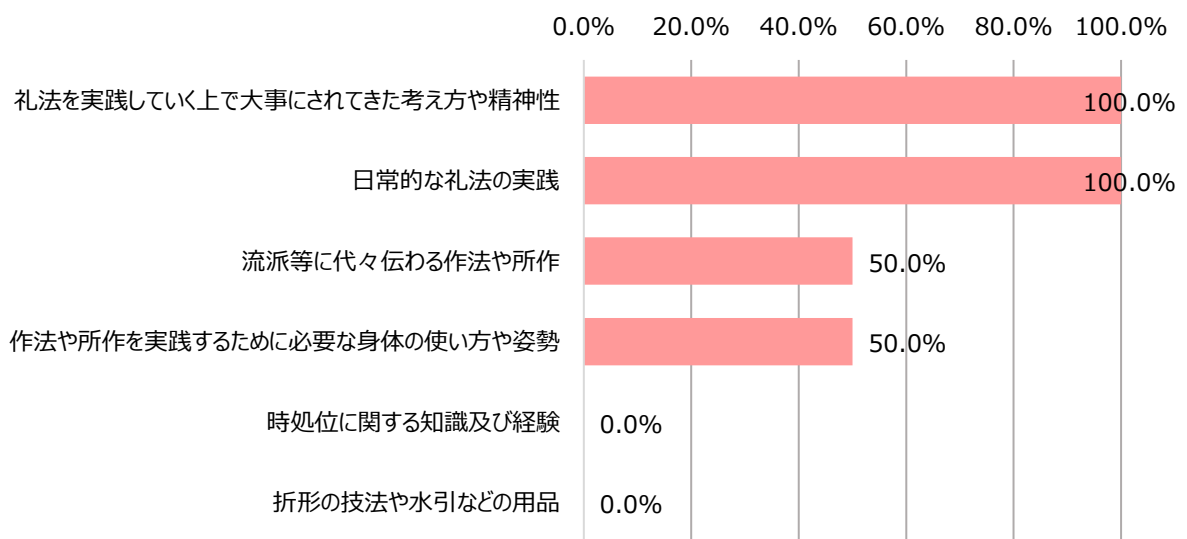
(2) 礼法の継承について

① 継承すべき要素

今日までの礼法の継承について、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、礼法の団体・流派向けのアンケート調査において、「礼法を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体にとって特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

1. 礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性
2. 折形の技法や水引などの用品
3. 流派等に代々伝わる作法や所作
4. 日常的な礼法の実践
5. 作法や所作を実践するために必要な身体の使い方や姿勢
6. 時^じ処^{しょ}位に関する知識及び経験

上記はいずれも礼法の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、礼法の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、礼法団体・流派が大事だと考える要素に対して、どのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、(1)「礼法を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、礼法の団体・流派としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)礼法を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。その結果、(1)についての礼法の団体・流派の選択は以下のグラフ(図1)のとおりであった。



(n=2)

図1 礼法の継承において特に大事だと思われる要素

上図のとおり、双方の団体とも、「1. 礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性」と「4. 日常的な礼法の実践」を重要な要素として選んでおり、「3. 流派等に代々伝わる作法や所作」と「5. 作法や所作を実践するために必要な身体の使い方や姿勢」については、それぞれの団体が選択するという結果になった。

礼法を実践する上での考え方や精神性とそれに基づく日常的な実践を重要視する点は、双方の団体ともに共通しており、礼法における作法や所作自体を重視しているのか、作法や所作を正しく実践するための身体の使い方や姿勢を重視しているか、という違いが団体の礼法に対する考え方の違いとして表れているものと考えられる。

各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答内容をまとめると、下記ようになる(回答がなかった「2. 折形の技法や水引などの用品」、「6. 時処位に関する知識及び経験」を除く)。

「1. 礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性」2 団体 (100.0%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・素直な心で相手を大切に思うことが大事である。
- ・流派として伝承・継承してきた哲学や精神性が重視される。

【現状】

- ・両団体ともに、特段の問題は生じておらず、相手を大切に思う心や流派において伝えられてきた哲学を大事に、活動を続けている。

【必要な取組】

- ・1 団体は、継承されてきた古文書に示されている教えを、現在の生活の中に落とし込んで考えることが必要と考えている。
- ・他 1 団体は、礼法等を一般に伝えていく上で、自分たちがきちんと教授出来る範囲を見極め、むやみに稽古をする者を増やさないことを必要な取組として挙げている。

「3. 流派等に代々伝わる作法や所作」1 団体 (50.0%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・自らの心を表に出して相手へと伝えるためには、礼法が確立した時代の所作や作法を理解し身に付けることが大事と回答している。

【現状】

- ・礼法の稽古を行う者も、個々人によって礼法の知識や所作・作法を身に付ける力は異なっているとしている。

【必要な取組】

- ・稽古を行っていく中で、すぐに出来る人、あるいはそうでない人でも、楽しみながら稽古を続けていけるように、受講者が出来ている点などを具体的に示しながら稽古を行っている」と回答している。

「4. 日常的な礼法の実践」2団体（100.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 礼法は実生活において使用されなければ遺産となってしまうので、流派で継承されてきた哲学等を守りつつ、時代や現在の生活の在り方にあわせて内容を変化させていくことが大事との回答があった。
- ・ また、ほかの1団体からも実生活での活用の重要性が指摘されており、現在の生活の中で活用・実践することで深みが増す、との意見が示されている。

【現状】

- ・ 実生活における礼法の実践は2団体ともに行われており、1団体では稽古の場において、実生活の中で学んできた礼法をどのように活かしているのかを発表する機会などを設けていると回答している。

【必要な取組】

- ・ 1団体からは礼法の実践とあわせて、自分の言葉で表現する力を養っていくことも大事であるとの意見があり、そのように出来るよう取組を進めているとの回答があった。
- ・ 他の1団体からは、流派の教えに従い、礼法等の教授を専業にしないという点を大事にしているとの回答があった。

「5. 作法や所作を実践するために必要な身体の使い方や姿勢」1団体（50.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 作法や所作、それを行うための手順や手続き自体も大切であるとともに、実際に作法や所作を行う際の身体の姿勢自体が特に大事であると回答している。

【現状】

- ・ 稽古場に通う多くの人々が、作法や所作、それらを行う身体の姿勢の大事さを理解していると回答している。

【必要な取組】

- ・ 作法や所作を行う際の身体の姿勢を保つことが出来るように、日常で出来る範囲で身体を鍛えておくことを大事な取組として挙げている。

② 礼法を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

「礼法を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」に、それぞれ1団体ずつが回答した。「3. 課題はない（解決した場合を含む）」との回答はなかった。

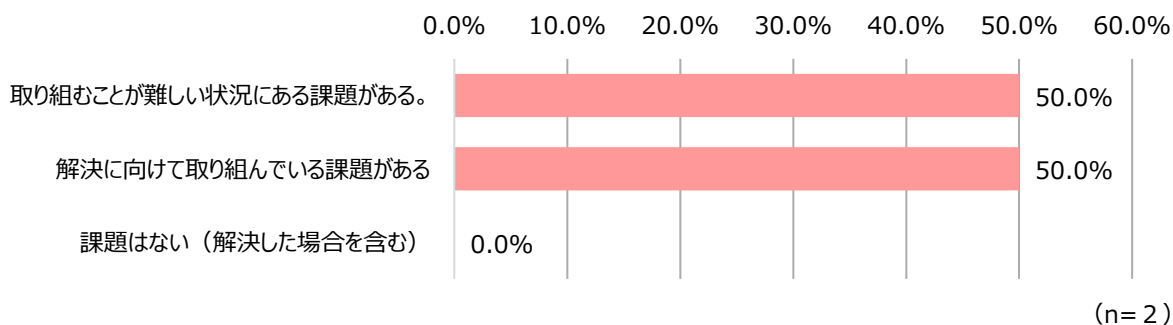


図2 礼法を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

上記を選択した団体・流派が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」1 団体 (50.0%)

【具体的な課題】

- 生活していく上で、礼法を必要と考える人が少なくなっている点を課題として挙げている。その例として、大きな書店においてマナーや作法に関する書籍を1冊も置いていないところがあり、礼法に対する関心が決して高くないことを挙げている。

【解決に向けた取組】

- 流派団体として、礼法に関する書籍を刊行したり、SNS を利用したりして情報発信を行うなど、出来るだけ多くの人に知ってもらうように努めていると回答している。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」1 団体 (50.0%)

【具体的な課題】

- 礼法は、誰でも出来ていいものである一方で、生活自体にある程度のゆとりが無いと学ぶ対象にはなり得ない点を課題として挙げている。

【取り組むことが難しい状況や理由】

- 解決に向けた取組みとしては、可能であれば、学校の義務教育課程に取り入れていく必要性を感じている。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、「1. 極めて大きく団体の存続にまで影響があった」という回答が1 団体、「4. あまり／ほとんど影響はなかった」という回答が1 団体となった。

「極めて大きく団体の存続にまで影響があった」と回答した団体については、受講者に対して対面で指導することが稽古の基本となっていることもあり、教室も一時閉講することとなり、収入が大きく減少し、多くの人々が退会するなど、具体的な影響について回答している。

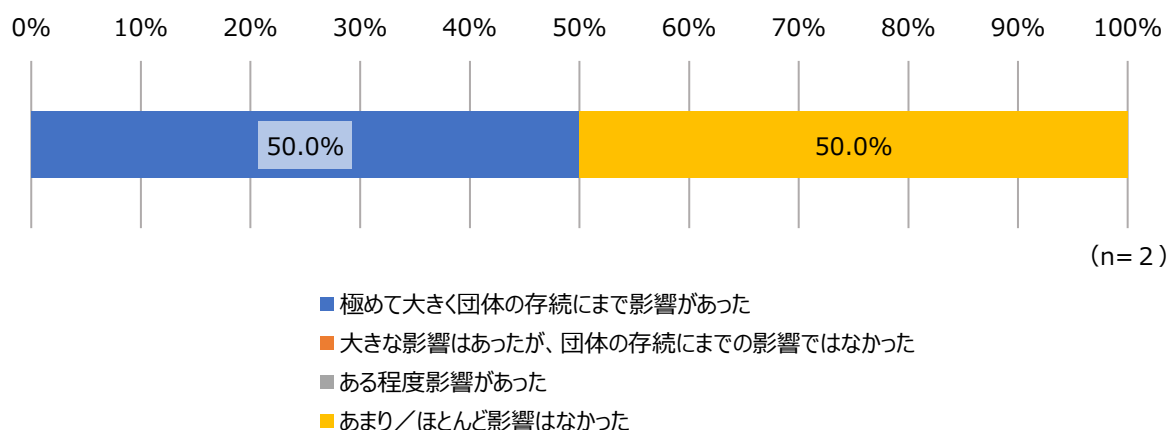


図3 新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

1-3 まとめ

団体の活動内容

礼法に係る流派団体を対象として実施したアンケート調査の結果、様々な活動が行われていることが回答からうかがえる。

まず、礼法に係る流派団体はいずれも一般向けに教室・稽古場を開いており、流派団体の直営で教室を開いている場合や、カルチャーセンターや学校等で教室を開いている。また、いずれの流派団体でも、主に会員向けの研修会・講習会を開催しており、資格制度を持つ流派団体では師範向けの講習会や試験等が開催されている。この他、いずれの流派団体も礼法を一般の人へ知ってもらうための講演会や講師派遣を行っており、幼稚園から大学まで幅広く講習が行われているほか、社会人向けの講座を開設している場合もある。

礼法に関する資格制度については、1団体において運用されており、指導者資格の設定があることが確認できる。礼法に係る技術の保存や継承に関する活動については、1団体から現代の日常生活においては用いられなくなった所作や作法に関する継承に取り組んでいるとの回答が得られた。

機関誌等の発行については、1団体が年2回機関誌の発刊を行っているとの回答があった。広報活動については、いずれの団体もSNS等を活用した広報活動に取り組んでいる。

これらの活動を行っていくにあたり、様々な課題点も散見される。例えば、一般向けの講習会を開いている団体では、礼法の教室を開きたくても教室として運用できる場所が無かったり、また、会員向け研修会を開く際にもホテル等の会場利用料が高く、会場確保が難しかったりするなど、稽古場や研修会を開く場の確保を課題としている。一方の団体では、一通り習うと受講者が辞めてしまうという例を挙げており、継続的に稽古を行う大事さがうまく伝わらない点を課題としているほか、稽古で用いる道具の購入も難しくなっていることも課題の1つとしており、活動内容やその目的等によって団体毎に課題の内容は大きく異なっている。

回答のあった2団体に共通している課題は、広報活動への取組であり、現状においてはいずれの

団体も SNS を活用した広報活動を実施しているが、SNS 投稿への動画の活用や更新頻度の上昇など、如何に礼法を一般に周知していくかという点で共通した課題を持っている。

礼法の継承

「礼法を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、いずれの団体も、「礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性」と「日常的な礼法の実践」を選択しており、礼法を実践する上で流派団体において継承されてきた哲学や精神性、こころを大事にしつつ、現在の生活において礼法を実践することが重要視されている傾向がうかがえる。各要素について、大切であると考え理由についてはおおよそ以下の通りであった。

- ・ 礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性については、流派団体において大事に継承されてきた哲学や精神性、素直な心で相手を大切に思い、その精神性や心に基づいて所作や作法を行うことが重要視されている。
- ・ 流派等に代々伝わる作法や所作については、今日まで伝承されてきた礼法、その作法や所作が確立した当時の時代背景などを理解した上で、礼法を身に付け、心を所作や作法として表すことが大事とされている。
- ・ 日常的な礼法の実践については、礼法は日常生活での実践が大事であり、受け継がれてきた精神性などを守りつつも、現在の生活の在り方に応じて内容を変化させていくことが重視されている。
- ・ 作法や所作を実践するために必要な身体の使い方や姿勢について、実際に作法や所作を行う際には、それを行う人の身体の姿勢が重要であるとされている。

これらの要素を次世代に守り伝えていく必要がある中で課題として挙げられているのが、一般の人々の礼法に対する認知度の低さや、礼法が生活をしていく上で必要とされていない傾向にある点などがある。

課題を解決するための取組としては、書籍の発刊や SNS での広報をしていくことで礼法に対する認知度を上げる取組を実施している団体や、義務教育課程において礼法を学ぶ機会を作るといったことを検討している団体もある。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、1 団体から極めて大きく団体の存続にまで影響があったと回答があり、稽古場や教室が開けず休止状態になってしまったため、団体運営に大きく影響がでたほか、教室等が開けなかったことで退会する人も多く出るなど影響があったことが確認できる。

2 節 礼法教室の活動について

2-1 礼法教室へのアンケート調査の実施概要

礼法に関する活動の詳細な実態を把握することを目的として、礼法の教室を対象とし、各教室の具体的な活動状況や、指導内容とその成果、教室の運営、教室外との関わり等について知ることを目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	38 教室
調査期間	令和5年（2023）12月4日（月）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	16 教室（回収率：42.1%）
設問項目	Q1：教室の概要 Q2：教室の活動状況について ①教室の開催場所 ②座礼または立礼 ③指導者の人数 ④指導者の属性 ⑤教室で指導を受けている生徒の人数 ⑥教室で指導を受けている生徒の属性（性別・人数） ⑦教室で指導を受けている生徒の平均受講回数 ⑧教室で指導を受けている生徒の平均受講金額 Q3：教室での指導について ①指導内容 ②教材等の利用 ③礼法の教育や指導の目的 ④③の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点 ⑤④による効果や成果 Q4：教室の運営について ①生徒の募集方法 ②教室見学や体験する機会の提供等 ③②の具体的な取組内容 ④教室運営上の課題、解決のために行っている対策 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策 Q5：教室外との関わりについて ①教室の外で行う活動内容 ②連携している団体や組織 ③教室所在地の地域コミュニティとの連携

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

2-2 礼法教室へのアンケート調査の結果概要

(1) 教室の活動状況について

① 教室の開催場所

教室の開催場所については、回答のあった 16 教室のうち、「その他」(8 教室、50.0%)を除くと、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」が 5 教室 (31.3%) で最も多く、次いで「自宅を稽古場としている」と「自宅以外に稽古場を所有している」の 3 教室 (18.8%) と続く。

「その他」については、私立中学校や高等学校、大学等で指導を行っているという回答が 5 教室からあったほか、自治体の地区センターや、流派本部が借用しているスペースの利用、自社ビル内にあるカルチャースクールで開設しているとの回答が各 1 件となっており、カルチャーセンター等の施設や学校の授業において教授活動を行っていることが確認できる。

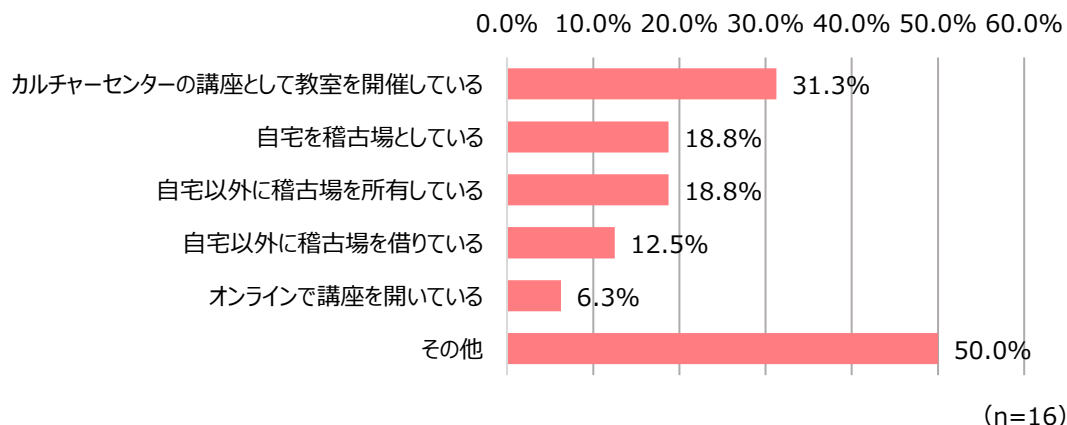


図4 教室の開催場所

② 座礼または立礼

アンケート回答のあった 16 教室のうち、「座礼 (畳・和室) を中心に指導・稽古をしている」との回答が 15 教室 (93.8%)、「立礼 (机・洋室) を中心に指導・稽古をしている」との回答が 12 教室 (75.0%) となっている。なお、座礼・立礼どちらも行っているとの回答が 12 教室 (75.0%) あることから、多くの教室が立礼についての指導も実施していることが確認できる。

「その他」については、カリキュラムによって座礼の指導、立礼の指導を分けているとの回答も見られるほか、座礼、立礼の指導で会場を別に設けているとの回答も見られた。

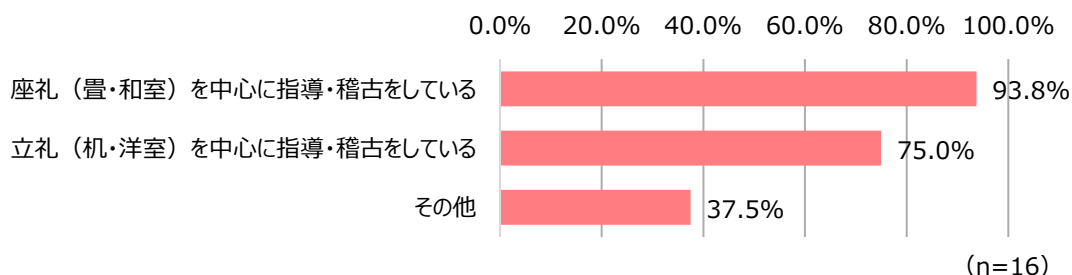


図5 座礼・立礼の実施状況

③ 指導者の人数

教室での指導者の人数については、回答のあった 16 教室のうち、11 教室（68.8%）が指導者は 1 人であると回答しており、2 人以上で指導を行っている教室が多くないことがわかる。

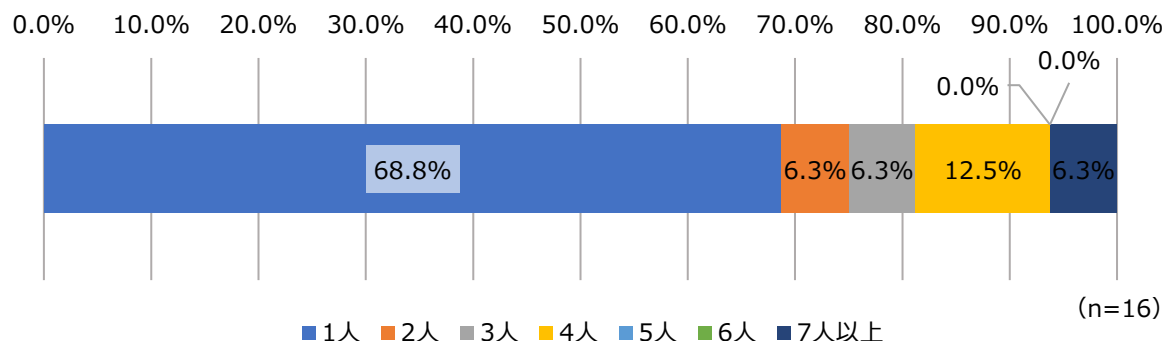


図6 指導者の人数分布

④ 指導者の属性

教室で指導を行っている者の属性については、回答のあった 16 教室のうち 14 教室（87.5%）で礼法に関する免状等を有している者が指導を行っていることが分かる。

また、免状の有無を問わない場合の属性については、「会社員」が 31.3%と多く、次いで「専業主婦・主夫」の 18.8%、「公務員・教職員」の 12.5%となる。

「その他」の内容は、会社経営者や会社役員といった回答が多く見られる。

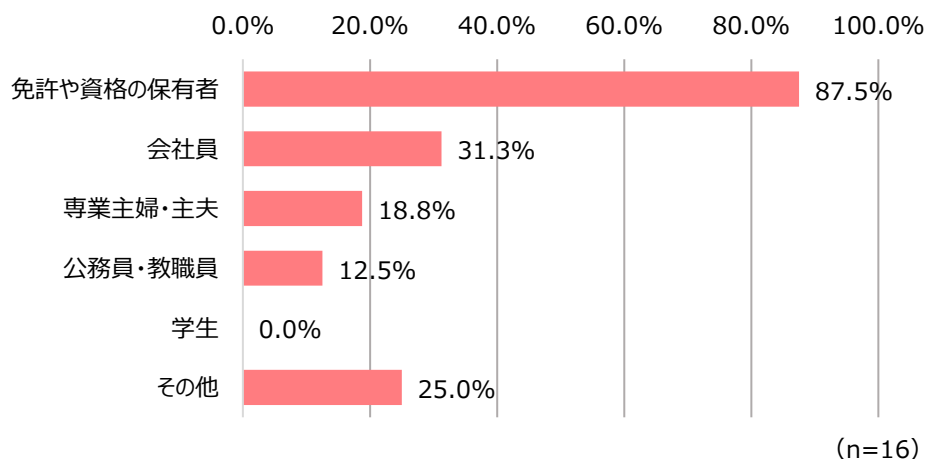


図7 指導者の免許・資格等の保有状況と属性

⑤ 教室で指導を受けている生徒の人数

教室で指導を受けている生徒の人数としては、生徒数 10 人未満の教室と生徒数 70 人以上の教室がそれぞれ 5 教室（33.3%）、次いで 10～19 人の教室が 4 教室（26.7%）となっており、生徒数 19 人未満の教室が多いことが分かる。

なお、生徒数が70人以上いると回答した5教室については、アンケート回答者が学校等で指導を行っていることから、そこでの生徒数を含んだ数値となっており、最小で80人、最大で500人の学生に指導を行っている。

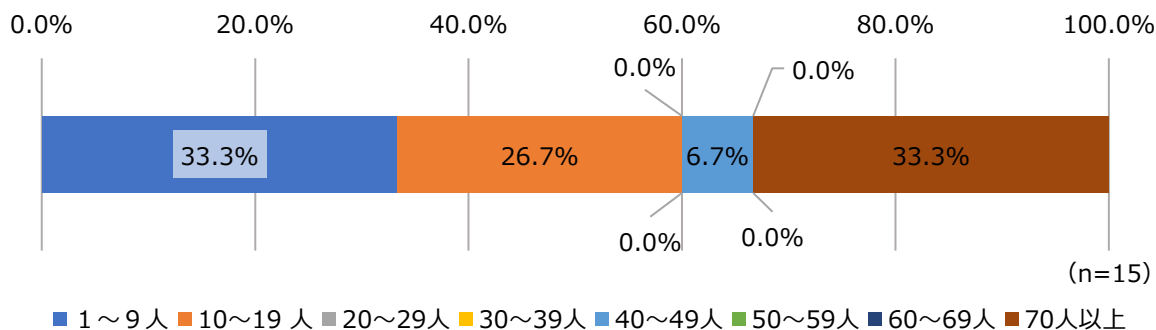


図8 生徒の人数分布

⑥ 教室で指導を受けている生徒の属性（年代）

生徒の年齢で最も多いのは10代以下の90.9%、次いで40代の3.4%となっている。

10代が特に多いのは、学校等で礼法の指導を行っている5教室の生徒数が多いためである。自宅やカルチャーセンター等で開かれている礼法教室に通っている年代としては、40代が最も多く、次に、20代、60代（ともに1.6%）50代（1.3%）と続いている。

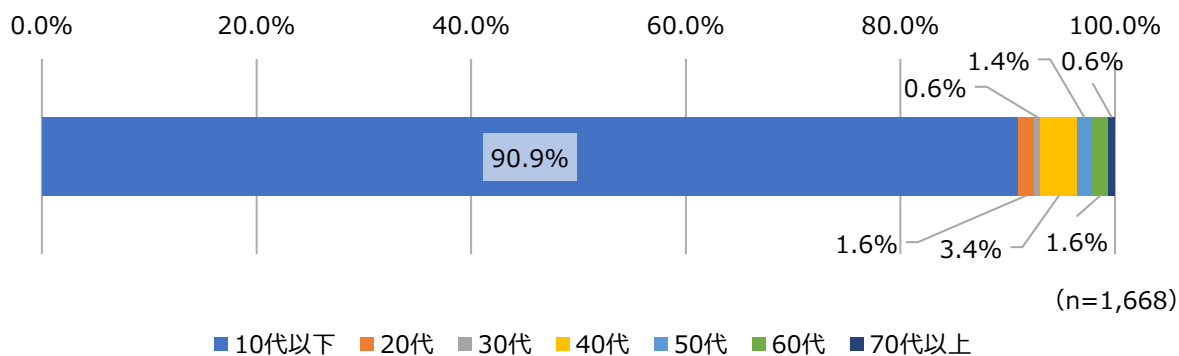


図9 生徒の年代分布

⑦ 教室で指導を受けている生徒の属性（性別）

アンケートの結果、生徒の約9割が女性である。なお、学校で指導を行っている教室のうちの一つは、男女の人数がほぼ半数となっていることで男性比率が上がっている。よって、実際には礼法に関する指導を受けている生徒のほとんどは女性という結果となった。

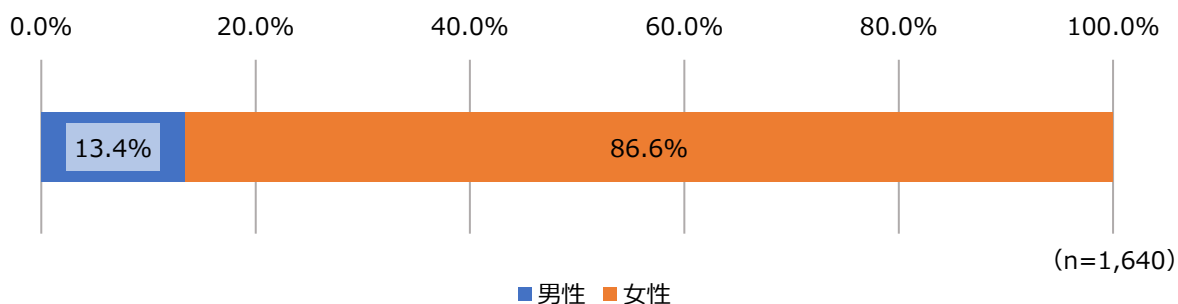


図10 生徒の性別分布

⑧ 教室で指導を受けている生徒の平均受講回数

教室のひと月当たりの平均受講回数は、「月1～4回」が全体の93.8%とほとんどを占めている。

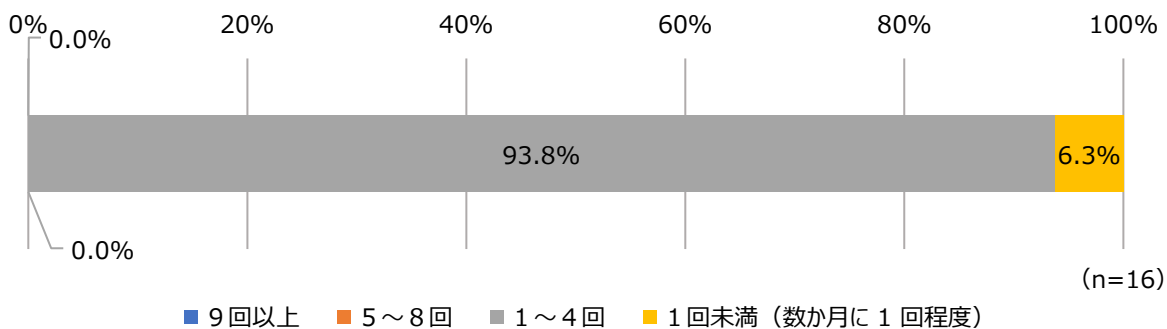


図11 平均受講回数の分布

⑨ 教室で指導を受けている生徒の平均受講金額

ひと月当たりの平均受講金額は、「5,000円未満」が60.0%、「5,000～1万円未満」が40.0%となっている。

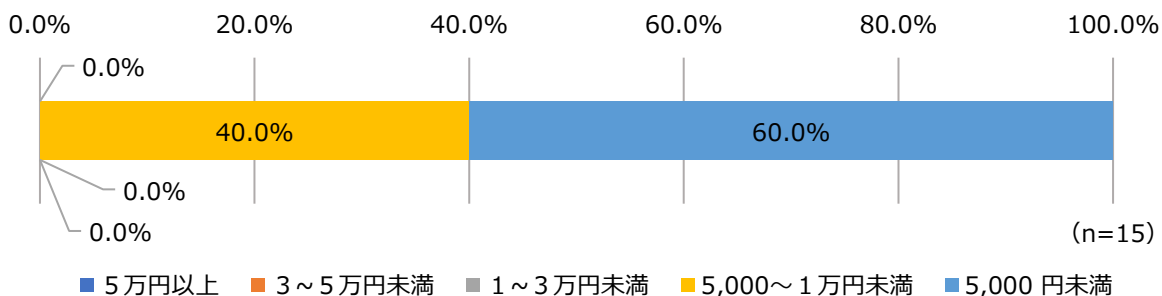


図12 平均受講金額の分布

(2) 教室での指導について

① 指導内容

教室において行われる指導内容について、「所作や作法等の基本的な動き方」「冠婚葬祭や年中行事における振る舞い方や考え方」「訪問、食事、仕事等での振る舞い方や考え方」「折形・水引・紐結び等の種類や使い方」および「礼法を実践していく上で大事にされてきた考え方や精神性」は、回答のあった16教室全てで指導が行われている。

なお、「その他」としては、ビジネスマナーや面接でのマナー、言葉遣いについて指導を行っているとの回答があった。

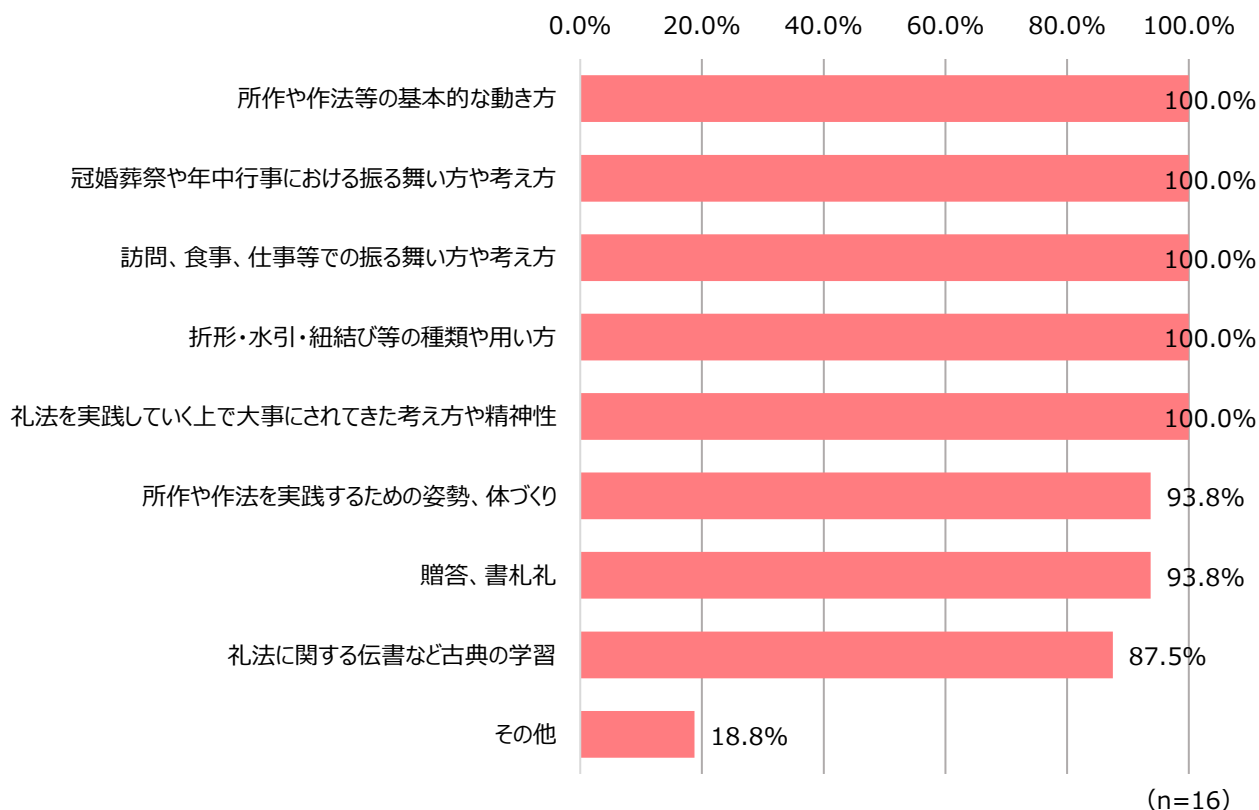


図13 指導している内容

② 教材等の利用

教材等の利用については、回答があった16教室のうち14教室(87.5%)で教材や用具などを使用していると回答があった。

なお、教材等を使用していると回答した14教室のうち、7教室(50.0%)で流派団体から発刊されている書籍などを使用していると回答があったほか、奉書紙や水引(それぞれ4教室、28.6%)、紐や礼法の古文書(3教室、28.6%)が教材として用いられていることが確認できる。

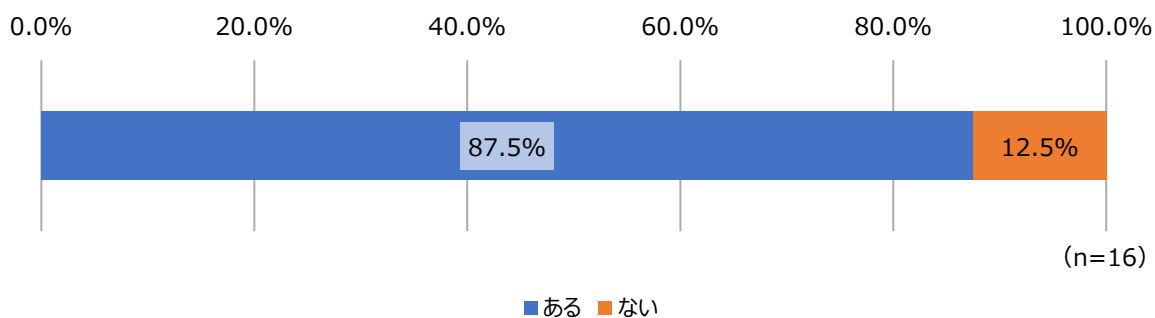


図 14 教材などの利用率

③ 礼法の教育や指導の目的

礼法の教育・指導の目的についての自由記述を分類したところ、「相手を重んじる心、思いやる心を育むこと」(12 教室、75.0%) が最も回答が多い結果となった。

次いで、「礼法の作法や所作、姿勢等を身に付けること」(11 教室、68.8%)、「日常生活の中で礼法を実践する大事さを学んでもらうこと」(8 教室、50%) と続き、思いやる心を大事にするとともに、その心を表す礼法の作法や所作、姿勢を日常生活において実践することが、指導目的として重視されていることが確認できる。

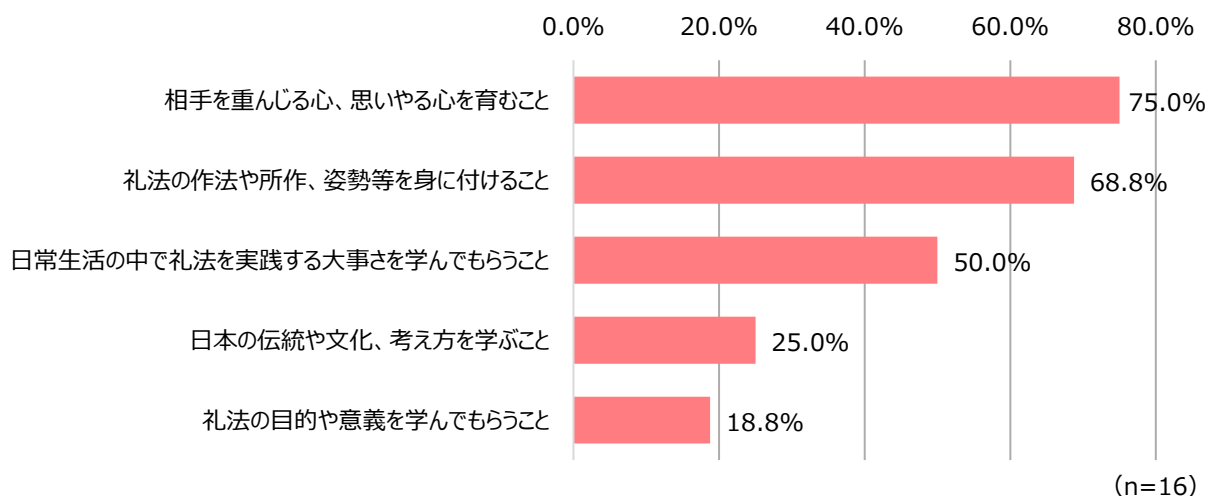


図 15 教育や指導の目的

④ ③の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点

上記の目的を達成するための教育や指導、工夫している点の自由記述を分類したところ、「繰り返し練習する機会を設けている」(4 教室、28.6%) との回答が最も多く、次いで「所作や作法の意味などを教えている」、「生徒が受講しやすいように受講日時を調整できるようにしている」(ともに 3 教室、21.4%) と続き、その他にも教室毎に様々な工夫が行われていることが確認できる。

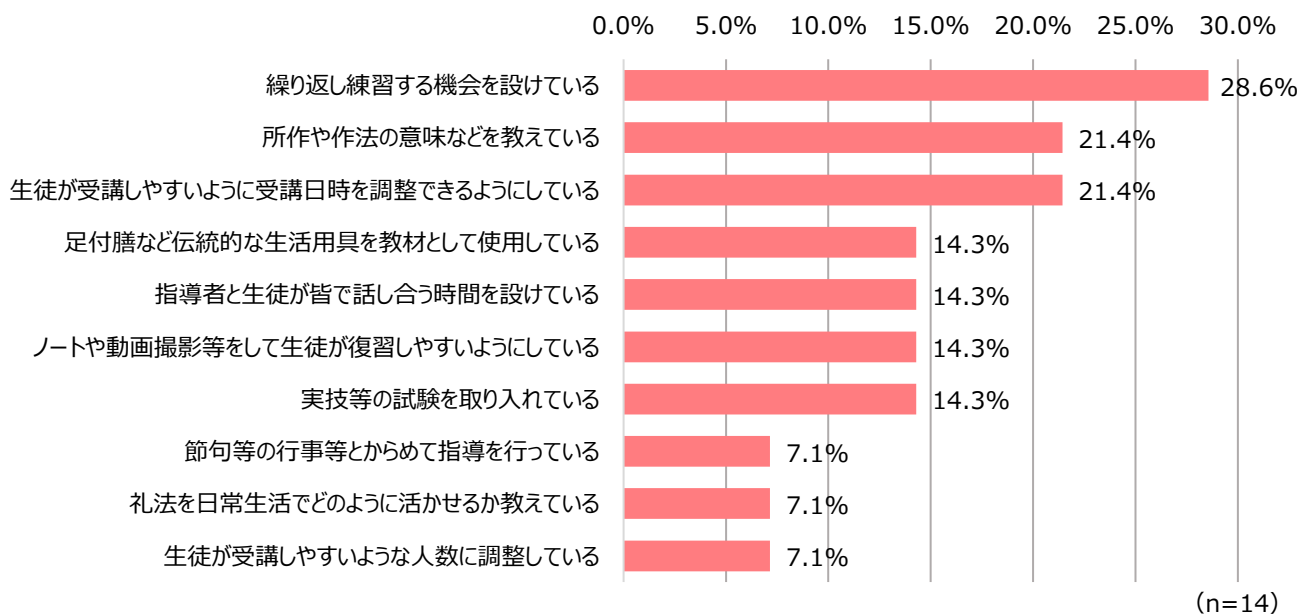


図 16 教育や指導、工夫している点

⑤ ④による効果や成果

教育や指導、工夫している点に関する効果や成果について述べた自由記述を分類したところ、回答のあった14教室のうち8教室（57.1%）が「礼法の作法や所作が身に付いた」と回答しており、次に「相手を重んじ、思いやる心が身についた」、「礼法の意味や意義等が理解できた」（ともに7教室、50.0%）と続いている。

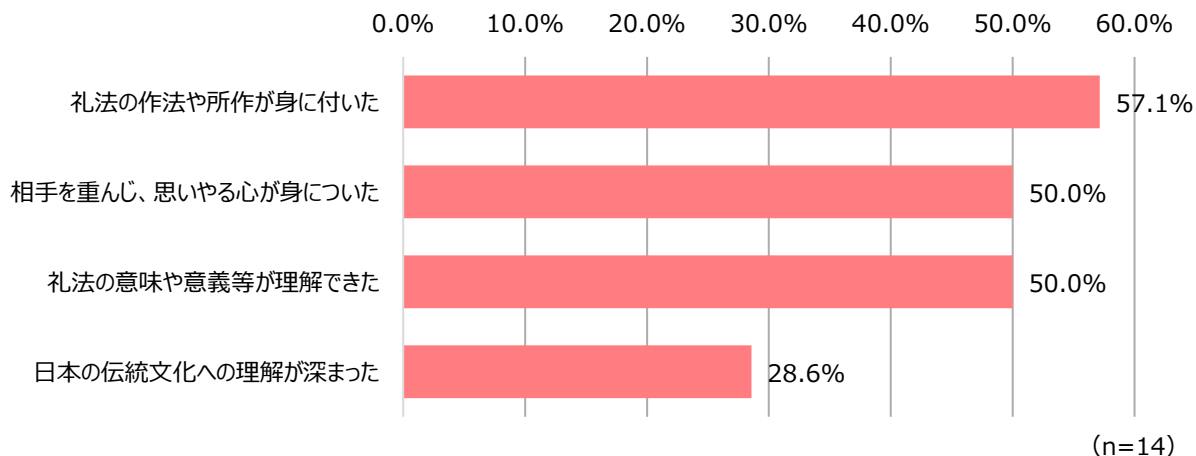


図 17 効果や成果

(3) 教室の運営について

① 生徒の募集方法

回答のあった 16 教室のうち、生徒の募集方法で最も回答が多かったのは、「受講者からの紹介」の 8 教室 (50.0%) で、次いで「連携している団体・学校・企業・カルチャーセンターなどを通じて募集している」の 6 教室 (37.5%)、「所属する礼法団体のホームページを利用している」の 3 教室 (18.8%) と続いている。

「その他」については、友人を通じて紹介してもらっている場合や、自治体が運営しているカルチャースクールで体験講座を開いて生徒募集を行っている、という回答が見られた。

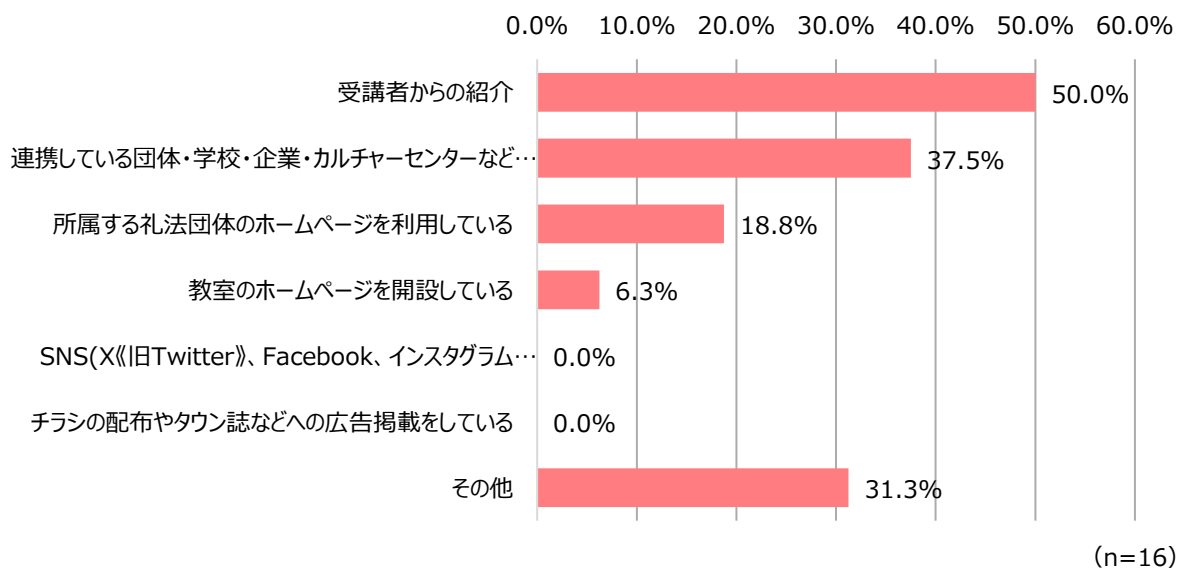


図 18 生徒の募集方法

② 教室見学や体験する機会の提供等

回答のあった 16 教室のうち 9 教室 (56.3%) が教室見学や体験機会を提供している。

上記 9 教室では、稽古を随時見学してもらっている教室が 6 教室 (66.7%)、稽古の体験を行っている教室が 5 教室 (55.6%)、見学・体験いずれも実施している教室 (4 教室、44.4%) もある。

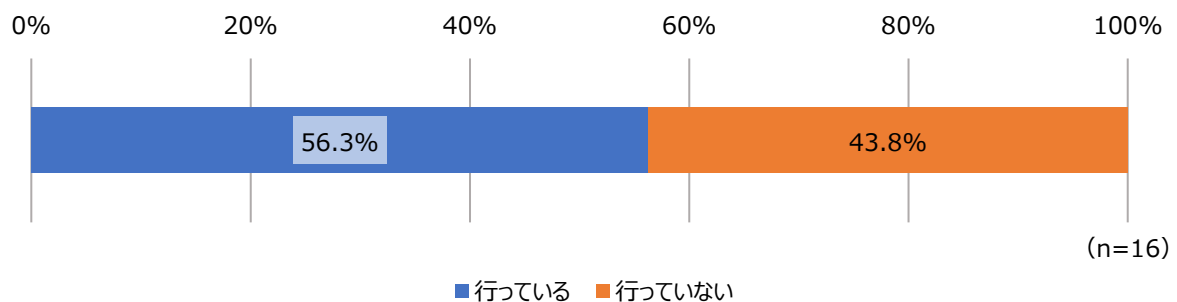


図 19 見学・体験機会の提供

③ 教室運営上の課題、解決のために行っている対策

教室運営における課題としては、学校等で学生を指導している指導者からは受講者数が多くなってしまい指導が行き届かないといった点や、座礼を基本とした指導を行っている指導者は、会場として和室の部屋を確保することが難しくなっている点を挙げている。この他、複数のクラスを持っている教室では、クラス間の交流が少ない、発表会等が無いので受講者が成長の実感を持ちにくい等の課題を挙げている。

これらの課題については、受講者が多い場合を考慮した一斉指導の実技を研究する等の工夫を行うことで対応しているほか、講師の人数を増やして対応している場合も見受けられる。また、クラス間の交流が少ない点や成長の実感を課題としている教室では、クラス合同で勉強会を開くことで交流を行う機会を設けるなどの対応を行っている。

なお、具体的な課題を挙げてはいないが、礼法に関する講座等の依頼があれば積極的に引き受けていると回答している教室も見受けられる。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策

回答のあった 12 教室のうち、6 教室 (50.0%) が稽古を休講にしたと回答しており、長い場合は 3 年間に亘って休講していたと回答している教室も見られる。

各教室において実施されていた感染症対策としては、教室開講時は、指導者や受講者の手指の消毒や物品等の消毒を徹底し、マスクの着用も行っていたとの回答が 8 教室 (66.7%) と最も多く、このほか、講義形式の変更やアクリル板等を活用したソーシャルディスタンスの確保 (5 教室、41.7%)、空気清浄機等を導入して教室内の換気を徹底する (3 教室、25.0%) などの対策が行われていた。

また、オンラインを活用した講座の実施 (5 教室、41.7%) についても回答が見られ、各教室の事情に応じた形で、対策が行われていたことが確認できる。

(4) 教室外との関わりについて

① 教室の外で行う活動内容

教室の外で行う活動としては、回答のあった 15 教室のうち、「流派の研修会や講習会への参加」が 12 教室 (80.0%) と最も多く、次いで「教室外での講習会の開催 (教室が主催・共催するもの)」と「学校等教育機関への講師派遣」がともに 5 教室 (33.3%)、「企業・団体等への講師派遣」が 4 教室 (26.7%) 「流派以外が主催する講演会や勉強会への参加」3 教室 (20.0%) と続いている。

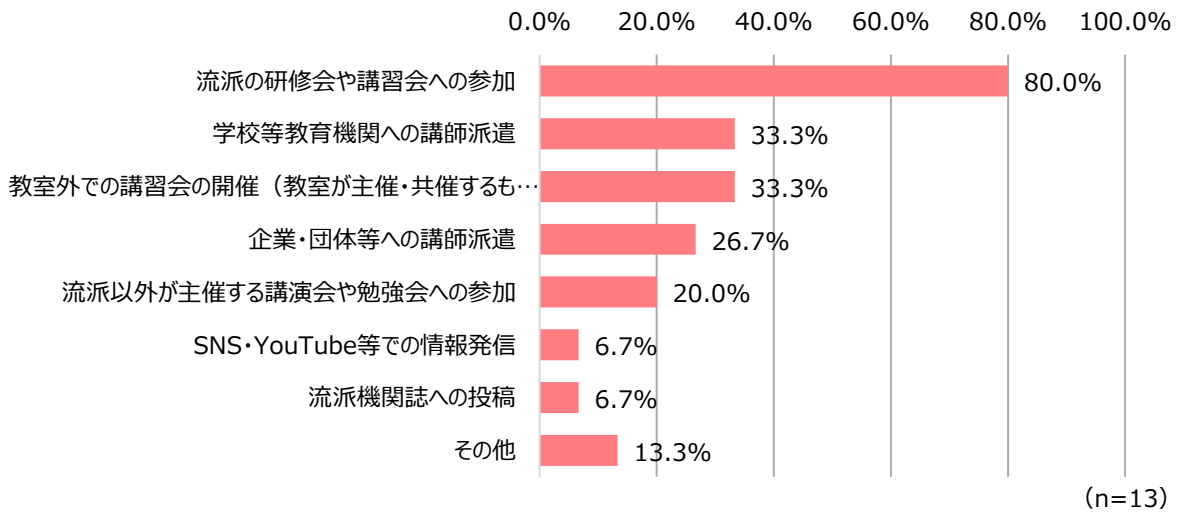


図 20 教室の外で行っている活動内容

② 連携している団体や組織

連携している団体や組織としては、回答のあった 13 教室のうち、「所属している流派の団体、教室」が 10 教室（76.9%）と最も多く、次いで「学校」の 5 教室（38.5%）、「礼法以外の伝統的な生活文化の組織（茶道、華道、書道、煎茶道、香道など）」4 教室（30.8%）と続く。

「その他」の回答としては、自治体の教育委員会関係や、指導者自身が関係する寺院、学校や企業との回答があり、様々な団体や組織と連携が行われていることが確認できる。

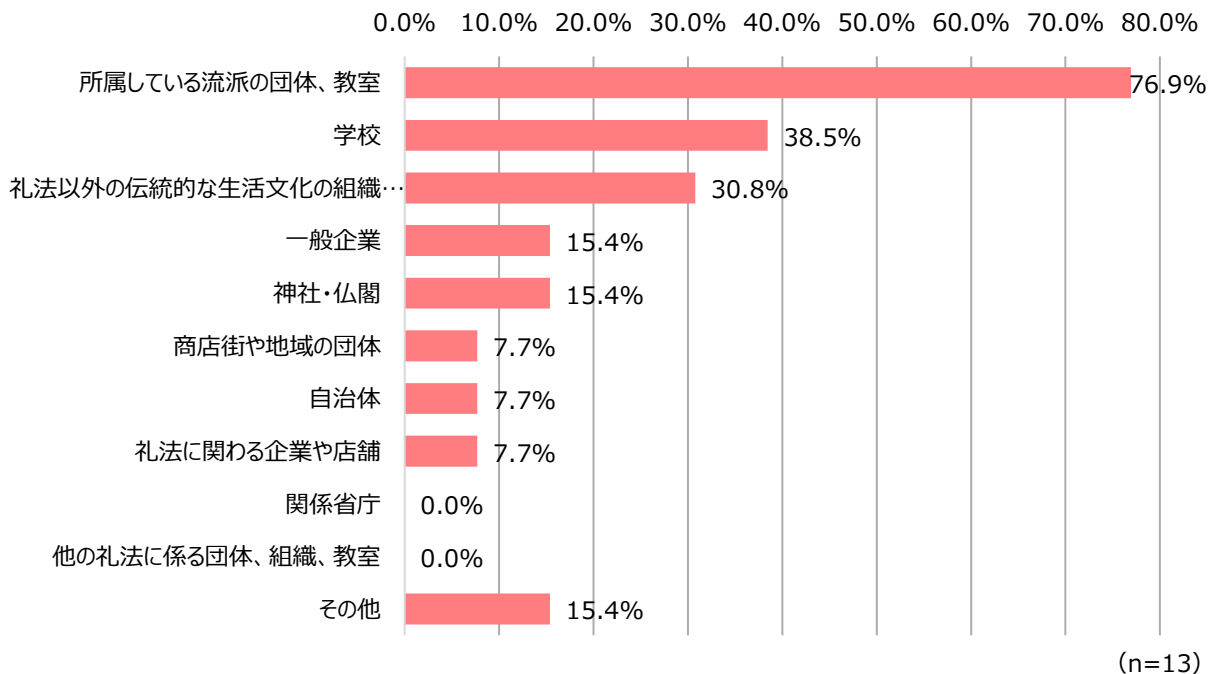


図 21 連携している団体や組織

③ 教室所在地の地域コミュニティとの連携

アンケートに回答した 16 教室中、4 教室 (25.0%) が地域コミュニティとの連携を行っているという回答している。

連携を行っている教室からは、連携内容として地域の幼稚園や小学校等に赴き礼法の講座を開いていることや、自治体の出前講座に講師登録をして地区センターで講座を開いているといった回答が多い。また、教室主催の新年会に地域住民を招待して交流を図っているという回答も見られた。

2-3 まとめ

教室の活動内容

礼法教室を開いている場所について、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」との回答比率が最も高く、次いで「自宅を稽古場としている」、「自宅以外に稽古場を所有している」と続いており、その他に私立学校や大学の授業や講義で礼法の指導を行っているとの回答も見られた。稽古を行う場合の形式については、9割の教室で座礼を中心に指導・稽古を行っていることや、全体の7割以上の教室で座礼・立礼どちらの指導も行っていることが確認できる。また、座礼、立礼の指導を行う際に会場を別に設けている教室も見られる。

次に教室で指導を行っている者の人数や属性については、一人で指導を行っているとの回答が、アンケート回答全体の約7割を占めており、複数人で指導を行っている教室は多くないことが分かる。また、指導する者の属性に関しては、約9割の免状や資格を有していることが確認できるほか、専業ではなく、免状や資格を持った「会社員」や「専業主婦・主夫」といった人々が指導を行っている状況が明らかとなった。

教室において礼法を学ぶ生徒数やその属性については、回答のあった教室の6割が生徒数19人未満と回答しているほか、私立学校等の授業で多くの学生に指導をしている場合もあり、多い場合は500人ほどに指導を行っていることが確認できる。生徒の年齢層としては、10代以下が9割を占めているが、これは私立学校等の授業において礼法を学んでいる者が含まれていることによる。教室や稽古場、カルチャーセンター等で礼法を学ぶ者の年齢層としては、40代が最も多い結果となり、20代、60代と続く。また、生徒の性別については、女性が8割となっている。男性も2割程度との回答結果となったが、これには学校等の授業で礼法を習っている者が含まれていることを踏まえれば、教室や稽古場で礼法を習う生徒のほとんどが女性で占められていることが確認できる。

教室で礼法を習う生徒がひと月あたりに受講する平均回数は、「1～4回」との回答が9割を越え、ひと月あたりの平均受講金額は「5,000円未満」が6割、「5,000～1万円未満」が4割と、ひと月あたり1万円未満で受講している者が大半であることが確認できる。

教室の指導内容

指導内容としては、作法や所作をはじめ、冠婚葬祭や年中行事、訪問や食事等での振る舞いや考え方、折形・水引・結び等々の仕方や、礼法を実践する上での精神性等が、回答のあった16教室全てで実施されている。また、姿勢や身体づくり、書札礼、礼法の古典の学習についてもほとんどの教室で実施されている上、ビジネスマナー等について指導を行っている教室があることも確認できる。

次に、指導における教材や用具の使用の有無については、回答のあった16教室のうち、8割の教室が教材や用具を使用しており、そのうちの5割は流派団体から発刊されている書籍等を使用している。また、奉書紙や水引、紐等も教材として用いられている。

礼法教室における指導の目的については、相手を思いやる心を育むことを目的としているといった主旨の回答が7割を越えており、次いで礼法の作法や所作、姿勢を学んでもらうといった主旨の回答が約7割、日常生活において礼法を実践することの大事さを学んでもらうが5割と、礼法の心と作法を身に付けてもらい、それを日常生活に活かす・実践することを目的として掲げている教室が多いことを確認できる。

指導や教授方法で工夫している点については、繰り返し練習するような機会を設けているといった主旨の回答が最も回答比率が高い。次いで、礼法の作法や所作の意味を伝えるといった工夫や、受講日時を調整できるようにするなどの回答が続いており、継続的に礼法の稽古を続け作法や所作を身に付けるとともに、それらの意味を理解できるような工夫を行っている教室が多いことが分かる。

上記のような工夫を行った上での教育や指導の成果として最も多く挙がっていたのは、礼法の作法や所作が身に付いたという回答で、次いで相手を重んじる・思いやる心が身に付いた、礼法の意義等が理解できたと続き、教室が掲げている目的とそれに対しての工夫が成果として表れていると、指導者が考えていることをアンケート回答からうかがい知ることが出来る。

教室の運営

各教室における生徒の募集方法については、回答のあった16教室のうち、5割の教室が受講者からの紹介と回答している。次いで、連携している団体やカルチャーセンター等を通じた募集を行っている教室が4割、所属する流派団体のホームページを通じた募集を行っている教室も2割程度という結果となった。また、見学や体験の機会を設けているかという質問については、約6割の教室が見学や体験機会を設けていると回答しており、稽古の様子などを見学出来る機会を設けている教室が多い傾向にある。見学機会と体験機会、両方の機会を設けている教室も見られる。

教室の運営上の課題は、各教室の事情によって大きく異なる結果となった。学校等で指導を行っている指導者は、多人数を対象とした際の指導の難しさを課題として挙げており、会場を借りて教室を開催している指導者は、和室を確保しにくくなっている等の課題を挙げるなど、教室によってそれぞれ抱える課題が異なることが分かる。その上で、各教室ともに様々な工夫を行いながら、課題への対応や教室運営に取り組んでいることもアンケート回答からうかがい知ることが出来る。ま

た、アンケート回答では、団体等から礼法に係る何らかの依頼があれば積極的に引き受けるようにしているといった回答が見られた。

新型コロナウイルス感染症の影響については、回答のあった12教室の半数が稽古を休講せざるを得なかった状況にあり、3年間稽古場を開けなかったという回答も見られる。稽古を行う際の感染症対策については、マスク着用や手指消毒等の実施、ソーシャルディスタンスの確保等、一般的な感染症対策が取られていたほか、オンラインでの講義を開いていた教室も確認できた。

教室外の活動については、回答のあった15教室のうち、流派団体が実施する研修会・講習会等へ参加しているとの回答が8割、その他、教室主催の講習会や教育機関への講師派遣等を実施しているとの回答が3割程見られる。また、他の団体や組織との連携については、回答のあった13教室のうち約8割が所属する流派団体との連携を図っていると回答している。他にも、学校等との連携が約4割、他の伝統文化に関連する団体との連携も行われている。

教室所在地の地域コミュニティとの連携状況については、16教室のうち、2割程度の教室が地域コミュニティとの連携を図っていることが確認できる。連携の内容としては、地域の幼稚園や学校等との連携の他、地方公共団体が運営する地区センターでの講座の開設等が確認できる。

結 本調査研究事業のまとめ

1. 礼法において継承されてきたこと

礼法とは、今日においては広く「礼儀作法」を意味する言葉として扱われており、一定の規範としての「型」と「作法」に則った「所作」をもって、相手を敬い・思いやる心を、表現する行為であると言える。礼儀作法は、社会生活を円滑にし、人間関係を豊かなにする上で大事な行動様式や習慣となっており、このことは挨拶の仕方や言葉遣い、礼儀がどのような意味を持つかが、学校教育の道徳の授業において学生達に教えられていることからもうかがい知ることが出来る。

今日、私たちが身に付けている礼儀作法と密接なかかわりがあるものとして、武家における伝統的な儀式礼法がある。現在は「武家礼法」とも言われており、今日では小笠原家において武家故実として伝承されてきた礼法が広く知られており、それぞれの流派団体によって武家礼法の継承とともに啓蒙活動が行われている。

広く、礼儀作法という点について歴史的に見れば、平安時代、朝廷の様々な儀礼・行事が行われる際、そこに参列する公家たちによって儀式的次第などと共に、行事毎に必要とされる作法が先例として蓄積されていき、「公家故実」という形で各家において次第にまとめられていった。一方、鎌倉時代になると武家で行われていた弓馬術に関する先例が各家で蓄積されていき、体系立てたものとして整理されていった。また、公家が関東に下向する機会が増えたことで、武家が公家故実などに触れる機会も増えていき、それらを武家が摂取することとなった。そのような変化の中で、先の弓馬術も含み、武家で行う儀式や行事、装束等の先例が蓄積されていき「武家故実」という形で整理が行われていき、伊勢家や京都小笠原家、大館家のように、武家故実に詳しい家という位置づけも形成されていった。

江戸時代に入ると、幕府が行う儀式に関する故実や作法が重視されていく中で、勅使の饗応等を受け持つ高家の他、武家故実については小笠原家や伊勢家が故実を守り指導する立場となっていった。そのような背景もあり、各藩では幕府の儀礼・行事等への参列の際に武家故実に係る知識等が必要となるため、武士が武家故実や礼法を学ぶ機会が増えていった。

その一方で、小笠原惣領家の礼法を学んだ水嶋ト也によって礼儀作法を教える道場が開かれたことや、女性の礼儀作法を解説したことに加えて、武家礼法に立脚した礼儀作法に関する啓蒙的な書物が多数刊行されるようになったことで、武家のみならず多くの人々が礼法を学ぶ機会を得ていくこととなった。明治時代になると、生活様式の西洋化が進展していき、その状況に応じた礼儀作法が求められる中においても、武家故実を基盤とした礼儀作法は必要とされ、学校教育の中で礼儀作法を学ぶ時間が設けられていった。また、女子教育の一環として礼儀作法を学ぶ機会が設けられていくことになった。昭和に入ってから「国民礼法」という構想が立ち上がり、礼儀作法の教育について強化を図っていく計画もあったが、結果的には頓挫することとなった。

以降、礼法については、武家故実を継承してきた小笠原家に係る流派団体によって、啓蒙書の刊行や稽古場・カルチャーセンターの開設による礼法を含めた武家故実等の教授を通じた、啓蒙と普及が図られていき、現在に至っている。

2. 礼法に係る用具等の継承について

礼法では、物品等の贈答等の際に用いられる熨斗や水引、折形等の用具の扱い方についても大事な要素として含まれていることから、今回の調査では、主に統計調査及び関連する団体が実施した市場調査、用具の製造に係る企業等へのヒアリングによって、折型に用いられる和紙と水引に関する生産状況及び流通状況等の把握を試みた。

まず、折形に用いられる和紙については、主に手漉きで製造される檀紙、生漉奉書紙、麻紙などが用いられており、『工業統計調査』から手漉き和紙の出荷額の変化を見ると、昭和60年から令和2年までは徐々に減少しつつ令和3年には急激な出荷額の上昇に転じている。しかし、手漉き和紙の製造を行う業者の数は昭和60年と令和3年の事業者数を比較すると3分の1にまで減少していることが確認できる。

次に手漉き和紙の原料となる楮、三桎等の栽培面積及び出荷量は、手漉き和紙の出荷量と比例する形で減少傾向にあり、楮や三桎の生産を主とした自立的な経済活動は困難な状況にある。手漉き和紙については、出荷量の減少に伴う形で、原材料となる楮や三桎等の原材料の生産力の低下、そして、全国の産地において手漉き和紙を製作出来る職人の高齢化も進み、事業者の廃業や後継者不足が続いている状況にある。

水引については、水引を含む祝儀用品の出荷額は、昭和60年から平成7年にかけて増加しているものの、それ以降は減少に転じている。このことは、水引の主たる生産地である飯田市の飯田水引協同組合のヒアリングにおいて、バブル経済の最盛期には70億円程度だった売り上げが、現在では半分程度にまで減少しているとの回答があった点からもうかがい知ることが出来る。祝儀用品の出荷額の減少や協同組合へのヒアリングからもうかがえるように、水引の市場は縮小を続けている状況にあると言える。また、海外における水引の原材料の加工や製造が主流となり国内での水引製造が大きく減少傾向にあることから、国内の水引製造業の空洞化が懸念されている。さらには、海外生産における人手不足も課題となっている。

3. アンケート結果から見た今後の団体・教室活動の方向性と課題

国民意識調査の結果からは、回答者2万人のうち、礼法を経験したことがない者が8割以上いること、そして何らかの機会に礼法を体験したことがある者も2割を切っていることが明らかとなった。また性別の違いで見ると、経験者、体験者共に女性の割合が高いことも明らかとなった。

まず、礼法を習っている・教える立場にあると回答した者については、親や兄弟姉妹等が習っていた、友人・知人から勧められた、自分の趣味との関連等をきっかけとして始めた者など、様々な機会をきっかけに礼法を知りそして習い始めていたことが分かる。

一方、礼法を体験したことがあると回答した者の体験したきっかけについては、学校や稽古場、教室、文化施設等での体験イベントがきっかけであるとの回答が全体の約5割を占めている。また、実際に体験をした場としては学校の授業や職場での研修が4割と多く、特に30～50代の回答比率が高い傾向にある。しかし、礼法を体験した者に、その後、礼法を習っていない理由を問うと、興味がなかったとの回答が約4割、他の趣味・娯楽に関心が向いているとの回答が約2割、自分の趣味

と合わないとの回答が1割と全体の7割は礼法を体験したことがあるものの、興味関心を抱くまでには至らなかったことがうかがい知れる。なお、残りの約3割については、礼法に対して興味関心を持っているものの、何らかの事情があつて習うまでには至らなかった者である。これらの者の回答を見ると、通いやすい場所に稽古場や教室が無かったとの回答が最も多く、次いで習うための十分な時間が取れなかったと続き、条件さえ合えば、礼法を習おうと考える者がいることを確認できる。

礼法を経験したことが無いと回答している者については、体験したことが無い理由について、興味が無い、自分の趣味と合わない等、礼法に対して興味関心が無いといった主旨の回答が全体の5割近くを占めている。また、そもそも礼法を知らなかったと回答している者も約3割近くいることが確認できることから、礼法そのものを認知してもらうような取り組みが必要となっている。加えて、体験したことが無い約3割については、何らかの事情で体験する機会を持てなかったことから、体験出来るイベント等の機会をより広く周知するような取り組みを行うとともに、気軽に体験出来るような取り組みの仕方についても考えていく必要があると言える。

次に、礼法に係る流派団体を対象としたアンケート調査の結果からは、各流派団体それぞれに、一般向けに稽古場や教室を開き礼法の教授を行っていることに加え、教育機関や企業への講師派遣等、礼法の普及や広報発信等の取組を進めている。また、それぞれの流派団体において継承されてきた礼法や武家故実を次の世代へ伝承していくための取組も行われている。いずれの団体も礼法の普及・啓発に関する取組を行っているものの、前述の国民意識調査の結果にもあるように、礼法そのものを知っている人が少ない、という現状を課題と捉えて、周知に関する取組を進めている。

また、礼法に係る教室や稽古場を対象としたアンケート調査の結果からは、主にカルチャーセンターの講座において礼法の教授を行っている場合が多く、次いで私立学校での授業や大学での講義で教授を行っているとの回答も多く見られる。このような活動については、多くの教室が一人で指導を行っており、座礼を中心とした指導ではあるが、7割以上の教室で立礼についての指導も実施されている。指導内容については、作法や所作は勿論のこと、冠婚葬祭や年中行事等での振る舞い、折形等についての指導も広く行われており、多くの教室は相手を思いやる心とそれを表す礼法を身に付けてもらうことを目的として、繰り返し練習を行う機会を作ったり、指導を受けやすいように稽古の時間を調整しやすくしたりするなどの工夫を行っている。そのような工夫もあり、稽古の受講者が作法や所作が身に付いた、相手を思いやる心が身に付いたと回答している指導者が多くおり、工夫の成果が表れていると考える指導者が多くいることが確認できる。その一方、大人数に対する指導の難しさや、会場確保等、教室それぞれに課題を抱えている現状もアンケート結果から明らかとなった。

以上のように、礼法に係る流派団体や教室によって礼法の普及や振興に関する様々な活動が行われていることで、礼法を知る・体験する機会とともに礼法を学ぶ機会が提供されていることが分かる。特に流派団体においては、礼法自体を如何に知ってもらえるか、体験してもらえるか、という課題を持ちながら、広報活動などにも取り組んでいる。そのような活動もあり、少なくない人が礼

法を学び、また、礼法を経験する機会を得ていることが国民意識調査からうかがい知ることが出来る。とはいえ、多くの人が礼法を経験したことが無い状況であり、礼法自体を知らないと回答している者もいることから、流派団体や教室による継続的な広報と普及や振興に関する取組が必要となっていることが分かる。

4. 礼法を次世代に継承するために

礼儀作法は、社会生活において人と人とが、円滑にコミュニケーションを図り、相手を重んじるとともに自らの心を作法や所作として体現・表現する行為として広く学ばれ、日常生活は勿論のこと冠婚葬祭や年中行事等、様々な場や機会において実践されてきた。現在、私たちが様々な機会において実践している一般的な礼儀作法は、流派団体によって継承されてきた武家故実を基盤とする儀式礼法が、武家のみならず一般の人々へも広がっていき実践が繰り返されてきたことで、形作られてきたものと言える。

現在では、小学校や中学校の道德の授業において、一般的な礼儀作法を学ぶ機会が設けられている他、様々な機会において礼儀作法を学ぶ機会がある。その一方で、武家故実を基盤とする礼法は、各流派団体によって継承されるとともに、流派団体による様々な取組によって普及と振興が行われている。

流派団体や教室を対象としたアンケートへの回答にもあるように、団体によって礼法を学ぶことが出来る稽古場や教室等が開かれているほか、私立学校の授業や大学の講義、あるいは企業研修と言った機会に礼法の指導ができる者による講演や指導が行われており、その他にも、礼法に関する書籍等の公刊やSNSを通じた発信も行われている。

各流派団体が、伝統的な礼法の継承と普及をそれぞれに図っている状況ではあるが、国民意識調査の結果からは、礼法自体を経験・体験した者は必ずしも多くない傾向にあり、また、礼法自体を知らないという者も少なからずいるという状況が確認できる。しかし、条件が整えば体験したいと考える者が少なくないことから、礼法に興味関心を持っている者がいる。加えて、礼法を体験したことがある者は、学校や稽古場等で開催されている体験イベントで体験しているとの回答比率が高いことから、流派団体によって体験機会や学びの機会が提供されてきたことが、結果に繋がっていることも確認できる。以上のことから、礼法の普及や振興を考えた場合、流派団体や教室等がこれまで実施してきた様々な形の体験機会の創出が、礼法を普及していく上で大事な活動であること、そして、それらの取組を今後継続的に展開していくとともに、体験機会や礼法そのものを広く周知していく必要があると考えられる。

しかし、礼法に関する普及や振興に関する活動については、流派団体それぞれに考え方の違いがあることは、アンケートの調査結果からも明らかであり、例えば、稽古場を開いている流派団体においてはあまり多くの生徒を取らない、と言う考え方が一方、他の流派団体は可能であれば礼法の教室を展開していきたいと考えているなど、違いが見られる。よって、流派団体それぞれの考え方や活動の仕方を考慮した上で、礼法の普及・振興に関する活動への支援方法を慎重に検討していく必要がある。

また、各流派団体によって継承されてきた、武家故実に基づく礼法の具体的な作法や所作等につ

いては、本調査ではその実態を明らかに出来ていない。加えて、各流派団体がどのような形で礼法の伝承を図ってきたのか、今後どのような伝承を図っていこうと考えているのか、という点についても、作法や所作に関する把握と合わせて具体的な調査を行っていきながら、振興や保護についての施策の在り方を検討していく必要があると考えられる。

礼法は、日本の伝統的な礼儀作法に大きな影響を与えてきた、伝統的な生活文化である。礼法を次の世代へと継承していくには、礼法自体を広く周知していく取組や体験機会の創出等への支援が必要となるものと考えられる。各流派団体、そして教室などの活動を注視しながら、国や地方公共団体においても礼法に関する活動への適時適切な支援の在り方の検討を図っていくことが重要である。

参考資料 有識者(礼法)及び有識者会議検討経過

1. 有識者

本調査研究事業は、礼法に関する豊富な識見を有する者を有識者(礼法)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和6年1月31日現在

堀田 明美 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 准教授

綿抜 豊昭 筑波大学 図書館情報メディア系 教授

2. 有識者会議の経過

令和3年度

第1回

●開催日・開催方法

令和3年12月3日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年2月8日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」報告書素案について
- ・今後の予定について

令和4年度

第1回

●開催日・開催方法

令和4年7月29日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年11月18日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

第3回

●開催日・開催方法

令和5年1月23日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和5年度

第1回

●開催日・開催方法

令和5年10月6日 リモート会議

●主な内容

- ・団体及び教室アンケート案について
- ・アンケート送付方法及び送付先について
- ・用具及び原材料についての調査状況について
- ・今後のスケジュールについて

第2回

●開催日・開催方法

令和6年1月11日 リモート会議

●主な内容

- ・アンケート調査実施状況
- ・用具及び原材料調査原稿案について
- ・報告書の構成について
- ・今後のスケジュールについて

第3回

●開催日・開催方法

令和6年2月8日 リモート会議

●主な内容

- ・令和5年度「生活文化調査研究事業（礼法）」報告書案について

3. 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・ 礼法の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等
- ・ 礼法団体・流派及び礼法教室アンケートの作成、発送、集計、分析
- ・ 有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料 礼法に関わる用具の原材料について

礼法においては、起居進退や辞儀の仕方、所作に加え、贈答に関わる熨斗や水引、折形の扱い方が礼法の一要素として位置付けられている。

礼法に係る団体においては折形や伝統的な水引の扱い方等が伝承されており、ここでは、礼法に関わる用具の原材料として、折形に用いられる手漉き和紙及び水引について取り上げることとする。

1. 手漉き和紙

(1) 折形における和紙の利用

折形とは主に、贈答の際、和紙を使い進物を包んで手渡す方法と、その際の紙の折り方を指す。和紙を扱う業者へのヒアリングによると、折形を伝える礼法団体では、教授用や展示用として福井県越前市で生産されている越前和紙の檀紙・生漉奉書紙・麻紙を、練習用として主に機械漉きの和紙を利用している。

このうち檀紙¹は、平安初期から懐紙などに使われ、中世以降も武家の格式の高い文書等に利用されていた最上質の紙で、楮^{こうぞ}を原材料とし、表面に皺^{しぼ}があることが特徴である。皺の深さにより3種類に区分けされており、深いものを大高檀紙、浅いものを小高檀紙、間のものを中高檀紙と呼ぶ。皺は、古代・中世では、乾燥過程で自然についたものであったが、近世以降は人工的に付けられるようになった。

手漉きの生漉奉書紙は、中世、近世には御教書、院宣などの公文書に広く利用された格の高い和紙である。生産地は前出の福井県越前市や、愛媛県西条市、高知県土佐市がある²。越前市で生産されている生漉奉書紙は、版画や書画用紙として使われるほか、日本刀の拭い紙^{ぬぐ}、書簡用巻紙等にも利用されている。なお、平成12年(2000)に、越前奉書紙は国の重要無形文化財に指定されている。

越前の麻紙は、楮と麻で作られる和紙で、奈良・平安時代に使われていた麻紙を独自の製法で20世紀前半に復興させたものである(奈良・平安時代の麻紙は楮を材料に入れていない³)。復興された麻紙は、日本画用のもので、開発時には竹内栖鳳^{せいほう}ら著名な日本画家が協力した。212×273 cmなど、極めて大きな紙も製造していることが特徴である。

機械漉き和紙は、懸垂式短網抄紙機等、第二次世界大戦後に開発された技術を用いたものである。洋紙の製紙過程において振動を与えることで、和紙の製紙に必須の繊維間の絡みを作りあげ、和紙生産の機械化に成功した⁴。楮・三椏^{みつまた}・麻などに木材パルプ等を添加したものを原材料とし、愛媛県

1 紙の温度株式会社著『紙の温度』が出会った 世界の紙と日本の和紙』(グラフィック社、令和4年)、杉村和彦・山崎茂雄・増田頼保編著『図説 紙と神の里の未来学』(晃洋書房、平成31年)、有岡利幸『ものと人間の文化史 181 和紙植物』(法政大学出版局、平成30年)を参照した。

2 全国手すき和紙連合会ウェブサイト 全国産地マップ (URL:http://www.tesukiwashi.jp/sanchi_map.htm) を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

3 有岡利幸『ものと人間の文化史 181 和紙植物』(法政大学出版局、平成30年) p. 28-29 を参照した。

4 小林良生「高知県機械すき和紙業界の現状支える技術的風土」(『紙バ技協誌』第34巻第7号、紙パルプ技術協会、昭和55年 p. 437-442)

等では、檀紙、奉書紙についても機械漉きでの生産が行われている。

なお、製紙業者へのヒアリングによると、礼法関係への紙の流通については、折形を伝える団体に対し、和紙の製造・卸・小売企業が直接卸していることが確認されている。

(2) 市場動向

和紙の製造は、昭和40年代に障子紙や襖紙、一般的な書道用紙等、一定の生産量が見込めるものについては機械漉きへと転換し、手漉きは大きく減少した。出荷金額を工業統計調査及び経済構造実態調査の結果から見ると、昭和60年(1985)に3,568百万円あったものが、令和2年(2020)には1,385百万円に低下している。ただし、令和3年(2021)には反転し、2,643百万円と出荷金額が上昇している(図1参照)。なお、手漉き和紙の生産を行っている事業者数は、昭和60年(1985)の157事業者から令和3年(2021)の43事業者まで3分の1以下に減少しているが、工業統計調査及び経済構造実態調査では、従業員数4人以上の事業所のみが調査対象であるため、手漉き和紙の工房に多い従業員数1～3人の事業所について調査対象外であることに留意する必要がある⁵。

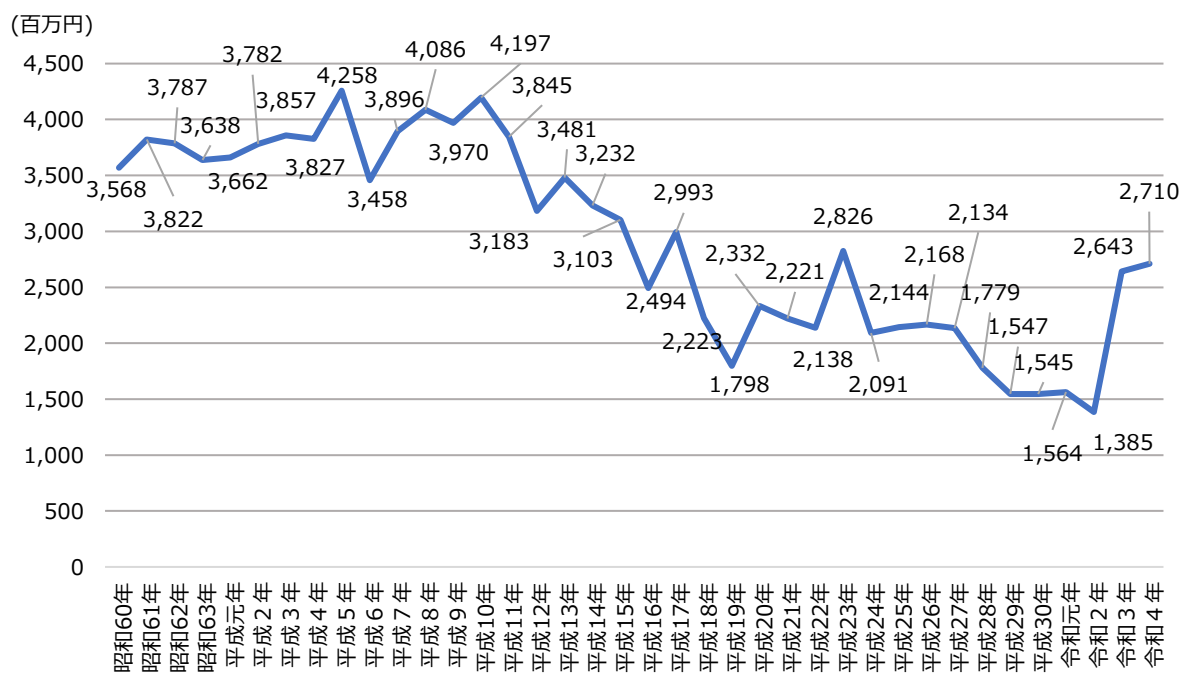


図1 手漉き和紙の出荷高推移

出典：経済産業省「工業統計調査」(令和4年調査より「経済構造実態調査」)各年版を参照し作成した⁶。

⁵ 経済産業省「工業統計調査」(令和4年調査より「経済構造実態調査」)の各年版の品目別統計表の目次ページ(URL:<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/index.html>)を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

⁶ 令和3年に増加しているのは、工業統計調査から経済構造実態調査への変更に伴い、調査対象母集団が工業調査準備調査名簿事業所母集団データベースとなり、小規模な事業所が多いと考えられる手漉き和紙事業者のデータに例外的に影響が出たと推測される。

(3) 製造

手漉き和紙の原料には雁皮^{がんぴ}、楮、三桠がある。農産物として生産されているのは楮と三桠で、雁皮は森林からの採取となる。製造に当たっては、まず韌皮^{じんぴ}を剥ぎ、それを煮熟^{しやじゆく}した後、流水中で洗浄・漂白し、その後柔軟性を与えるための叩解^{こうかい}を行って切りほぐしたり押しつぶしたりし、不均一な長さの繊維を持つ紙料にする。これを、ネリ、ノリ、ネベシ、タモなどと呼ばれる黄蜀葵^{とろろあおい}や糊空木^{のりうつぎ}などから作られる植物粘剤を入れた水の中で漉くことで、紙料の繊維が塊にならず、均一な紙が漉き上がる。和紙を特徴づける「流し漉き」の手法である⁷。以下、手漉き和紙の原材料と産地の状況について述べる。

■原材料

雁皮、楮、三桠のほか、麻なども用いられている。また、ササやフキなど、珍しい材料を用いている産地もある⁸。

雁皮はジンチョウゲ科の暖地に生育する落葉低木で、痩せた土壌の森林などに自生する。雁皮を用いた製紙は、奈良・平安時代の頃から行われ、後には鳥の子紙などと呼ばれた。

楮はクワ科カジノキ属の落葉低木で、本州西部の山地に自生する。雁皮と同じく、奈良・平安時代から和紙の原材料に用いられていた。江戸時代には紙の需要が急増したことから、全国各地で楮の植え付けが進むとともに楮を原材料とした和紙生産も盛んとなった。

三桠はジンチョウゲ科の低木で、日本で和紙の原材料として利用され始めたのは室町時代後期とされる。明治時代になると、紙幣に適した和紙原料素材として使われ始めたことをきっかけとして、全国各地の山地で多く生産されるようになった⁹。

楮、三桠の韌皮は、洗浄・漂白を行い、皮の黒い部分を剥ぎ取って、白皮にして紙料とする。国内の生産地では、黒皮のままでの出荷と、白皮にしての出荷がある。

楮及び三桠の国内生産量の近年の動向について、統計のある黒皮換算量で見ると、楮は、昭和40年(1965)の栽培面積が2,490ha、黒皮換算量の出荷が3,170tであったのに対し、令和4年(2022)には栽培面積が33ha、出荷が40tへと激減している。三桠についても、昭和40年時点で栽培面積5,450ha、出荷3,120tから令和4年にはそれぞれ57ha、28tと大きく減少していることが分かる。

なお、令和4年における楮の主要生産地は、新潟県(9.0t)、茨城県(8.2t)、京都府(4.3t)、三桠の主要生産地は、徳島県(14t)、岡山県(8.9t)、兵庫県(3.1t)となっている¹⁰。業界ヒアリングによれば、現在、日本における楮・三桠の農業生産は経済的な活動としては成り立ちにくくなっており、手漉き和紙工房が自家生産を行ったり、近隣の農家に依頼し原材料を確保している例が

7 町田誠之「和紙」(『紙パ技協誌』第31巻第8号 紙パルプ技術協会、昭和52年 p.590-595)

8 全国手すき和紙連合会ウェブサイト 全国産地マップ (URL:http://www.tesukiwashi.jp/sanchi_map.htm) を参照した。

9 有岡利幸『ものと人間の文化史 161 和紙植物』(法政大学出版局、平成30年) p.3-8を参照した。

10 「地域特産作物(工芸作物、薬用作物及び和紙原料等)に関する資料(令和4年産)」(公益財団法人日本特産農産物協会、令和6年) (URL:https://secure02.red.shared-server.net/www.jsapa.or.jp/pdf/Acrop_Jpaper/nousakumotuchousar4.pdf) を参照した。最終確認日：令和6年12月24日

ある。例えば、茨城県常陸大宮市で生産されている「西の内紙（手漉き和紙）」では、那須楮を自家生産している。

機械漉きの和紙生産では、海外から輸入された原材料を使用している。楮はタイ、中国等から、三椏は中国、ネパール等から、フィリピンからはマニラ麻を輸入している。紙幣の原材料としての三椏は、平成 12 年頃までは国内産で賄っていたが、近年では 9 割をネパールに依存している¹¹。国内における和紙原材料の国内生産の推移は図 2 に示すとおりである。

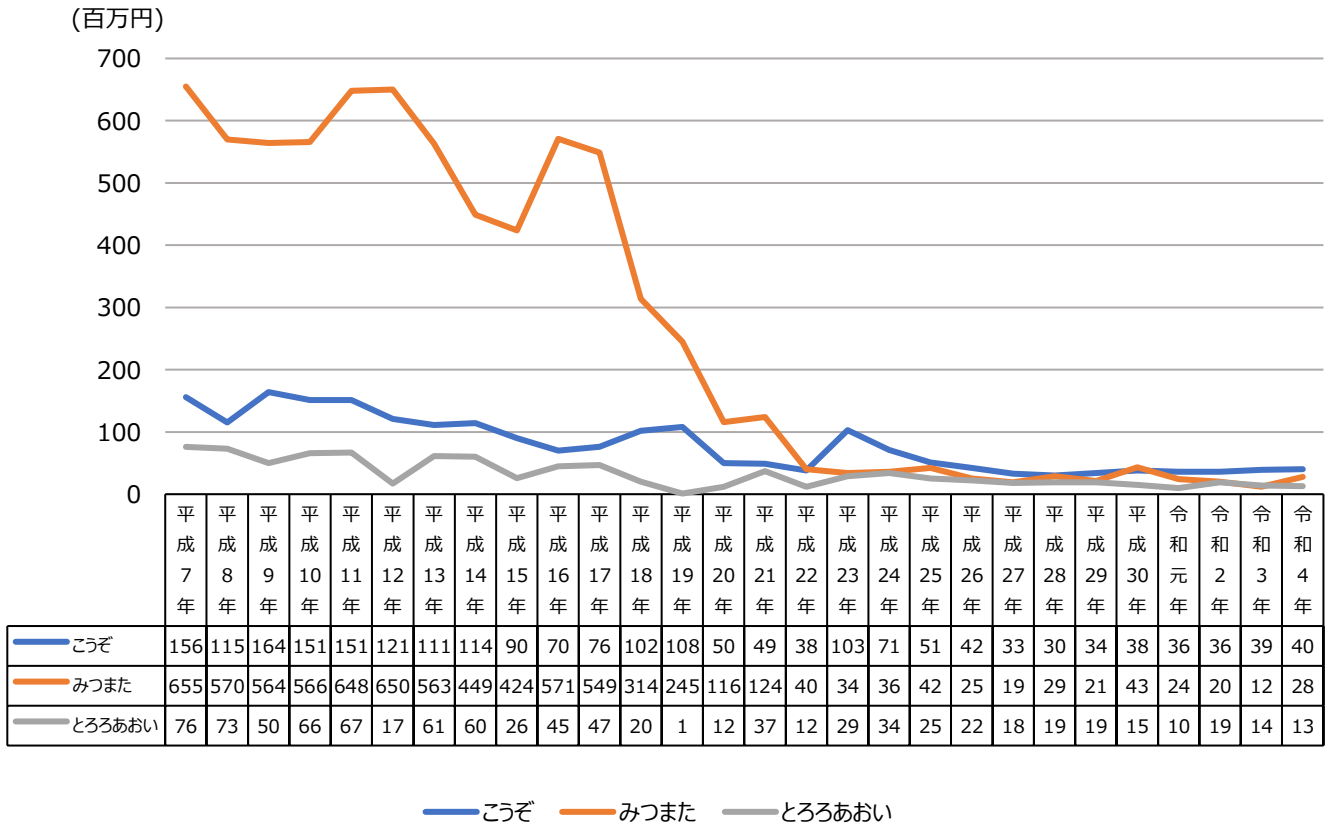


図 2 和紙原材料の国内生産量推移

出典：「地域特産作物(工芸作物、薬用作物及び和紙原料等)に関する資料(令和 4 年産)」(公益財団法人日本特産農産物協会、令和 6 年)を参照し受託事業者が作成した。なお、生産量は白皮を含む黒皮換算量計である。

■産地

楮の生産とそれを原材料とした和紙の生産については、近世の紙需要の急増を受け、全国各地で拡大するとともに、多数の藩で産地振興が行われた。全国手すき和紙連合会の調査では、手漉き和紙の産地は 41 都道府県 75 か所にも及んでいる。しかし、工房が 1～2 軒しか残っていない産地も多い¹²。

11 有岡利幸『ものと人間の文化史 181 和紙植物』(法政大学出版局、平成 30 年) p. 6 を参照した。

12 全国手すき和紙連合会ウェブサイト 全国産地マップ (URL:http://www.tesukiwashi.jp/sanchi_map.htm) を参照した。

主な手漉き和紙の産地としては、福井県越前市、岐阜県美濃市、高知県土佐市が挙げられる。福井県越前市では、五箇地区を中心に、令和元年時点で57軒の和紙製造業者が福井県和紙協同工業組合に加入している。同地区は古代より雁皮による和紙の生産地として知られ、近世には楮を原料とした檀紙・奉書紙の産地として福井藩によって振興された。また、技術の高さから、明治政府の太政官札の生産地となった。現在も手漉き和紙による地域振興に積極的に取り組んでいる¹³。

岐阜県美濃市は、古代・中世から主要な和紙生産地の一つであり、江戸時代には尾張藩の振興策を受け産地として発展し、近江商人の手によって現在に繋がる美濃紙のブランドを築きあげた。昭和40年以降は衰退傾向にあり、現在、美濃和紙ブランド協同組合に参加している工房は、令和4年12月現在、手漉き和紙で16か所、機械漉き和紙で5社となっている¹⁴。

高知県土佐市で作られている土佐和紙は江戸時代、土佐藩の重要な産品として知られ、明治期には新たな製紙技術を開発、明治中期には生産量が日本一となった。戦後は土佐和紙の共同販売体制を組み、国内外での展示会実施や、博物館等での普及啓発、後継者育成に取り組んでいる。高知県手すき和紙協同組合の組合員数は、令和5年12月現在、39人である¹⁵。

(4) 課題

ヒアリングによると、全国の産地で職人の高齢化、工房の廃業、後継者不足が続いている。

手漉き和紙全体としては、近年、これまでの版画や日本画に留まらず多様なアートの素材として着目されており、需要の拡大が見込まれているが、この利用については、伝統的な流し漉きを行わない手作り製造の紙も含まれている。礼法の折形に使われる手漉き和紙の量は、全体の和紙の需要量に比して、多くはないと考えられる。和紙生産量がこれ以上減ることがなければ、折形の原材料としての和紙の確保は継続できると思われる。

また、楮、三椶の生産、雁皮の採取は国内では大きく減少しており、海外産の原材料に依存せざるを得ない状況となっている。業界へのヒアリングによると、海外からの原材料の輸入は、黒皮を洗浄、漂白した白皮の段階で行われるのが通例であるが、苛性ソーダなど強力な薬剤を使う海外での処理が、原材料（白皮）の品質を下げ、手漉き和紙の品質に悪影響を与えている。

先のヒアリングでは、国内での楮・三椶生産は、収益力が低いという指摘がなされている。これを踏まえると、手漉き和紙の原材料の安定供給を図るためには、海外での白皮加工の品質向上が改善の策として重要である。例えば、紙幣に使われる三椶の処理については、政府刊行物専門書店「かんぼう」がネパールに現地法人を設立し、技術指導を行っている¹⁶。

13 杉村和彦・山崎茂雄・増田頼保編著『図説 紙と神の里の未来学』（晃洋書房、平成31年）p.2-20を参照した。

14 美濃和紙ブランド協働組合ウェブサイトの組合員紹介（URL:<http://www.chuokai-gifu.or.jp/kamiren/minowashi-br/tesuki1.html>）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

15 高知県手すき和紙協同組合ウェブサイトの沿革・概要（URL:<http://www.tosawashi.or.jp/index.html>）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

16 「ネパールが支える日本紙幣 原料の樹木、大半を生産」（『日本経済新聞』令和元年5月20日掲載）を参照した。

〈参考文献〉

- ・杉村和彦・山崎茂雄・増田頼保編著『図説 紙と神の里の未来学』晃洋書房、平成31年
- ・有岡利幸『ものと人間の文化史 161 和紙植物』法政大学出版局、平成30年
- ・紙の温度株式会社著『世界の紙と日本の和紙』グラフィック社、令和4年

2. 水引

(1) 礼法における水引

贈答の際の折形においては、熨斗^{のし}を飾りに付け、水引で結ぶことが多く行われている。ただし、今回ヒアリング調査¹⁷を実施した水引の最大の生産地である飯田市の水引メーカー及び製造問屋からは、直接、各流派や教室に水引を卸している例は確認できなかった。ヒアリングによれば、水引関連の製品は、メーカーや製造問屋から各業界の流通卸を経由し、コンビニエンスストア、ホームセンター、文具店、百貨店、神社・仏閣などへと販売されている。

(2) 市場動向

飯田水引協同組合へのヒアリングによると、水引と熨斗を飾りとした祝儀・不祝儀袋が水引の加工品として幅広く使われるようになったのは第二次世界大戦後である。特に高度経済成長期、単価の高い婚礼のための各種結納用品を中心に水引加工品市場が大きく成長し、これが平成2年初めまで続いた。しかしその後、結納用品の市場は大きく落ち込んでおり、現状では最盛期の1割に満たない。

結納用品の需要の落ち込みに代わって生産が増えてきたのが正月飾りである。その背景には、近郊農家の副業などで生産され、的屋など従来の流通経路で供給されてきた松・藁などの正月飾りが、水引を飾りとして用いた加工品の正月飾りに移行してきたことがある。この結果、金封と正月飾りが現在では水引市場の中心となっている。

水引単体についての国による統計調査は実施されていないが、同協同組合へのヒアリングによれば、バブル経済の最盛期に70億円程度あったものが、現在では、その半分程度になっていると推定されている。なお、工業統計調査（令和4年より経済構造実態調査）の、紙を原料とした祝儀用品（祝儀袋、のし紙、元結、水引、結納用品等）の出荷高によると、祝儀用品全体の出荷高は、平成元年（1989）の24,589百万円から平成4年（1992）には31,847百万円にまで拡大、その後減少傾向に転じ、令和3年（2021）には11,256百万円へとピーク時の3分の1程度となっており、水引単体の市場動向と大まかに比例している（図3参照）。また、製造に携わっている事業者の数をみると、平成元年当時の142か所から、令和3年には80か所へと減少している¹⁸。

17 飯田水引協同組合ヒアリング（令和5年11月24日）。以下、本項でのヒアリングからの示唆は全てこのヒアリング対象による。

18 経済産業省「工業統計調査」（令和4年調査より「経済構造実態調査」）各年版の品目別統計表の目次ページ（URL:<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougou/index.html>）を参照した。

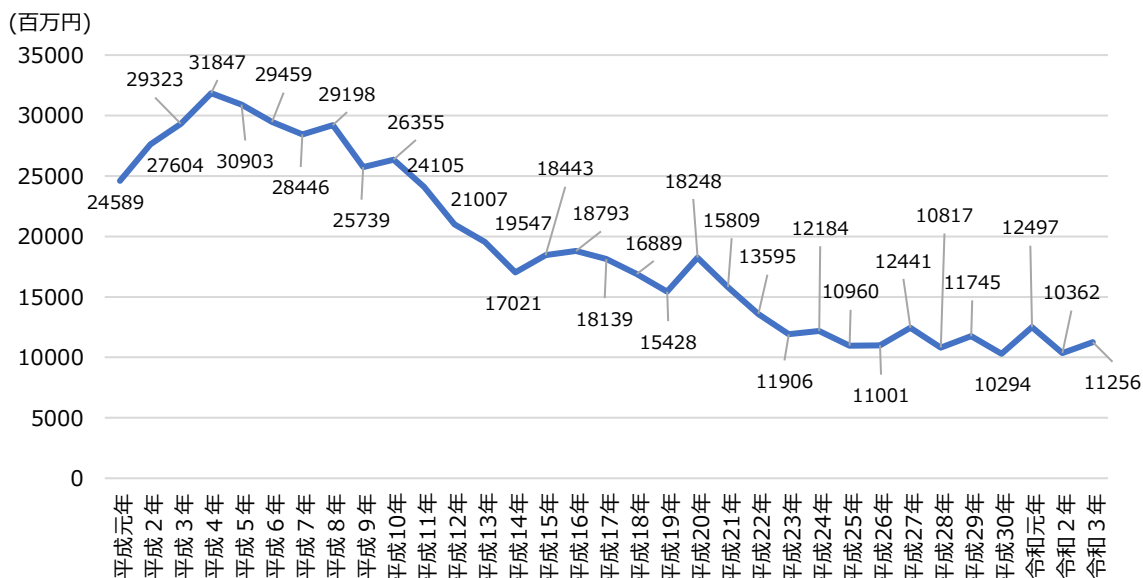


図3 祝儀用品（水引を含む）の出荷高推移

出典：経済産業省「工業統計調査」（令和4年調査より「経済構造実態調査」）各年版を参照し受託事業者が作成した

(3) 製造

水引の製造はまず、原料となる和紙を撚り機にかけて紙紐にし、100本程度ずつ撚りを掛けながら紙糸にする「はざかけ」という作業を行う。その後、木綿取りや漕と呼ばれる工程で、白土を使って紙糸を白く加工する。そこから必要な色に染色し、切断して「生水引」とする。戦前には水引といえばこの生水引を意味していたが、現在では、これを加工して金封や結納関連製品、正月飾りなどの水引製品に仕上げ販売するのが主流となっている。

昭和35年（1960）に紡績機械を応用した生水引製造機が導入され、手作業は一部の工程のみとなっている。金封によく使われるあわじ結びなどの基本的な結び方を用いる平面的な加工が中心であったものが、同35年、飯田市において結納用品用に立体工芸編みが開発され、その後、水引産業が大きく拡大する契機となった。また、原材料の和紙は楮から手漉きで作られていたが、現在では、全て木材パルプやマニラ麻を原料とする機械漉きの和紙に代替されている。

■産地

水引の主要産地は長野県飯田市と愛媛県四国中央市で、京都府京都市、石川県金沢市でも一部生産が行われている。

このうち飯田市は、水引製品の出荷額ベースの全国シェアが、昭和55年（1980）の調査で70%以上あったとされている。飯田市の水引生産は、近世、飯田藩が近郷で生産された楮を漉いた和紙を原材料とした元結（髻を結び束ねる紐）の生産を、城下町の町人の内職により産業化し、関東や北陸に販売したことから始まった。水引は元結にやや遅れて、農家の冬季の副業として製造が始まった。明治4年（1871）に発布された散髪断刀令により元結の需要が激減すると、飯田では水引

の生産が中心となっていった。大正9年頃に地域の養蚕業が大きな打撃を受けたことを契機に、周辺の農村の最大の多角化先としての地位を固めることとなった¹⁹。

四国中央市は、伝統的な和紙の産地であり、水引の原紙や生水引など加工前の製品の生産が多い。こちらも近世の元結の生産から始まっており、明治以降に水引製造の技術を発展させ、産業の基盤を作った。なお、現在の金封の形態は、伊予の業者が、戦時中に出征兵士へ金銭を包んだ封筒に水引を結んだことが始まりとされている²⁰。

ヒアリング調査によれば、京都市や金沢市は、都市部の労賃上昇により次第に規模を縮小させ、現在、京都市では金銀水引や結納品関連の加工、金沢市では結納品を中心とした水引製品の生産・加工が小規模に行われているのみとなっている。

水引生産の加工の中心地となっている飯田市では、原材料（一部生水引を含む）を四国中央市などから購入し、生水引を生産、金封や結納用品、正月飾りなどに加工・販売している。

飯田市では、水引加工の内職はかつて地域の農家の重要な資金源として位置付けられ、最盛期には4千人から5千人の内職者が働いていたが、コストの面から次第に中国、ベトナムへと海外製造への切り替えが進み、現在では加工のほとんどをベトナムの工場で行っている。急ぎの加工に対応するための国内の内職のラインも一部残ってはいるが、生産量における比率は5%に満たない。

（４）課題

飯田水引協同組合へのヒアリングによれば、水引産業の課題として、市場の縮小が懸念されている。水引の市場は、戦後高度成長期に急激に拡大したものの、バブル期以降縮小し続けている。これに対応するため、現在、水引の業界では、各種の飾り物やギフト用品の開発が積極的に行われている。また、水引を素材としたクラフト活動も広まりつつあり、市場の拡大に一定の寄与をしているものの、まだ大きな柱にはなっていないとのことであった。

製造面では、海外生産における課題が指摘されている。一つは水引の加工を行っているベトナムで、雇用がハイテク産業に移行してしまい、人手不足となっていることである。加えて、原材料の紙、生水引、水引製品、梱包まで全てを海外に委託してしまう流れが強くなってきており、国内の水引製造産業の更なる空洞化が懸念されている。

19 飯田市における水引の製法や産業の歴史の記述については、塩沢正人「地場産業としての水引製造業の地域的展開 長野県飯田・下伊那地方の例」(『新地理』30巻4号 日本地理教育学会、昭和58年 p.17-31)を参照した。昭和55年の水引製品の出荷高についてもこの論文を参照した。

20 淡野寧彦、井坂万由「愛媛県四国中央市における水引産業の存続形態」(『愛媛大学社会共創学部紀要』第3巻第2号 愛媛大学社会共創学部、令和元年 p.25-38)を参照した。

参考資料 国民意識調査 調査票

(1) 属性

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つ)

1. 男
2. 女
3. それ以外/答えたくない

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つ)

1. 18歳未満
2. 18～19歳
3. 20代
4. 30代
5. 40代
6. 50代
7. 60代
8. 70代以上

F 3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(1つ)

1. 北海道
2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県
8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県
15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県
31. 鳥取県
32. 島根県
33. 岡山県
34. 広島県
35. 山口県
36. 徳島県
37. 香川県
38. 愛媛県
39. 高知県
40. 福岡県
41. 佐賀県
42. 長崎県
43. 熊本県
44. 大分県
45. 宮崎県
46. 鹿児島県
47. 沖縄県

F 4 あなたの仕事をお答えください。(1つ)

1. 正規の職員・従業員(役員を含む)
2. 非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
3. 自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
4. 家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
5. 主婦・主夫
6. 学生
7. リタイア、無職
8. その他

F 5 あなたと同居している人の状況をお答えください。(1つ)

1. ひとり暮らし(同居している家族はいない)
2. 核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
3. 三世帯家族(親・子・孫の3世帯以上が同居)
4. 上記以外で同居している人がいる

F 6 昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(1つ)

1. 100万円未満
2. 100万円以上～200万円未満
3. 200万円以上～300万円未満
4. 300万円以上～400万円未満
5. 400万円以上～500万円未満
6. 500万円以上～600万円未満
7. 600万円以上～700万円未満
8. 700万円以上～800万円未満
9. 800万円以上～900万円未満
10. 900万円以上～1,000万円未満
11. 1,000万円以上
12. 分からない

F 7 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(1つ)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高校・旧制中学校
4. 短大・高専
5. 大学
6. 大学院
7. その他

F 8 あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

1. 楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)
2. バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)
3. 美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)
4. 伝統芸能や茶道・華道等の芸事
5. 囲碁や将棋
6. 書道・習字・ペン字、そろばん
7. スポーツ・武道
8. その他(具体的に:)
9. していない

(2) フィルタリング・パート

F Q 1 煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 2 香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫 (たきもの) を、一定の作法に従って焚 (炷) (た)き、その香りを鑑賞する (=「聞く」、日本の伝統的な生活文化のこと)をいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 3 和装について

この調査の「和装」とは、着物 (和服、浴衣も含む) の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等 (例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等) の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 着物を自分で着付けている (いた)、あるいは人に着付けている (着付けたことがある)
2. 自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている (着たことがある)
3. 今まで着物を着たことはない

F Q 4 礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
3. 今まで経験したことはない

FQ5 盆栽について

この調査の「盆栽」とは、植木鉢等の盆器（ぼんき）等に樹木を植え付け、姿形に手を加えながら年数をかけて育てていくものをいいます。なお、小品盆栽やツツジ盆栽も含まれます。

あなたは、これまでに盆栽を育てたことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（1つ）

1. 盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）
2. イベント等で盆栽体験をしたことはある
3. 盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない

FQ6 錦鯉について

この調査の「錦鯉」とは、色や模様のある観賞用のコイのことをいいます。

あなたは、これまでに錦鯉を飼育したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（1つ）なお、飼育には、預かり飼育を含みます。

1. 錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）
2. イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある
3. 今まで錦鯉の飼育をしたことはない

（3）分野設問

①煎茶道

●煎茶道を習っている（習っていた）者に対する質問（FQ1で1に回答）

煎茶道1 あなたが煎茶道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。

（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道 2 あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他(具体的に:)

煎茶道 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

煎茶道 3 現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

煎茶道 3 補問 1 あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

煎茶道3補問2 あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他(具体的に:)

煎茶道4 あなたが煎茶道を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。

(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

煎茶道5 あなたの現在の煎茶道の活動内容(かつて行っていた内容)について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 教室や稽古場で習っている(いた)
2. カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)
4. 指導者や教授者として教えている(いた)
5. その他(具体的に:)

煎茶道6 あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています(いました)か。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度

5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

煎茶道7 あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

煎茶道8 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（FQ1で2に回答）

煎茶道9 あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道 10 あなたはどのような場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。
（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

煎茶道 11 あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすい
と思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

煎茶道 12 もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中から
お選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満

9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

煎茶道 13 あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

煎茶道 14 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 15 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流

6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（F Q 1で3に回答）

煎茶道 16 もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
3. 煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17 あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

煎茶道 18 あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない

9. その他（具体的に： ）

煎茶道 19 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 20 煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（FQ2で1に回答）

香道 1 あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した

5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道2 あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

香道2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

香道3 現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

香道3 補問1 あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい

5. 香席で聞く香木等の香りが心地よい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

香道3 補問2 あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

香道4 あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

香道5 あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

香道6 あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢

の中からお選びください。(1つ)

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

香道7 あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています(いました)か。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

香道8 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等を焚きその香りを楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（F Q 2で2に回答）

香道 9 あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道 10 あなたはどのような場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

香道 11 あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

香道 12 もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

香道 13 あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に：)

香道 14 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

香道 15 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（FQ2で3に回答）

香道 16 もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 香道の歴史や意義を教えてくれる
3. 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

香道 17 あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

香道 18 あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

香道 19 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

香道 20 香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（F Q 3 で 1 に回答）

和装1 あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があるがあった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

和装2 あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 着付け教室で習っていた
5. 着付けや美容の専門学校で習っていた
6. その他（具体的に： ）

和装2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

和装3 現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 現在も着付けを行っている
2. 現在は着付けを行っていない

<上記で1と回答した方に>

和装3 補問1 あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

和装3 補問2 あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 着物の相談等ができる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
8. 着物を着ていくような場面や機会がなくなった
9. 着崩れする、動きにくい
10. 着付けに関する仕事を辞めた
11. その他(具体的に:)

和装4 あなたが着付けをしている(いた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満

5. 10～20 年未満
6. 20 年以上

和装5 あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか）。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 普段着として着物を着る時
2. 仕事着として着物を着る時
3. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
4. 初詣等の年中行事に参加する時
5. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
6. 仕事として、他者への着付けを依頼された時
7. 親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
8. その他（具体的に： ）

和装5 補問 他の方に着付けをしてもらう機会がありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 仕事着として着物を着る時
2. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
3. 初詣等の年中行事に参加する時
4. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
5. 着付けてもらうことはない
6. その他（具体的に： ）

和装6 あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

和装7 あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満

3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 8 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問 (FQ3で2に回答)

和装 9 あなたが着物を着た(着せてもらった)きっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
4. 学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があるがあった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

和装 10 あなたはどのような場で着物を着ましたか(着せてもらい)ましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

2. 初詣等の年中行事
3. 観劇の際や茶会等の催事
4. 旅行先の観光地
5. 学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
6. 自宅
7. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
8. その他（具体的に： ）

和装 11 あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

和装 12 もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 13 あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった

2. 通しやすい場所に着付け教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 着付け教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

和装 14 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

和装 15 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（F Q 3 で 3 に回答）

和装 16 もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
2. 基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
3. 着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
4. 着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
5. 普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
6. その他（具体的に： ）
7. 上記の中で当てはまるものはない

和装 17 あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
2. 旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

和装 18 あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に 관심이向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

和装 19 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他(具体的に:)
11. 特に印象はない、わからない

和装 20 和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている(習っていた)者に対する質問(FQ4で1に回答)

礼法 1 あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があつた

7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法2 あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

礼法2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

礼法3 現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

礼法3 補問1 あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる

6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

礼法3 補問2 あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

礼法4 あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

礼法5 あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

礼法6 あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

礼法7 あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

礼法8 あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（F Q 4で2に回答）

礼法9 あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法10 あなたはどのような場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

礼法11 あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

礼法 12 もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

礼法 13 あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

礼法 14 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

礼法 15 あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（F Q 4で3に回答）

礼法 16 もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
2. 礼法の歴史や意義を教えてくれる
3. 礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

礼法 17 あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

礼法 18 あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

礼法 19 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

礼法 20 礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（FQ5で1に回答）

盆栽1 あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

盆栽2 あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 盆栽園で教えてもらっていた
5. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
6. ウェブサイトやYouTube等を見て学んでいた
7. その他（具体的に： ）

盆栽2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
8. 本格的にやってみたかった
9. 手軽にやってみたかった
10. その他（具体的に： ）

11. 特に理由はない、わからない

盆栽3 現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

盆栽3 補問1 あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 盆栽に愛着が湧いた(盆栽を育てるのが純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(盆栽を育てることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

盆栽3 補問2 あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
3. 手入れ等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 盆栽園を閉鎖した
9. その他(具体的に:)

盆栽4 あなたが盆栽を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満

4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

盆栽5 あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
2. 盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
3. 盆栽を盆栽展に出品している（いた）
4. 盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
5. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
6. 盆栽園を営んでいる（いた）
7. 講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
8. その他（具体的に： ）

盆栽6 あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

盆栽7 あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満

11. 50,000 円以上

盆栽 8 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問(FQ5で2に回答)

盆栽 9 あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

盆栽 10 あなたはどのような場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 文化施設等で行われた体験イベント
4. 自宅
5. 自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
6. その他(具体的に:)

盆栽 11 あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に育てることができたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 育て方や剪定の仕方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
7. その他(具体的に:)
8. わからない

盆栽 12 もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

盆栽 13 あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
8. 盆栽を育てて管理できる場所がない
9. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10. 自分の趣味と合わない

11. その他（具体的に： ）

盆栽 14 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

盆栽 15 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（FQ5で3に回答）

盆栽 16 もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
2. 盆栽の歴史や意義を教えてくれる
3. 盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

盆栽 17 あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他(具体的に:)
10. わからない

盆栽 18 あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

盆栽 19 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他(具体的に:)

11. 特に印象はない、わからない

盆栽 20 盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問(FQ6で1に回答)

錦鯉 1 あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 2 あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
3. 養鯉場で教えてもらっていた
4. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
5. ウェブサイトやYouTube等を見て学んでいた
6. その他(具体的に:)

錦鯉2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 通いやすい時間帯だった
5. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
6. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
7. 本格的にやってみたかった
8. 手軽にやってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

錦鯉3 現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

錦鯉3 補問1 あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 養鯉場を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 錦鯉に愛着が湧いた(飼育が純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(飼育や観賞をすることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

錦鯉3 補問2 あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
3. 飼育等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった

6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 養鯉場を閉鎖した
9. その他（具体的に： ）

錦鯉4 あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。

（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

錦鯉5 あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等の池で飼育している（いた）
2. 自宅等の水槽で飼育している（いた）
3. 養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
4. 錦鯉の品評会に出品している（いた）
5. 錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
6. その他（具体的に： ）

錦鯉6 あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

錦鯉7 あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満

3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 8 あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問 (F Q 6 で 2 に回答)

錦鯉 9 あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 10 あなたはどのような場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
2. 学校や職場で飼育されていた
3. 公園や庭園、文化施設等でのイベント
4. 自宅
5. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

6. その他（具体的に： ）

錦鯉 11 あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に飼育できたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
4. 飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
5. その他（具体的に： ）
6. わからない

錦鯉 12 もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満
3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 13 あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 生物の扱いが難しいと思う
8. 錦鯉を飼育できる場所や設備がない
9. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
10. 自分の趣味と合わない
11. その他（具体的に： ）

錦鯉 14 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 15 あなたが錦鯉の飼育に関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（FQ6で3に回答）

錦鯉 16 もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
2. 錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
3. 錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しむのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17 あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら

4. 公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
5. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. その他（具体的に： ）
8. わからない

錦鯉 18 あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

錦鯉 19 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 20 錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様

60. 洋舞、社交ダンス	61. 学習・調べもの	62. 読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
63. ファッション（楽しみとしての）		

娯楽

64. 囲碁	65. 将棋	66. トランプ、オセロ、カルタ、花札など
67. カラオケ	68. テレビゲーム（家庭での）	69. ゲームセンター、ゲームコーナー
70. ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	71. 麻雀	72. ビリヤード
73. パチンコ	74. 宝くじ	75. サッカーくじ (toto)
76. 中央競馬	77. 地方競馬	78. 競輪
79. ボートレース（競艇）	80. オートレース	81. 外食（日常的なものは除く）
82. バーベキュー	83. バー、スナック、パブ、飲み屋	84. クラブ、キャバレー
85. ディスコ	86. サウナ	87. 温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）

観光・行楽

88. 遊園地	89. ドライブ	90. ピクニック・ハイキング・野外散歩
91. 登山	92. オートキャンプ	93. フィールドアスレチック
94. 海水浴	95. 動物園、植物園、水族館、博物館	96. 催し物、博覧会
97. 帰省旅行	98. 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	99. 海外旅行

その他

100. 複合ショッピングセンター、アウトレットモール	101. ウィンドウショッピング	102. クルージング（客船による）
103. エステティック、ホームエステ	104. ペット（遊ぶ、世話をする）	105. 農園（市民農園など）
106. ボランティア活動	107. SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	108. ヨガ、ピラティス
109. 自由記述（具体的に：）	110. 特に何もしていない	

※上記の選択肢は『レジャー白書2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。
(1つ)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 5,000円未満 | 2. 5,000円以上～10,000円未満 |
| 3. 10,000円以上～15,000円未満 | 4. 15,000円以上～20,000円未満 |
| 5. 20,000円以上～25,000円未満 | 6. 25,000円以上～30,000円未満 |
| 7. 30,000円以上～35,000円未満 | 8. 35,000円以上～40,000円未満 |
| 9. 40,000円以上～45,000円未満 | 10. 45,000円以上～50,000円未満 |
| 11. 50,000円以上 | |

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(いくつでも)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 2. 平日午後 | 3. 平日夕方 | 4. 平日夜間 |
| 5. 休日午前 | 6. 休日午後 | 7. 休日夕方 | 8. 休日夜間 |

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。
(1つ)

- | | | |
|------------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上～5時間未満 | 6. 5時間以上～6時間未満 |
| 7. 6時間以上～7時間未満 | 8. 7時間以上～8時間未満 | 9. 8時間以上～9時間未満 |
| 10. 9時間以上～10時間未満 | 11. 10時間以上 | |

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(いくつでも)

1. 自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
2. 周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
3. チャンスと感じたら逃したくない
4. リスクはできるだけ避けたい
5. 家族や友人・知人の役に立ちたい
6. 環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
7. 困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
8. 周りの人から注目されたい
9. 集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10. その時・その場でしか得られない体験をしたい
11. 流行りのものは試してみたい
12. 流行っていないけど、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13. 買ったものや、気持ちを発信したい
14. 自分が発信したものに反応が欲しい
15. 上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和3年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問6の選択肢を引用したものである。

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(いくつでも)

1. テレビ（民放の地上波・BS）
2. テレビ（NHKの地上波・BS）
3. CATVや衛星放送のチャンネル
4. ラジオ（インターネット経由を除く）
5. 新聞（電子版含む）
6. 雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）
7. インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）
8. 動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）
9. SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook、noteなど）
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ／マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど）
15. 上記のメディアはあまり見ていない

参考資料 礼法団体・流派調査アンケート配布先

No.	団体名
1	小笠原流礼法宗家本部
2	特定非営利活動法人小笠原流・小笠原教場
3	安藤家御家流

令和5年度「生活文化調査研究事業（礼法）」報告書

発行日 令和6年5月31日

修正版発行日 令和8年2月28日

発行 文化庁 参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4

〈受託事業者〉

株式会社 文化科学研究所

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F
